らくらく電子取引

SQL Server2022 インストールと設定手順書

V1L10

第 1.4 版

株式会社豊里システムソリューション

はじめに

本書は、らくらく電子取引で使用する Microsoft SQL Server2022 Express のインストールと環境設定を行うための手順を記載しています。

SQL Server は、Windows Server 2022 または Windows10/Windows11 のいずれかにインストールします。

本書は、SQL Server 2022 Express エディションを中心に記載していますが、SQL Server 2022 Standard エディションでも概ね同様です

らくらく電子取引については、下記のサイトを参照願います。
https://www.tssol.jp/products/eDocBiz/

動作環境

らくらく電子取引で使用する Microsoft SQL Server 2022 Express エディションをインストールする PC の動作環境は以下の通です。

らくらく電子取引をスタンドアーロン（1台のみで運用する）または、最大で3台までの PC で運用する場合は、Windows PC にインストールすることができます。

この場合、Microsoft SQL Server 2022 Express エディションをインストールする PC は、1台のみにインストールします。

・Windows PC の OS：Windows10 または Windows11

4台以上の PC で運用する場合は、Microsoft SQL Server 2022 Express のインストールは、Windows Server 2022 Standard Edition にインストールします。従って、この場合は専用のサーバ機が必要となります。

・サーバ機の OS：Windows Server 2022 Standard Edition

SQL Server 2022 Express Edition がインストール済の場合

らくらく電子取引で使用するデータベースのインスタンス名は、らくらく電子取引専用の「RAKURAKU」を使用します。

従って、既に Microsoft SQL Server 2022 Express Edition がインストールされていても、インスタンスの新規インストールとしてインストールする必要があります。なお、この場合のインストール手順も本書の手順書に従ってインストールします。

更新履歴

版数	日付	変更内容	対象項
初版	2023/1/19		
1.4	2023/9/25	Windows 認証から SQL Server 認証変更手順を追記	6.5

目次

1. 設定内容 5
2. SQL Server2022 Express のインストール 6
2.1 ダウンロード 6
2.2 インストール 9
3. TCP1433 ポートと UDP1434 を解放する 18
4. TCP/IP を有効にする 23
5. SQL Server Management Studio をインストールする 31
6. SQL Server の設定 34
6.1 Windows 認証でログインできるか確認します。 34
6.2 サーバの認証方法を Windows 認証から SQL 認証に変更する 35
6.3 リモート接続が許可されている事を確認します。 37
6.4 新しいログイン名の作成 38
6.5 ログインで、エラー 18456 でログインできない場合の対処 42
6.6 新しいデータベースの作成 44
6.7 テーブルを作成する 47
6.8 データベースユーザを作成する 50
6.9 セキュリティ可能なリソースを設定する 52
6.10 データベースユーザに、sysadmin ロールを付与する 57
6.11 データベースがリモート接続可能な設定を行なう 58
7. テーブル仕様 60
8. 添付資料 62
8.1 データベース作成用 SQL スクリプト 62
8.2 検索キーデータテーブル作成用 SQL スクリプト 66
8.3 利用者情報テーブル作成用 SQL スクリプト 67
8.4 ログテーブル作成用 SQL スクリプト 68

1. 設定内容

SQL Server の設定内容を、以下まとめて記す。
次項以降、この設定を行うための SQL Server2022 のインストール手順、ならびに設定の詳細手順について記す。

設定項目	設定値
インスタンス名	RAKURAKU
リモート接続用ポート	TCP:1433
	UDP:1434
認証モード	混合認証
DB 接続時のログイン ID	eDocBiz
パスワード	eDocBiz!admin
データベース名	eDocBizdb
データベースの場所	C:¥eDocBizdb
初期値の容量[MB]	256MB
増分値[MB]	64MB 単位で無制限
検索キーデータテーブル 利用者情報管理テーブル ログテーブル	tbl_DocRegdb tbl_UserAccount tbl_Log

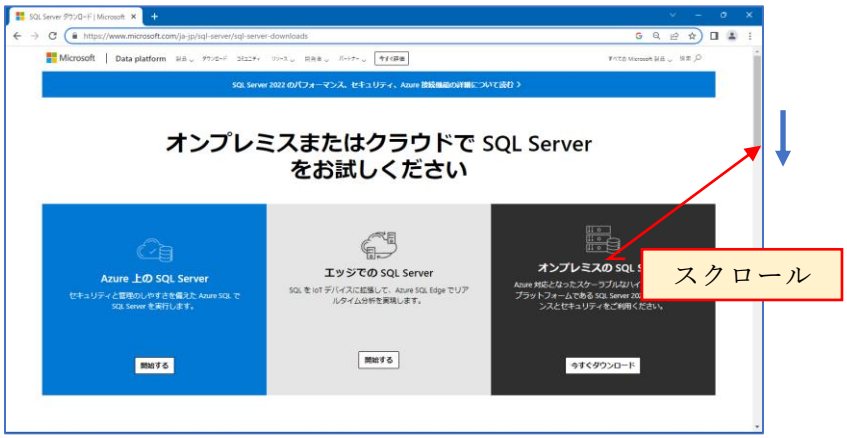
2. SQL Server2022 Express のインストール

既に SQL Server の他のエディション、または、SQL Server 2022 Express がインストールされている場合でも、新規にインスタンス名 RAKURAKU のインストールをする必要があるため、この章の実行は省略することができません。

2.1 ダウンロード

Microsoft の下記のダウンロードサイトを開きます

https://www.microsoft.com/ja-jp/sql-server/sql-server-downloads



画面を下方にスクロールして、Express のダウンロードボタンを表示します。

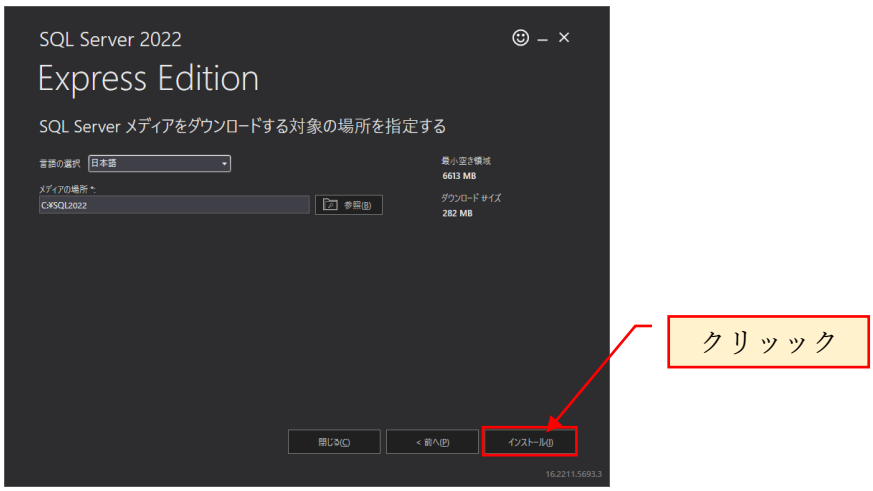
Express の下の「今すぐダウンロード」をクリックすると、ダウンロードフォルダに SQL2022-SSEI-Expr.exe というインストール用プログラムがダウンロードされます。

ダウンロードフォルダの SQL2022-SSEI-Expr.exe を実行するか、または、画面左下に表示されている SQL2022-SSEI-Expr をクリックします。

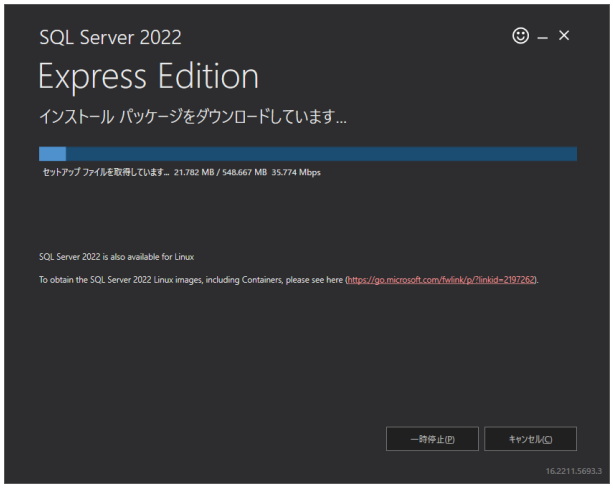
ユーザアカウント制御の警告メッセージ「このアプリがデバイスに変更を加えることを許可しますか？」と表示されるので「はい」を応答します。
下記の画面が表示されます。

「カスタム」をクリックします。

SQL Server インストールメディアのダウンロード先は標準とし、変更せずに「インストール」をクリックします。



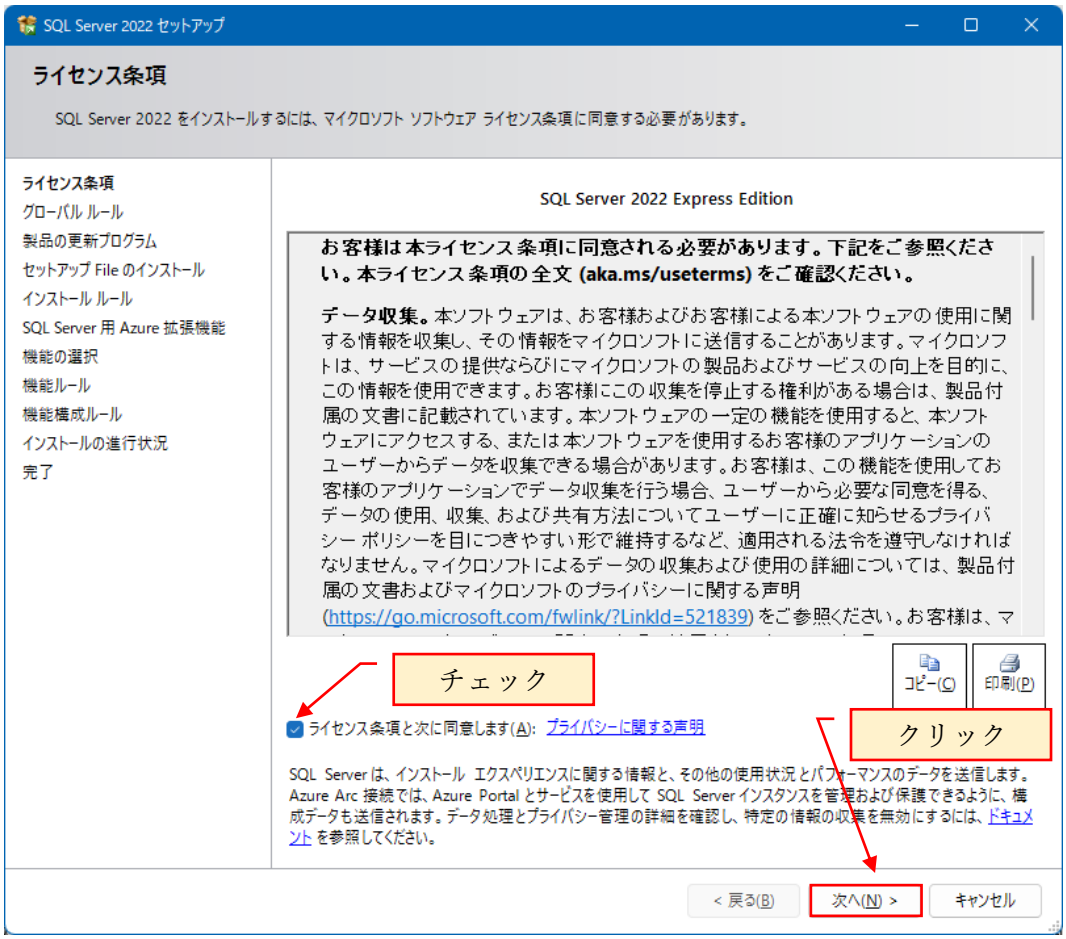
「インストールパッケージをダウンロードしています」と表示されます。

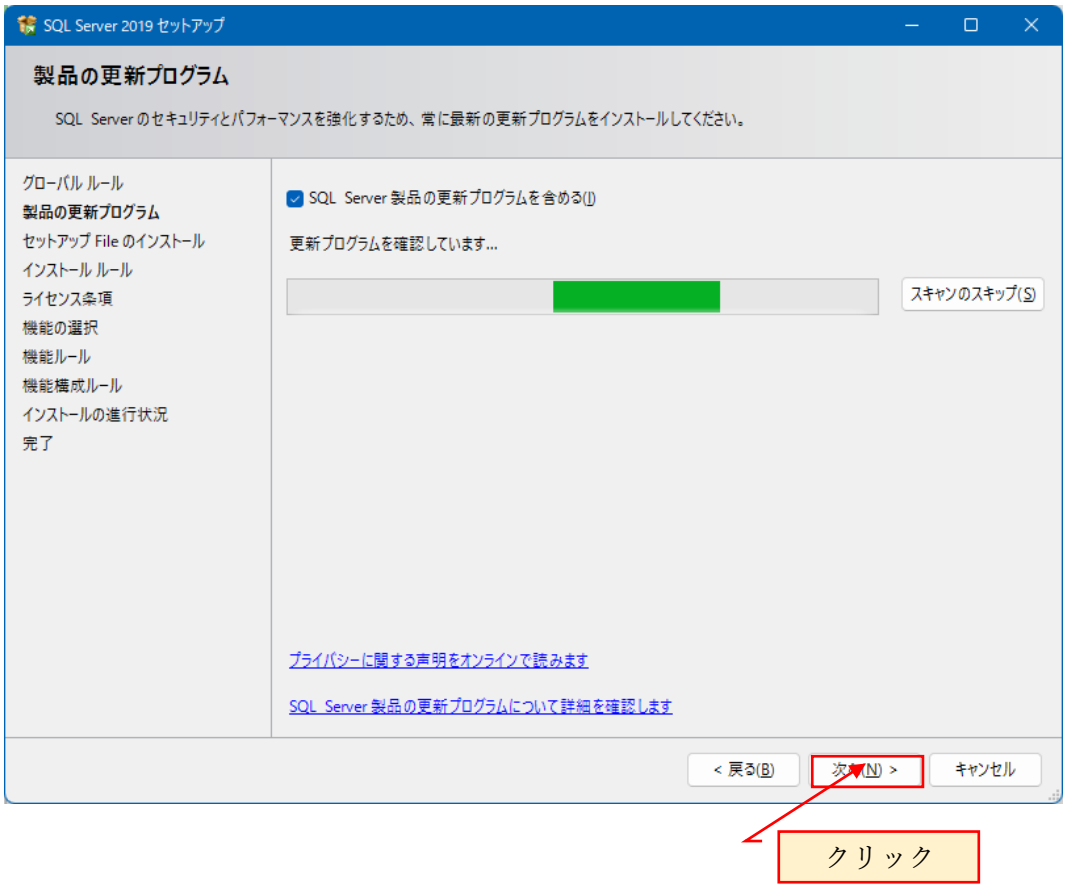


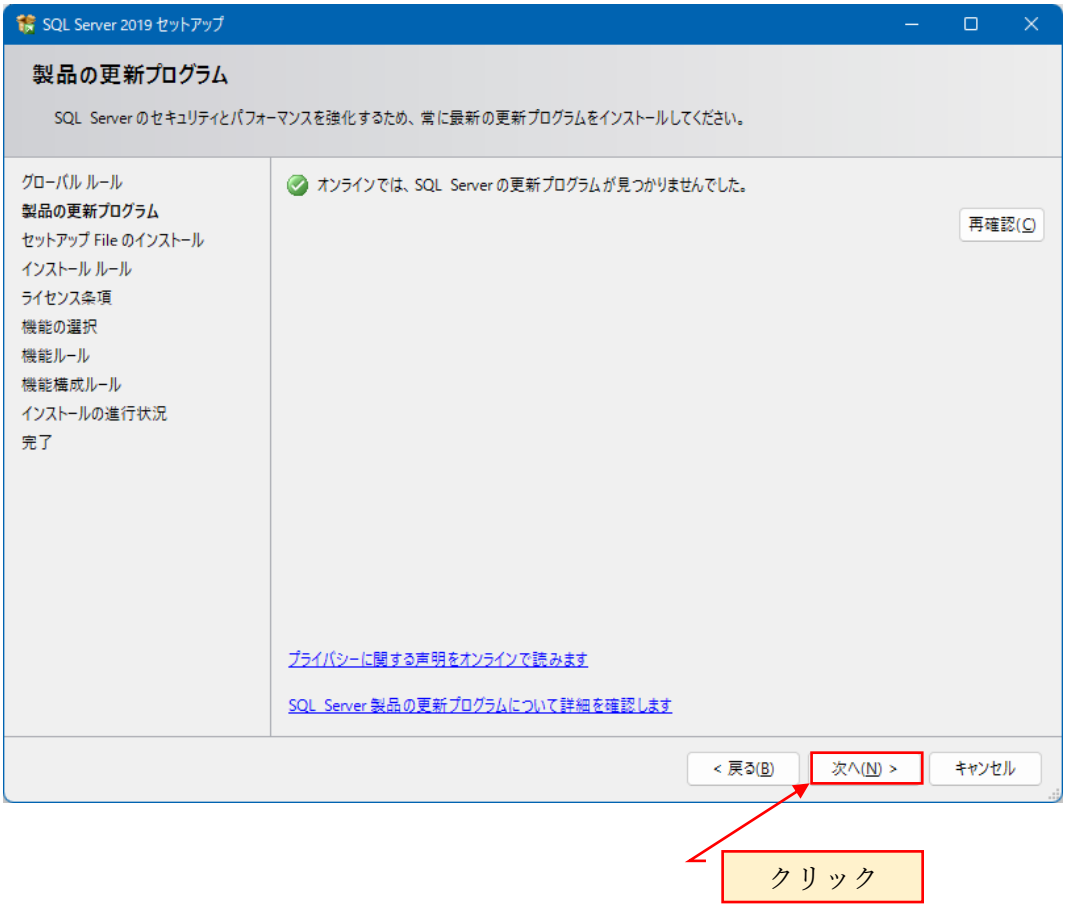
インストールパッケージのダウンロードが完了すると、自動的に下記の SQL Server インストールセンターが表示されます。

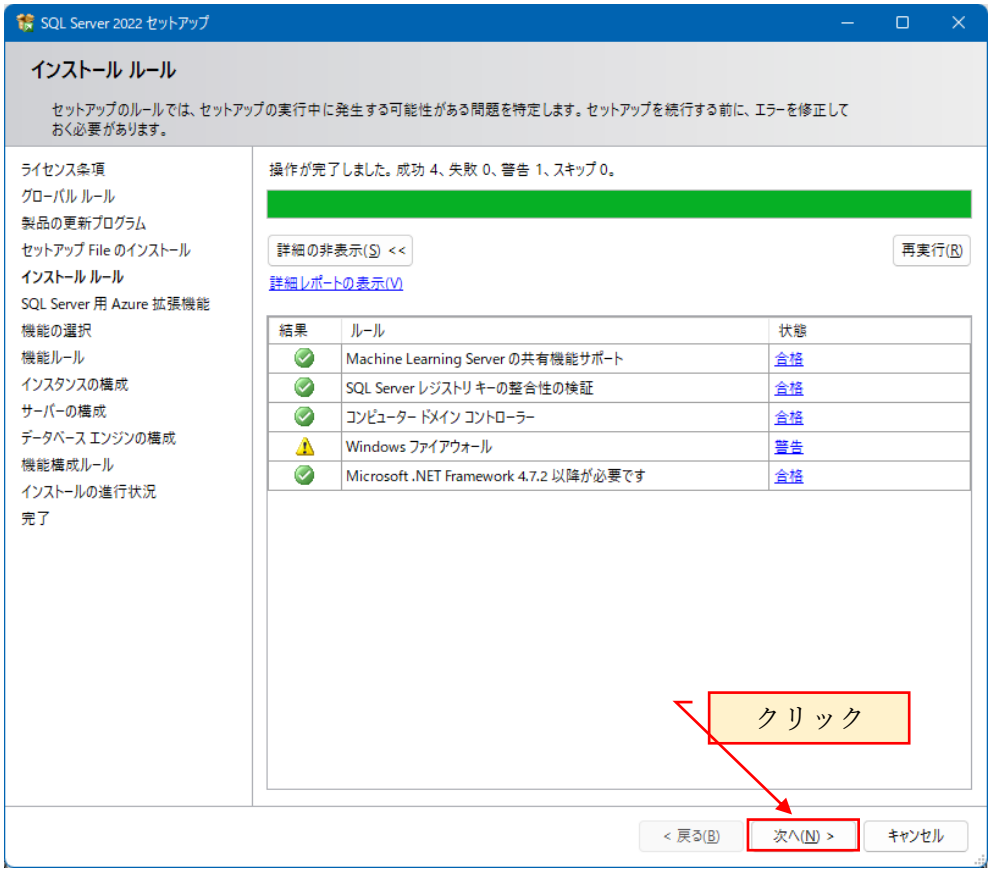
2.2　インストール

※下記画面の内容は、SQL Server のバージョンによって異なる場合があります。

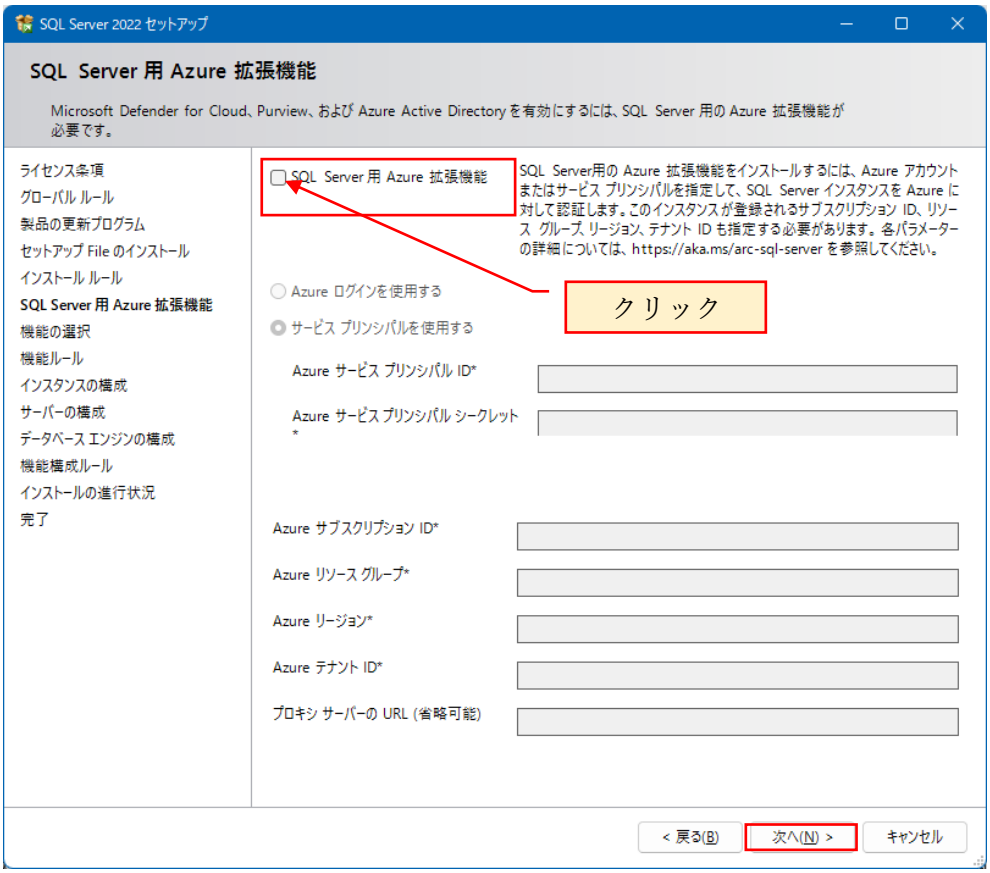



SQL Server 2019 セットアップ
製品の更新プログラム
SQL Server のセキュリティとパフォーマンスを強化するため、常に最新の更新プログラムをインストールしてください。
グローバル ルール
製品の更新プログラム
セットアップ File のインストール
インストール ルール
ライセンス条項
機能の選択
機能ルール
機能構成ルール
インストールの進行状況
完了
SQL Server 製品の更新プログラムを含める(I)
更新プログラムを確認しています...
スキャンのスキップ(S)
プライバシーに関する声明をオンラインで読みます
SQL Server 製品の更新プログラムについて詳細を確認します
< 戻る(B)
次へ(N) >
キャンセル
クリック

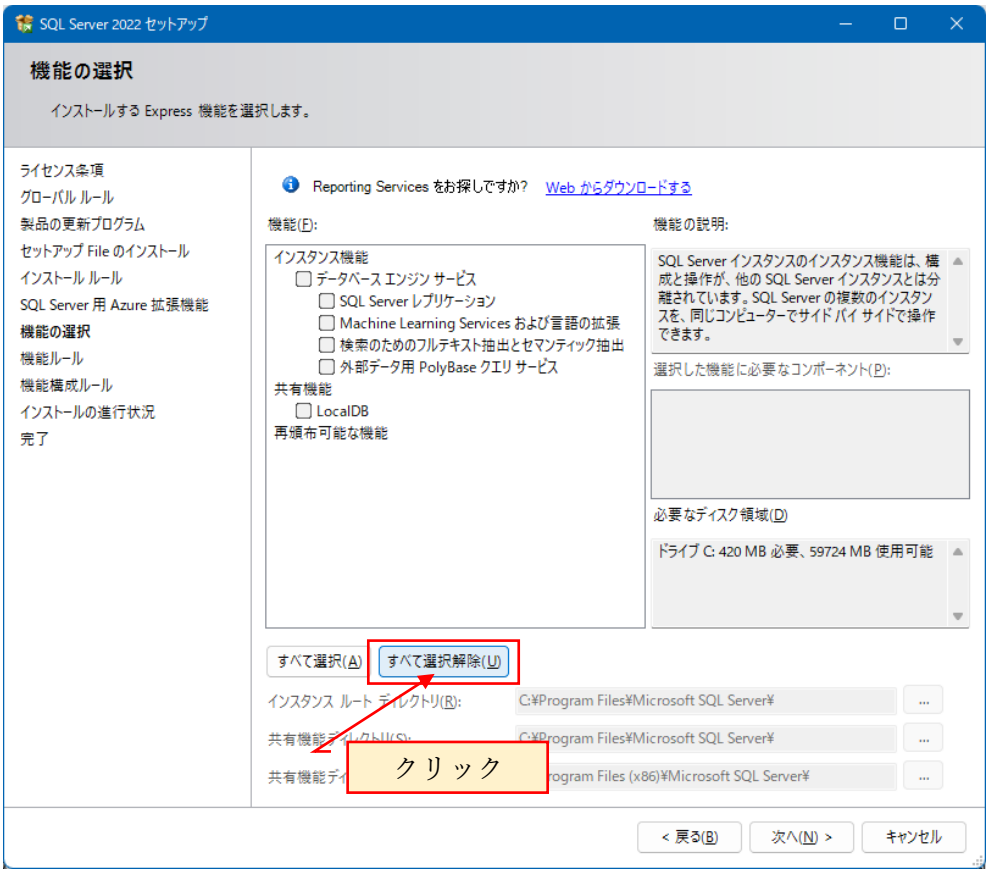

SQL Server 2019 セットアップ
製品の更新プログラム
SQL Server のセキュリティとパフォーマンスを強化するため、常に最新の更新プログラムをインストールしてください。
グローバル ルール
製品の更新プログラム
セットアップ File のインストール
インストール ルール
ライセンス条項
機能の選択
機能ルール
機能構成ルール
インストールの進行状況
完了
オンラインでは、SQL Server の更新プログラムが見つかりませんでした。
再確認(C)
プライバシーに関する声明をオンラインで読みます
SQL Server 製品の更新プログラムについて詳細を確認します
< 戻る(B)
次へ(N) >
キャンセル
クリック



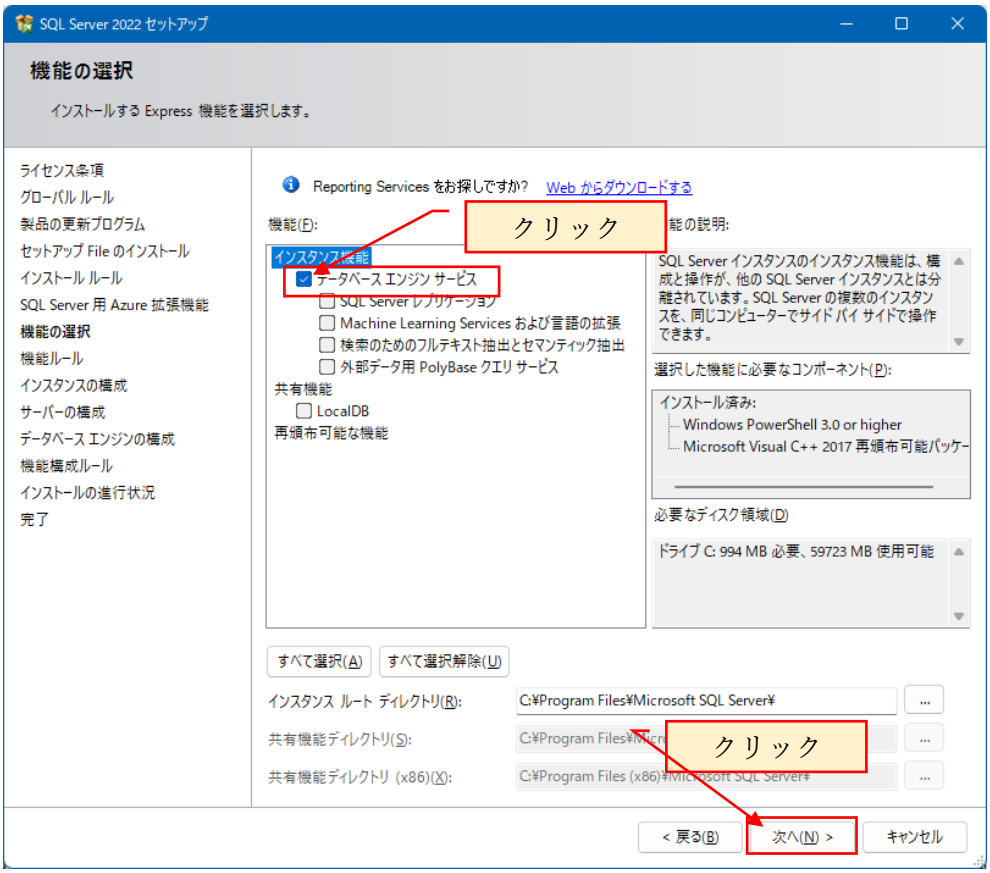
SQL Server 用 Azure 拡張機能のチェックを外す

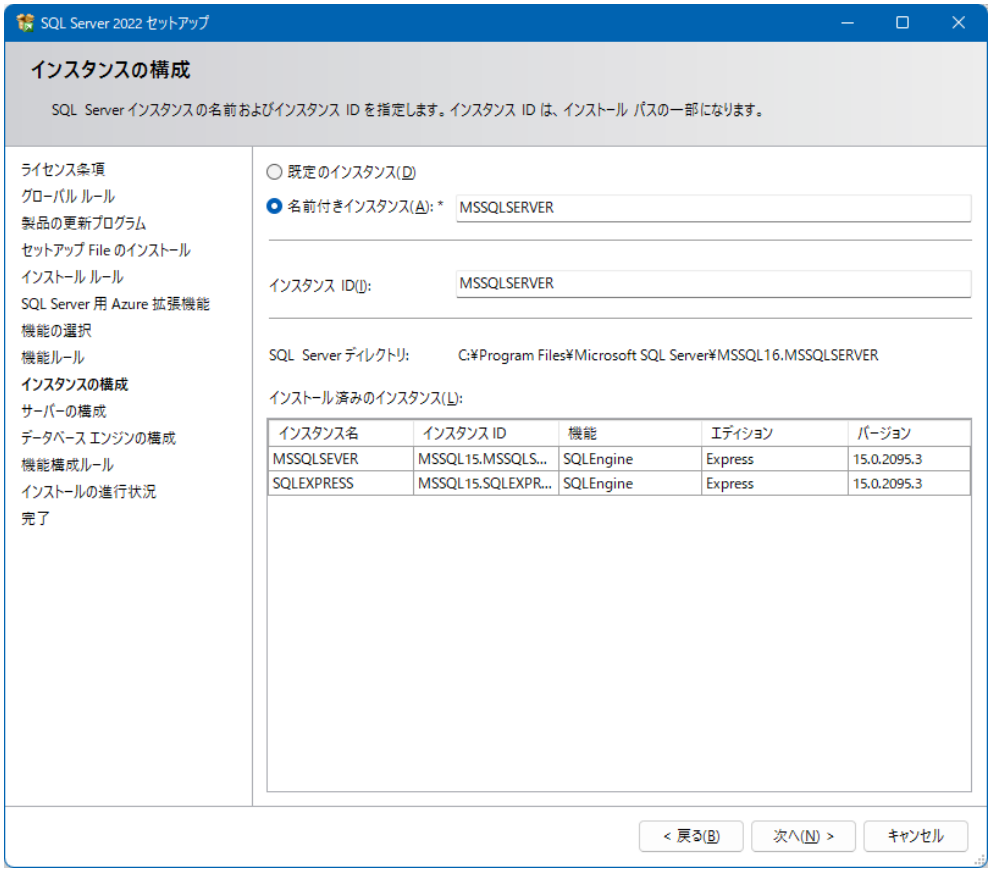


機能の選択で、「すべて選択解除」をクリックします。

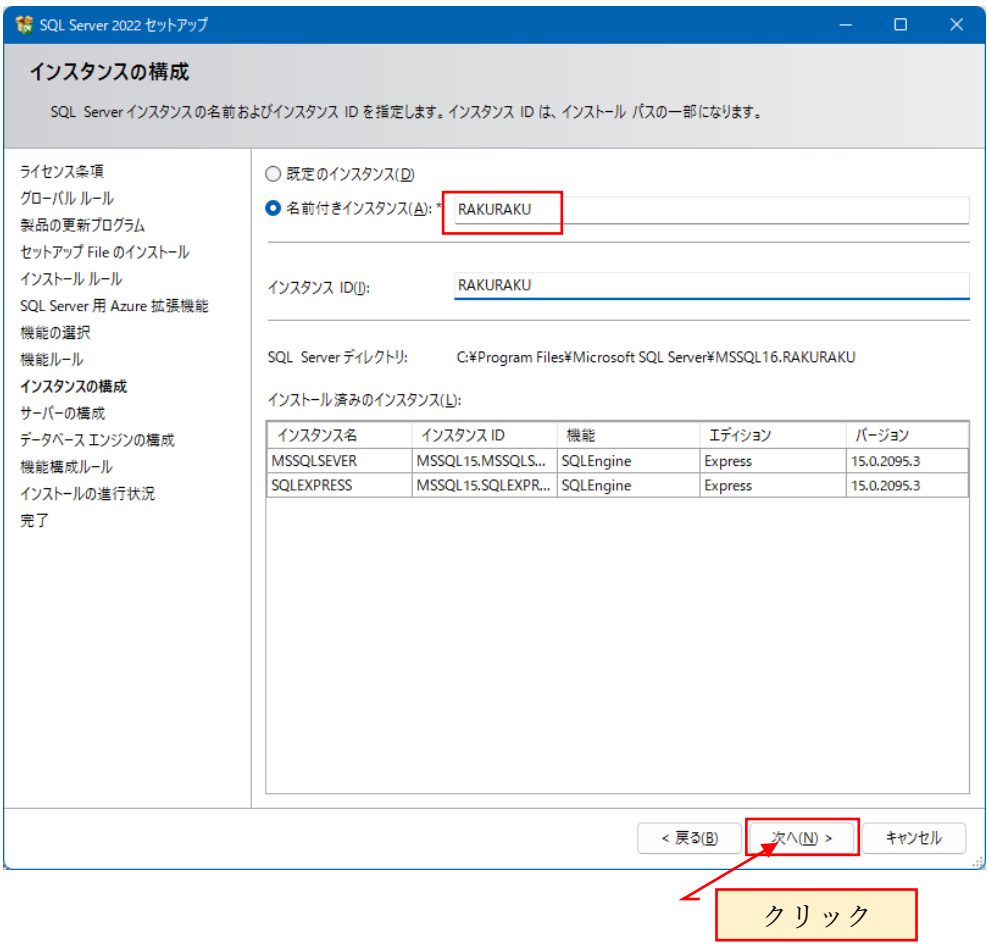


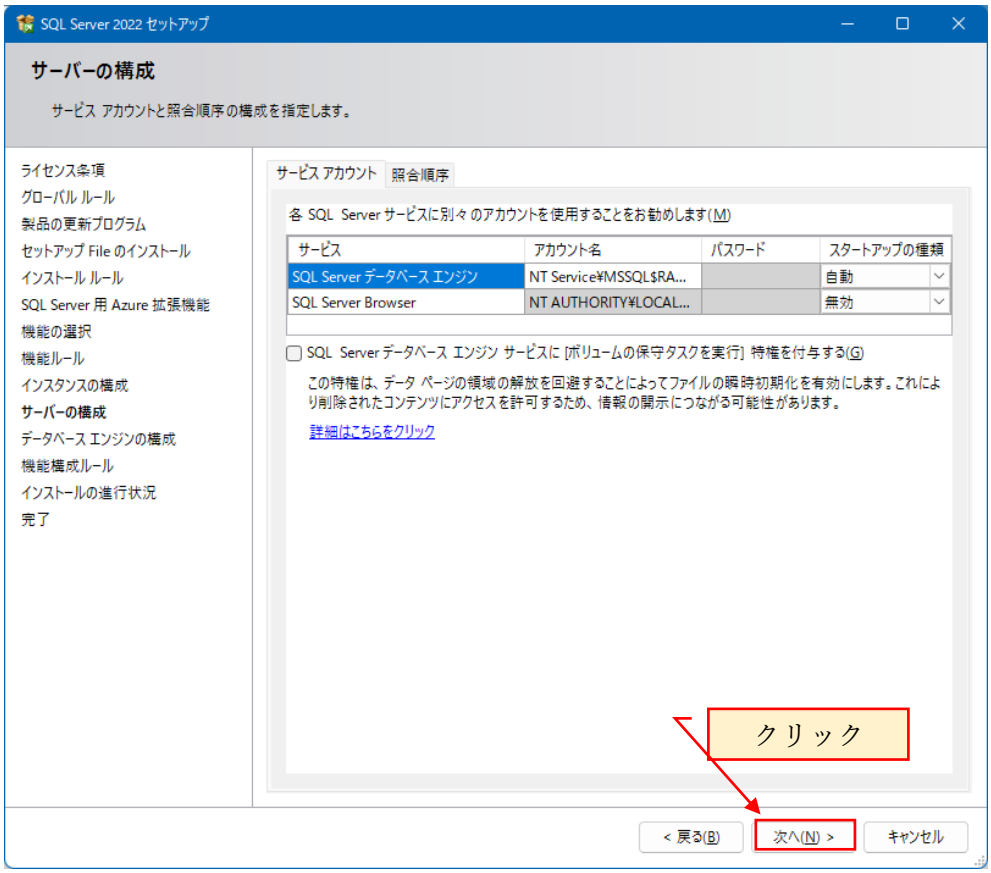
「データベースエンジンサービス」のみチェックを入れます。





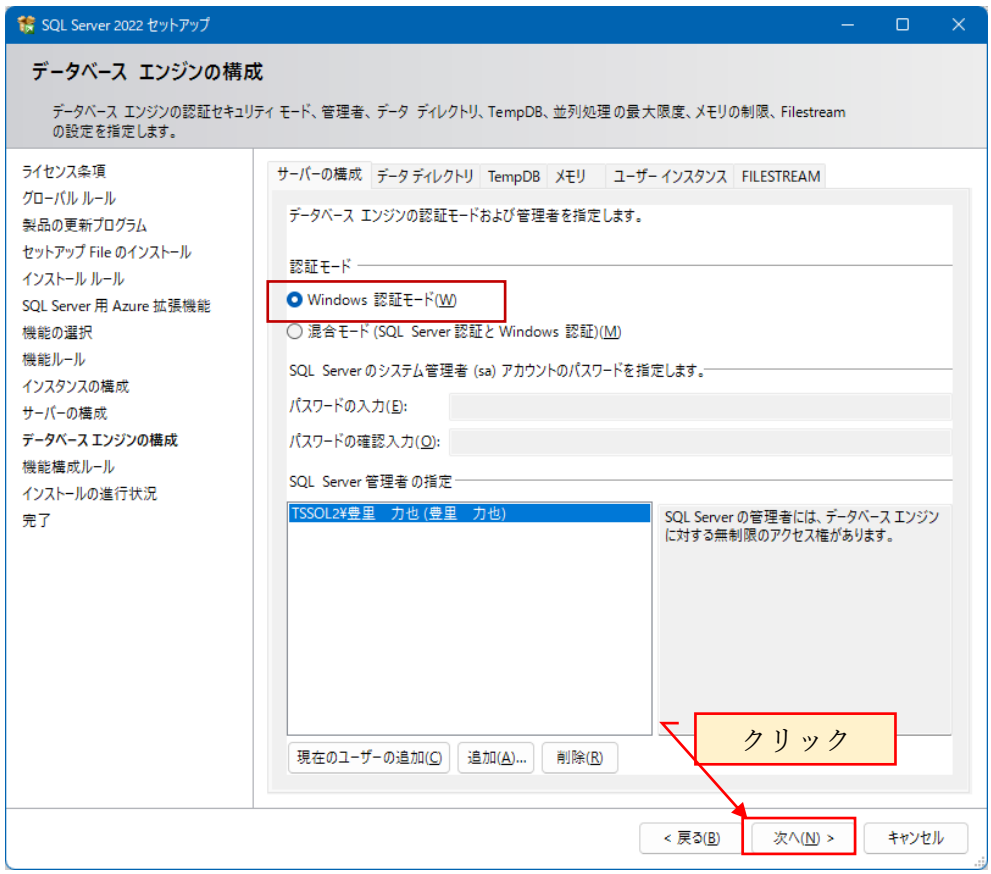
ここで、インスタンス名を MSSQLSERVER から RAKURAKU に変更します。

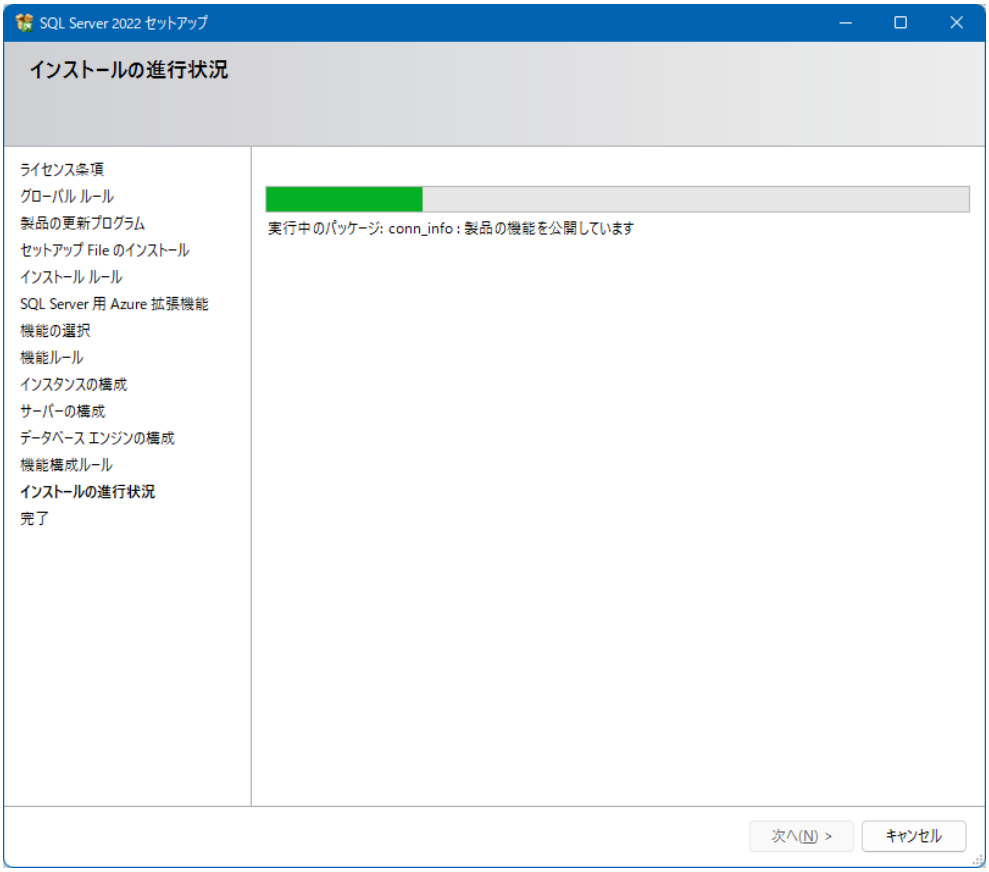


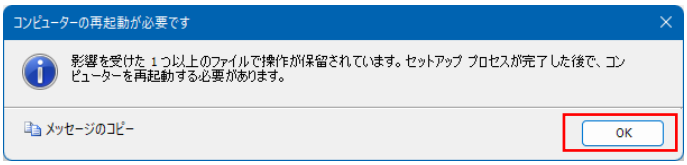


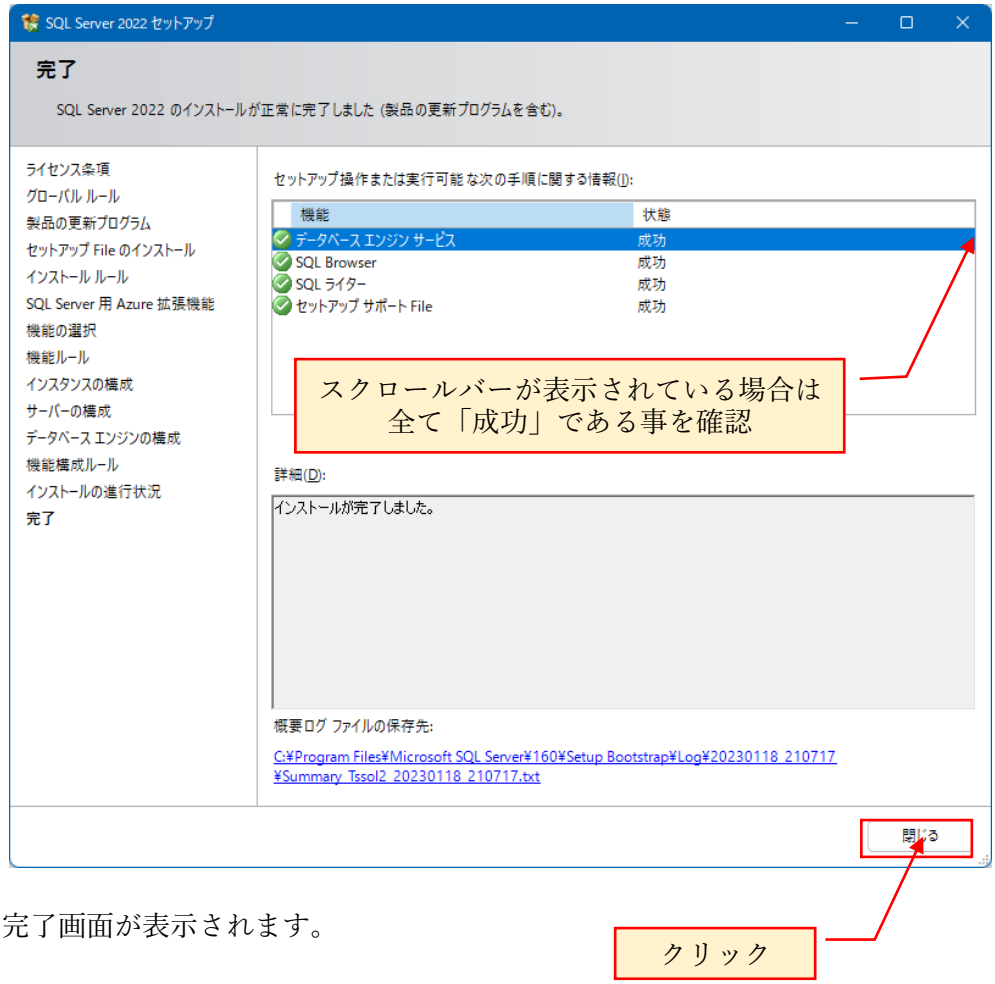
ここでは、Windows 認証のまま続行します。

SQL Server 認証への変更は新しいユーザの作成で行います。




SQL Server 2022 セットアップ
インストールの進行状況
ライセンス条項
グローバル ルール
製品の更新プログラム
セットアップ File のインストール
インストール ルール
SQL Server 用 Azure 拡張機能
機能の選択
機能ルール
インスタンスの構成
サーバーの構成
データベース エンジンの構成
機能構成ルール
インストールの進行状況
完了
実行中のパッケージ: conn_info : 製品の機能を公開しています
次へ(N) >
キャンセル


コンピューターの再起動が必要です
影響を受けた 1 つ以上のファイルで操作が保留されています。セットアップ プロセスが完了した後で、コンピューターを再起動する必要があります。
メッセージのコピー
OK



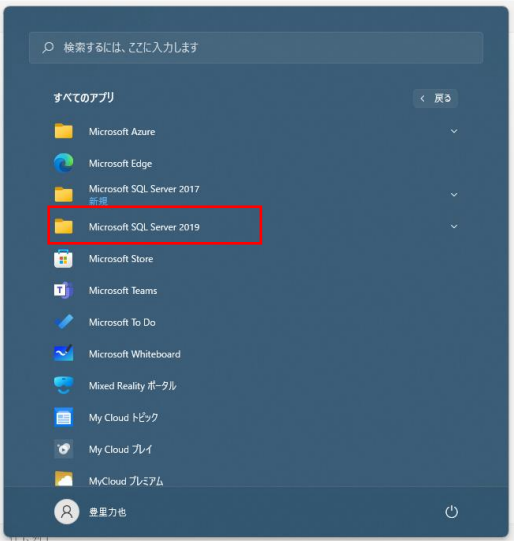
完了画面が表示されます。

クリック

表示される機能は、既に SQL Server がインストールされている環境か新規にインストールする環境下によって異なります。
インストールされた機能が全て「成功」となっている事を確認し、「閉じる」をクリックしてインストールを終了します。

インストールを完了するため、再起動します。

SQL Server がインストールされると、スタートメニューに表示されます。
スタートメニューに Microsoft SQL Server 2022 が表示されているかを確認します。



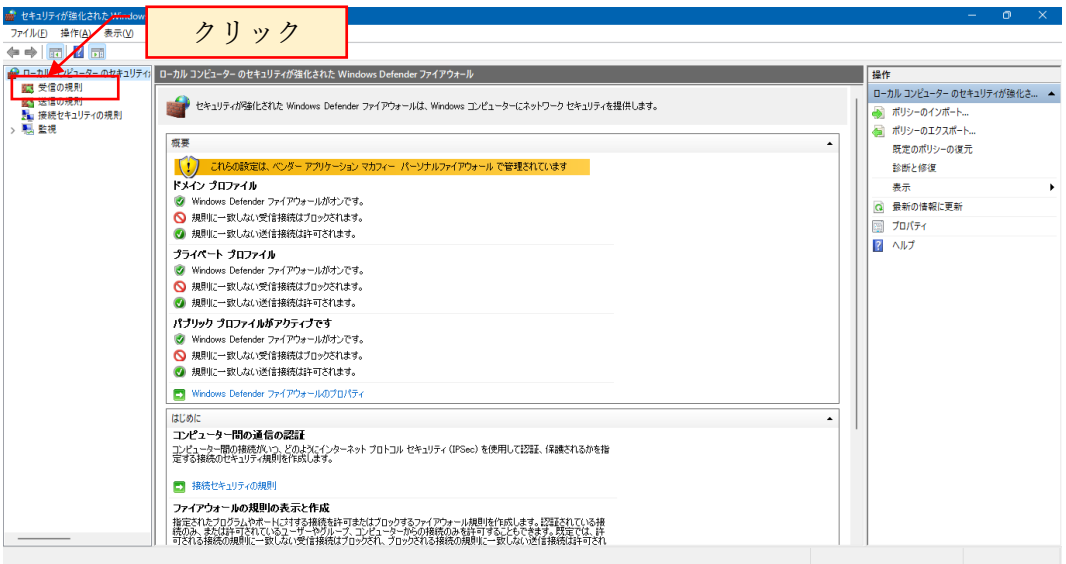
これで、Microsoft SQL Server2022 Express のインストールは終了です。

3. TCP1433 ポートと UDP1434 を解放する

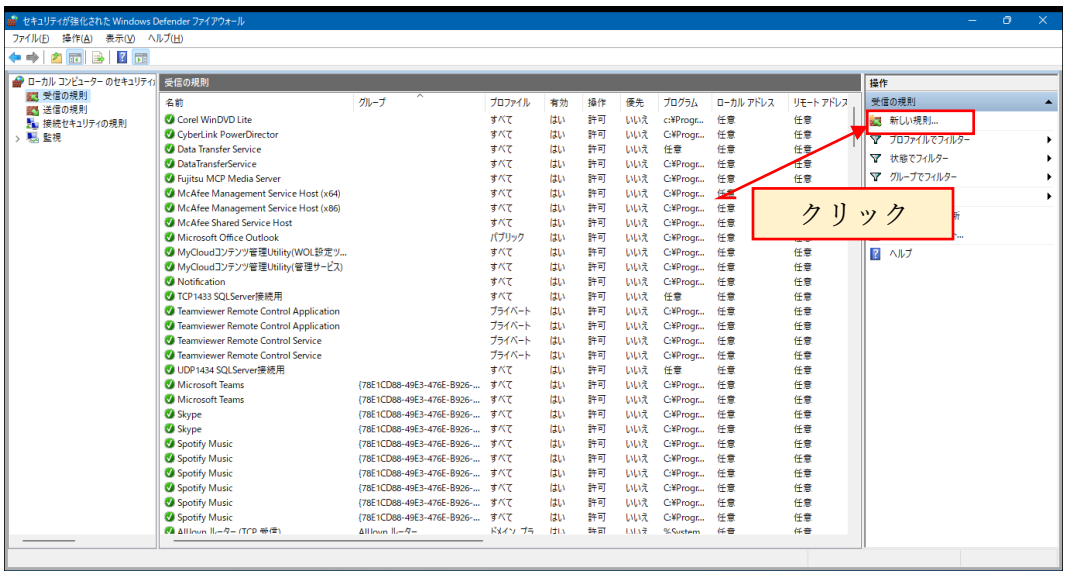
既に TCP1433 と UDP1434 ポートが解放されている場合は、この章を Skip します。

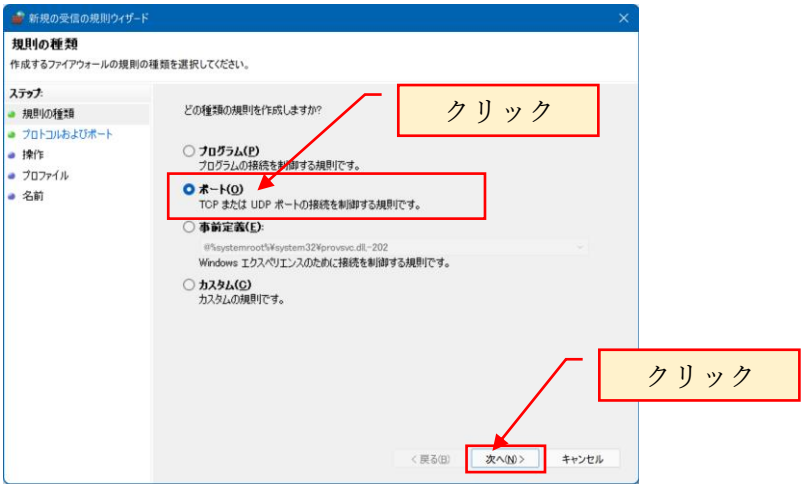
Windows Server の場合は、サーバーマネージャーを開き、「Windows ファイアウォール」の設定をクリック。
Windows10/Windows11 の場合は、コントロールパネル＞システムとセキュリティ＞Windows Defender ファイアウォール画面を開き、詳細設定をクリックします。

下記の例は、Windows11 での画面を示しています。

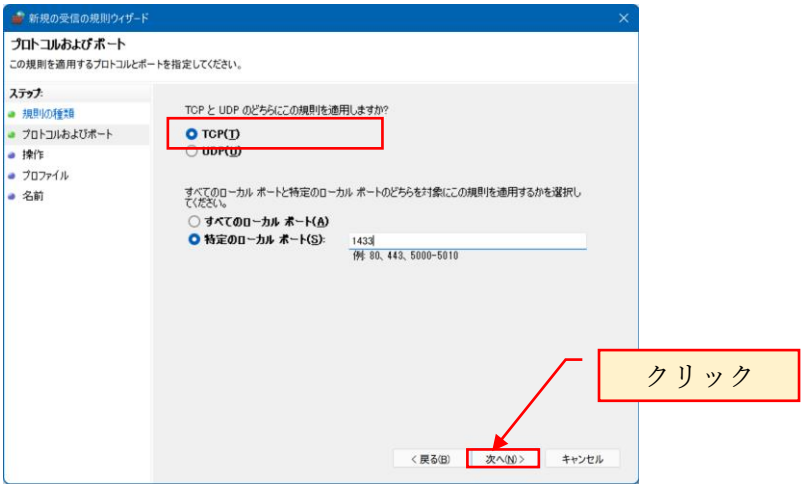


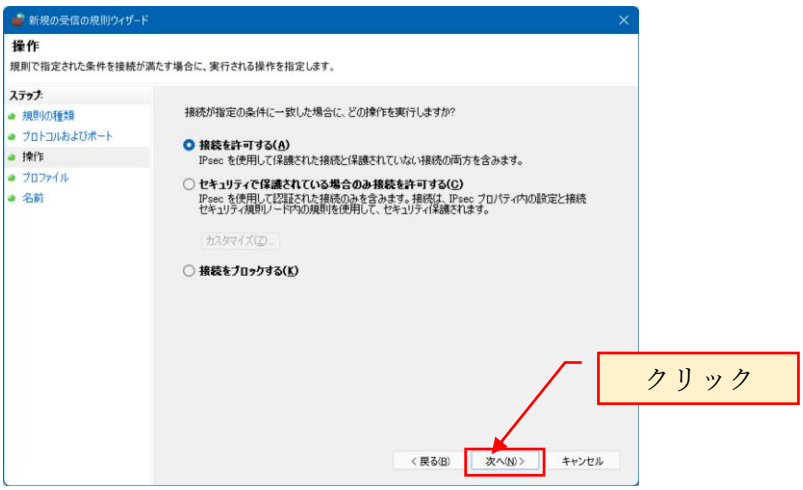
新しい規則をクリックします。

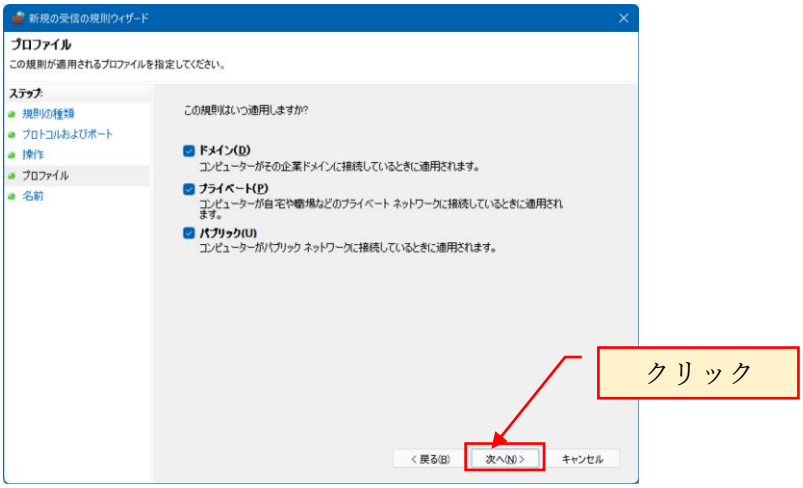




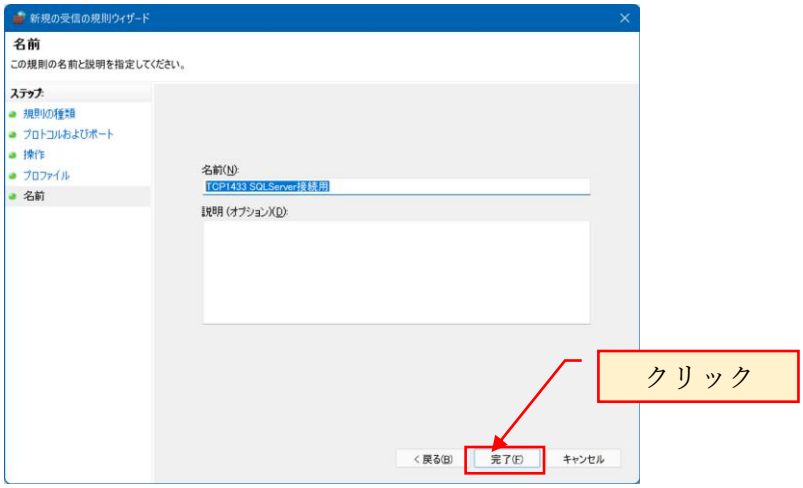
TCP を選択後、特定のローカルポートに 1433 と入力します。



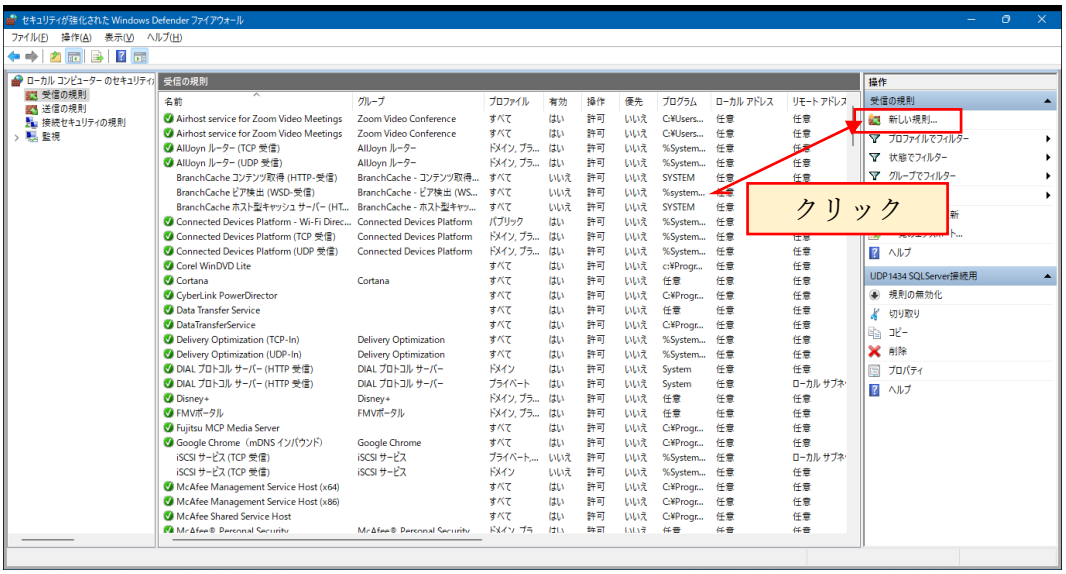


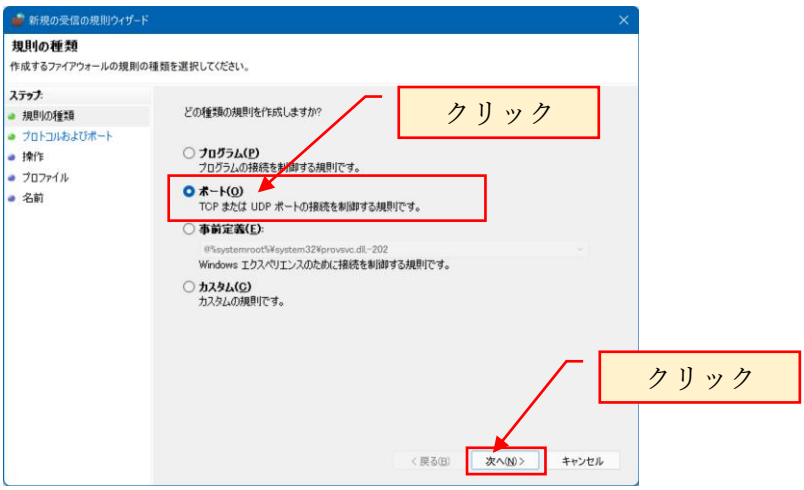


名前には自由に設定できますが、ここでは「TCP1433 SQLServer 接続用」とします。

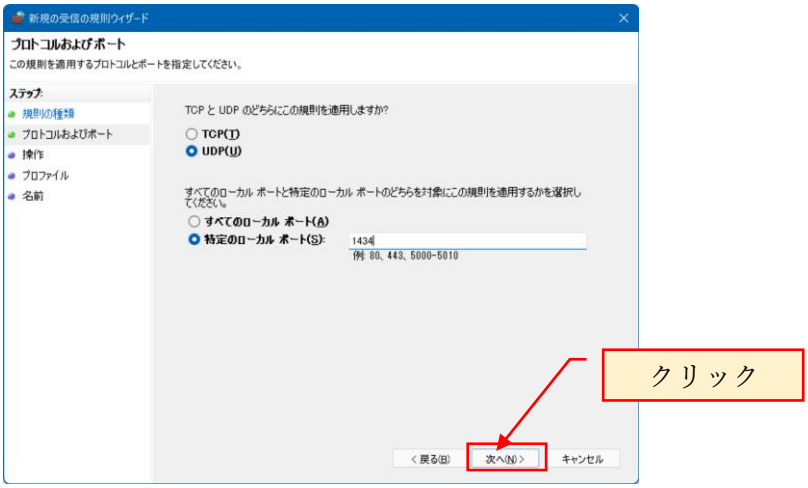


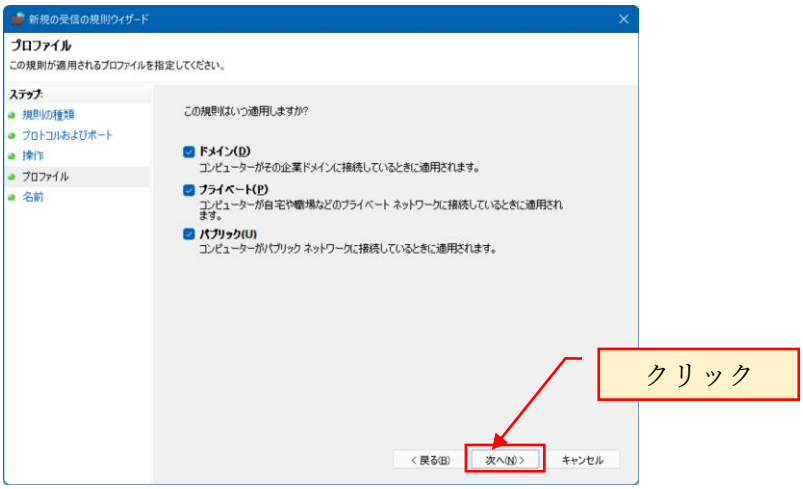
続いて、UDP ポートを設定します。



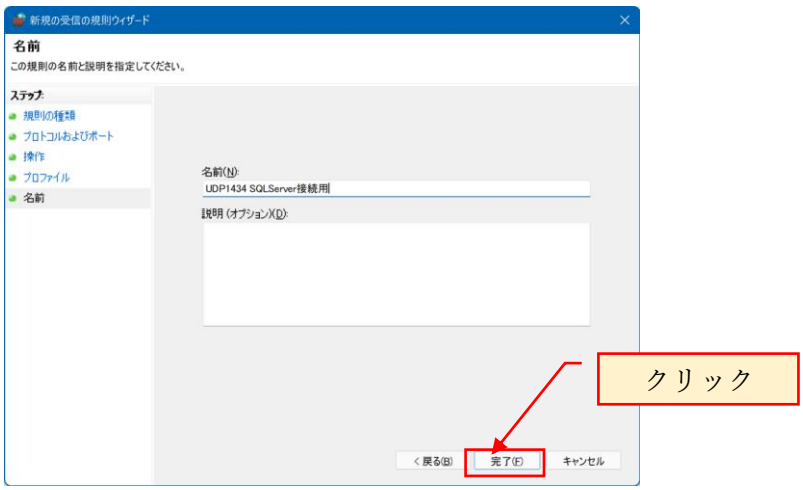


UDP を選択後、特定のローカルポートに 1434 と入力します。





名前には自由に設定できますが、ここでは「UDP1434 SQLServer 接続用」とします。



上記で TCP1433 ポートと UDP1434 ポートの解放は完了です。
Windows ファイアウォールの設定画面を終了します。

4. TCP/IP を有効にする

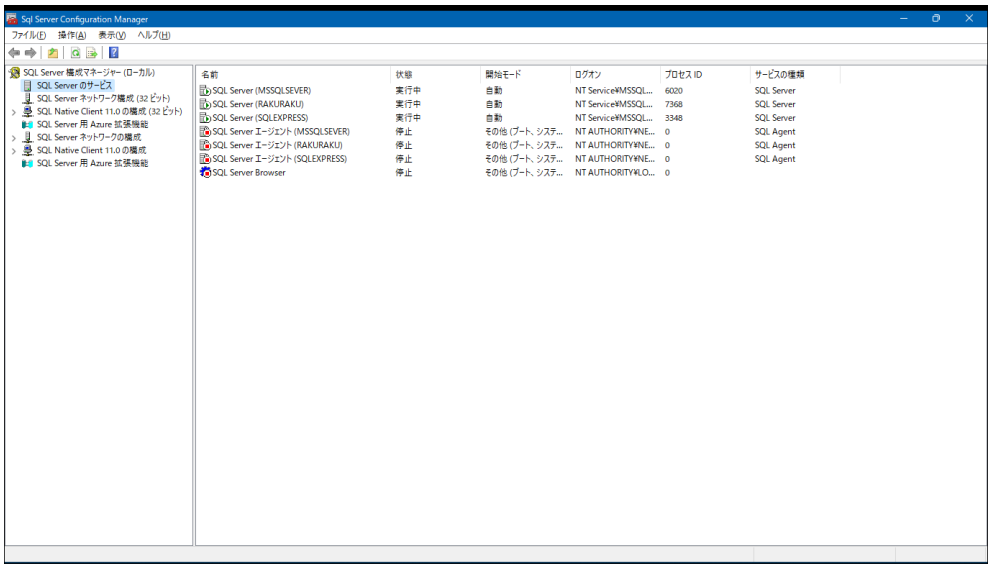
SQL Server2022 構成マネージャを起動して、TCP/IP を有効化します。
SQL Server2022 構成マネージャは、スタートメニューから起動します。

以下、TCP/IP を有効化する手順を示します。

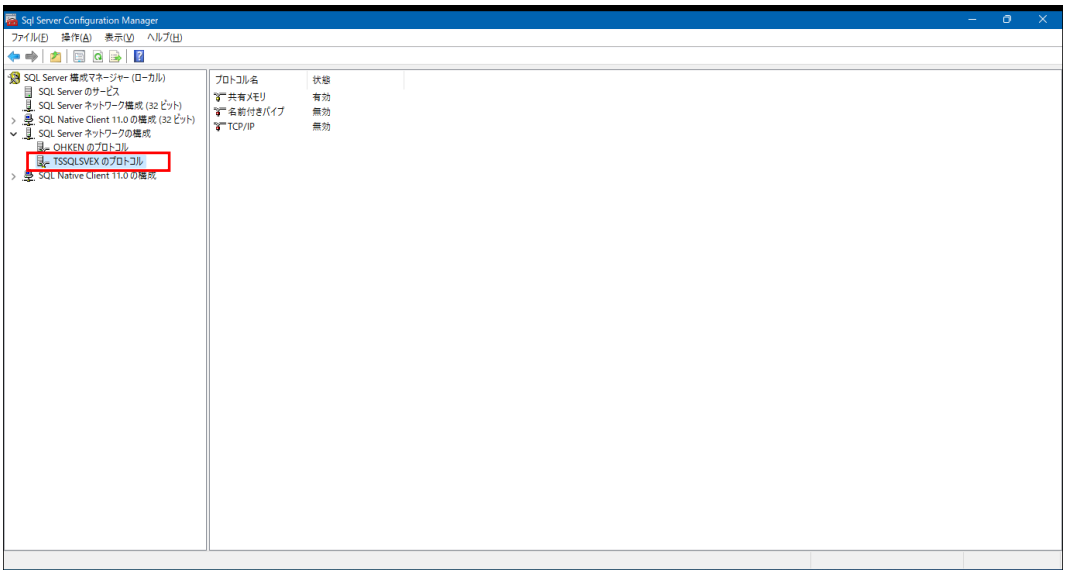
スタートメニューに SQL Server 2022 構成マネージャが表示されない時は、スタートファイル名を指定して実行の検索ボックスに SQLServerManager16.msc と入力すると構成マネージャが起動されます。

ユーザアカウント制御の警告メッセージ「このアプリがデバイスに変更を加えることを許可しますか？」と表示されるので「はい」を応答します。

SQL Server 2022 構成マネージャが起動されます。

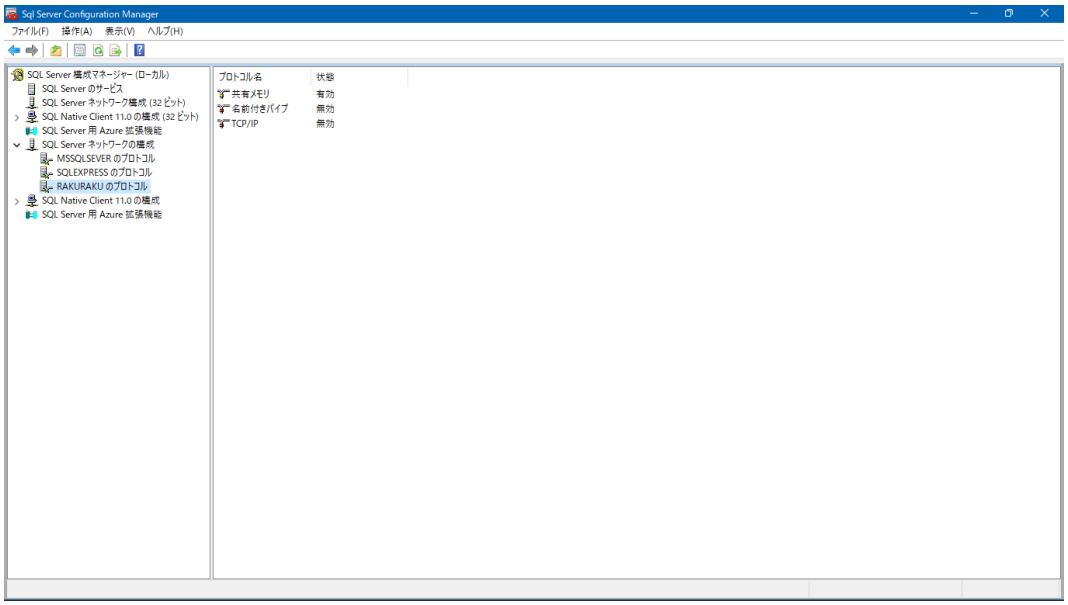


SQL Server ネットワークの構成を展開し、表示される RAKURAKU のプロトコルを選択します。

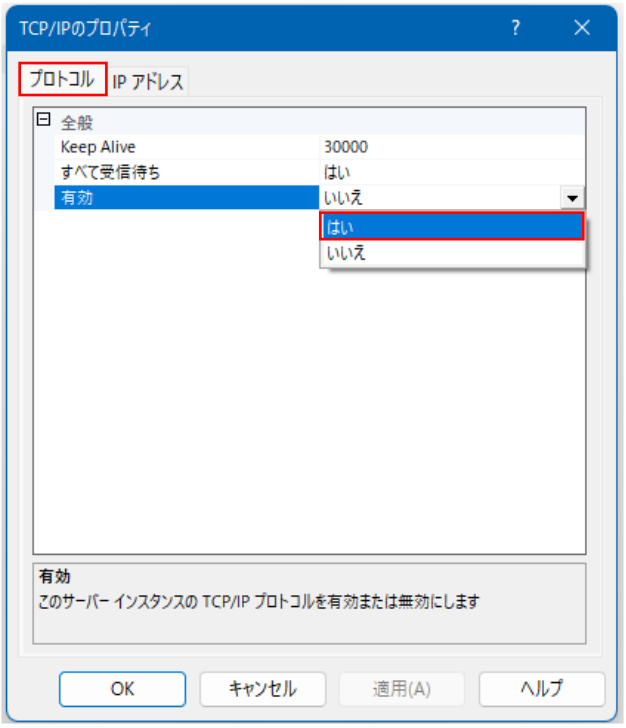


TCP/IP が無効となっている事を確認します。

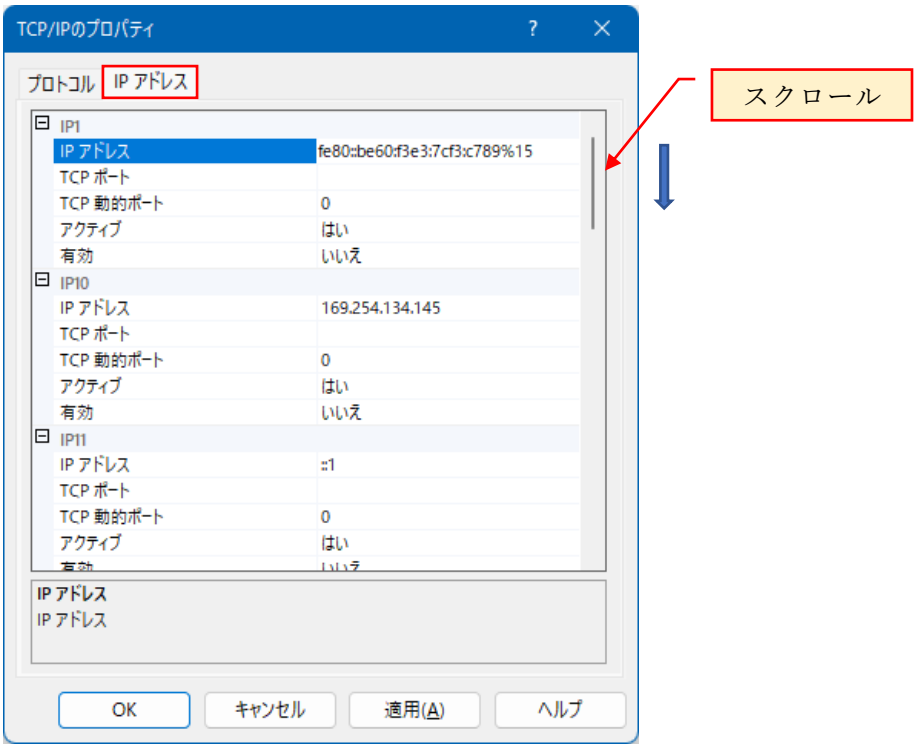
TCP/IP を右クリックしプロパティを選択します。



TCP/IP のプロパティでプロトコルタブの有効から「はい」を選択します。

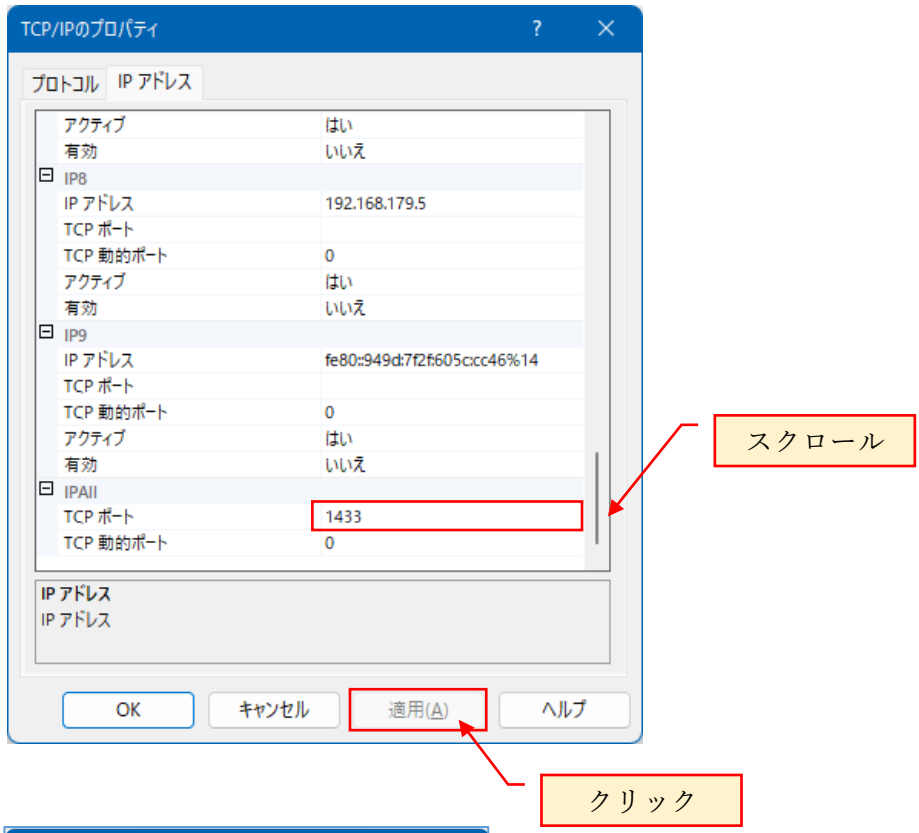


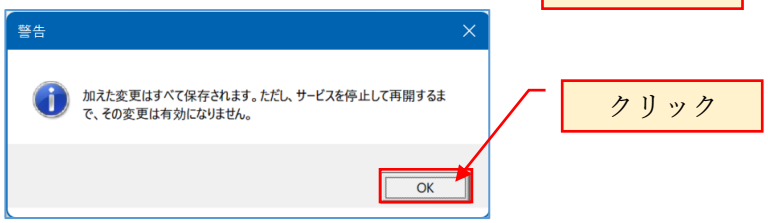
TCP/IP プロパティの IP アドレスタブを選択します。

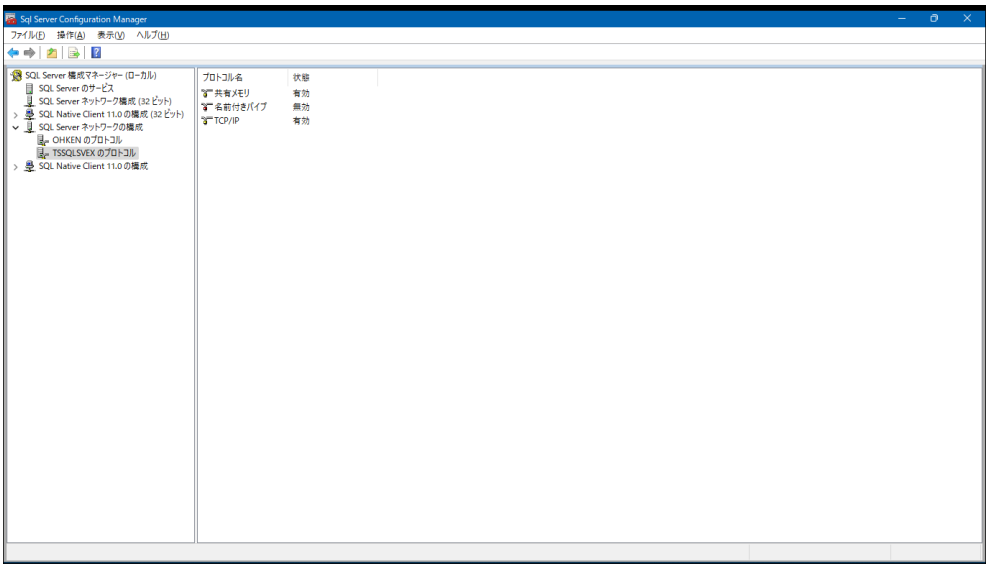


TCP/IP プロパティの IP アドレスタブにある IPALL の TCP ポートに **1433** を指定します。

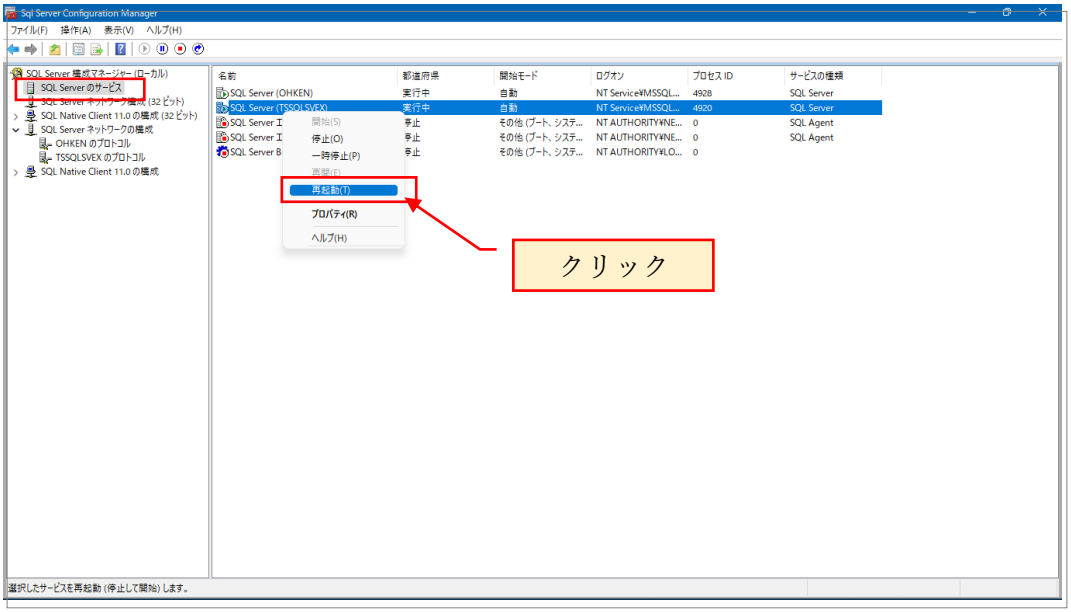
注意：既に別のインスタンスがインストールされていて、かつ、TCP ポートに 1433 が設定されていると、SQL Server 再起動時にエラーが表示されます。その場合の対処方法は、再起動時のエラーの項を参照願います。







SQL Server を下記手順で再起動します。
SQL Server のサービスを選択し、RAKURAKU を選択して右クリックして表示される「再起動」をクリックします。



自動で切り替わります。

上記で、SQL Server が再起動されます。

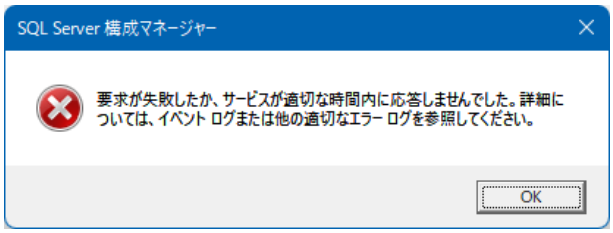
以上で、TCP/IP の有効化が完了です。
SQL Server 構成マネージャを終了します。

参考：
TCP/IP の有効化が無効のままの場合、SQLServer の接続でインスタンス名を RAKURAKU を指定した場合、TCP ポート 1433 を指定しての接続でエラーとなります。

再起動時のエラー対処：

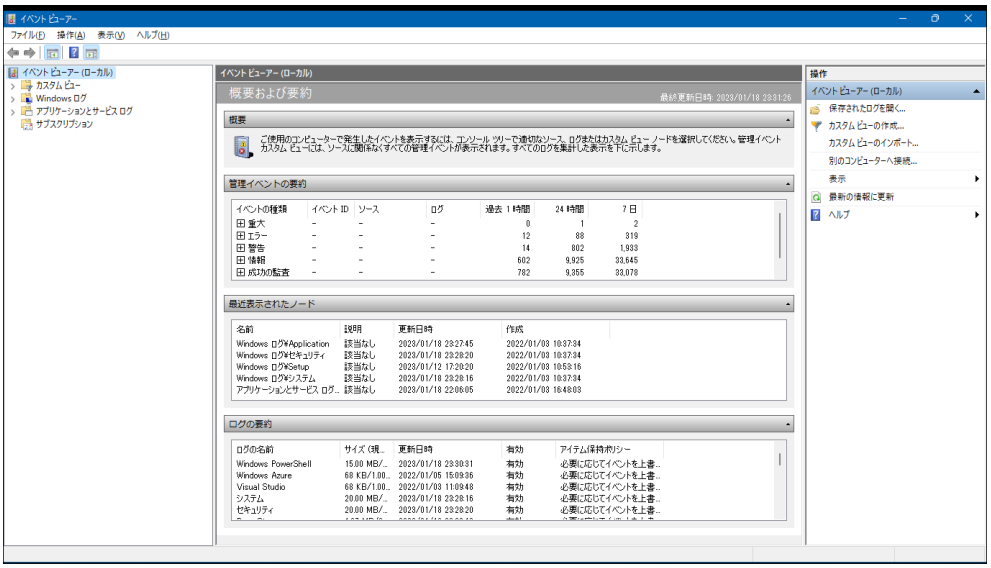
インスタンスの再起動時にエラーが出ていない場合は、この項は Skip します。

SQL Server 構成マネージャで、RAKURAKU のインスタンスを再起動した時にエラーが表示された場合の対処

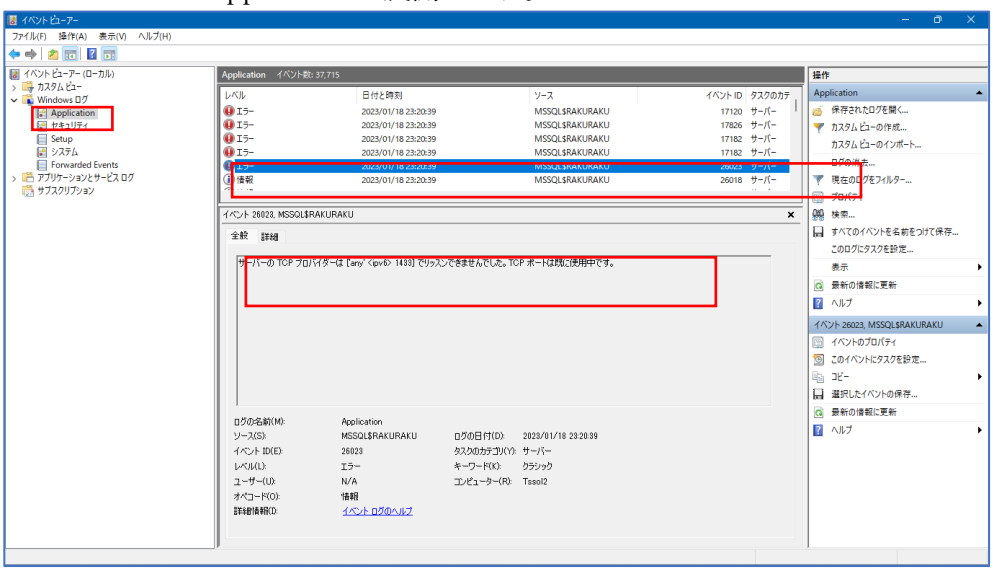


イベントビューアーを起動して原因を調査します。

イベントビューアーの起動は、すべてのプログラムから Windows ツールにあります。



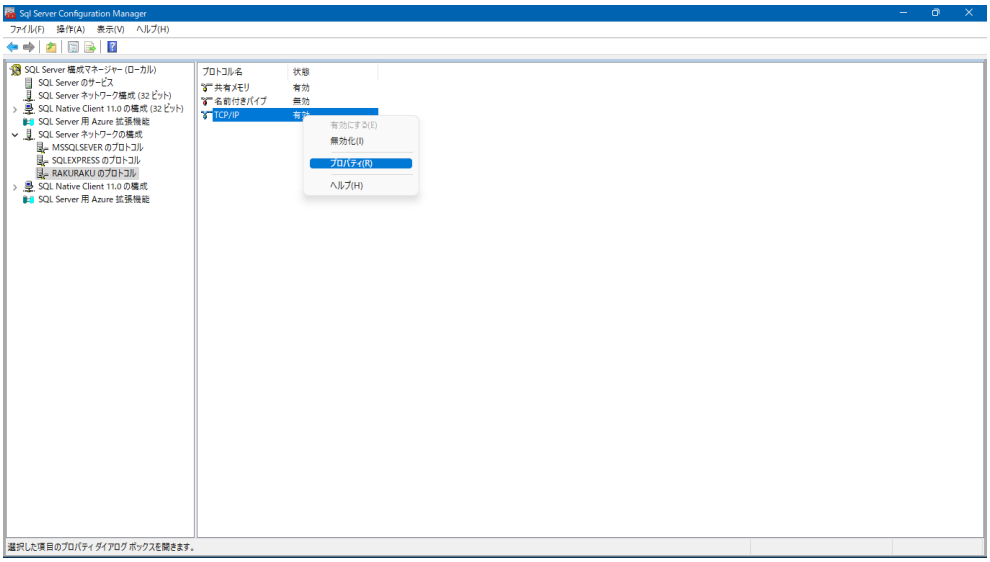
Windows ログの Application を展開します。



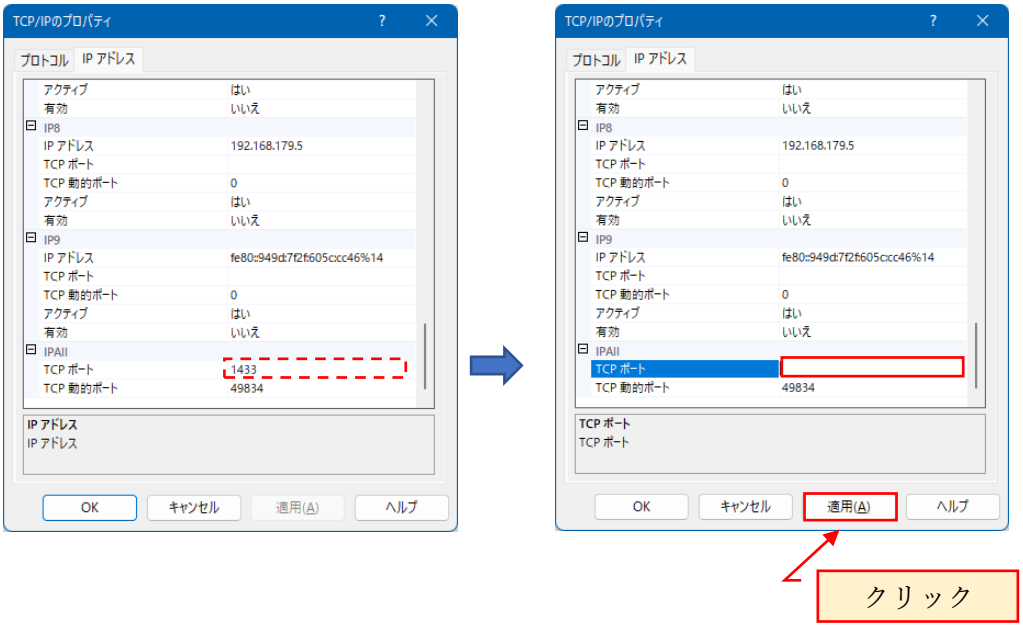
エラーとなった最初のトリガを選択し、エラー内容を確認します。

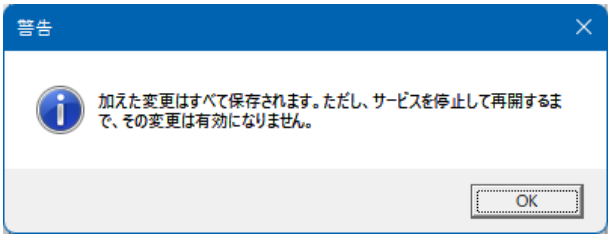
エラーメッセージの例
サーバーの TCP プロバイダーは［'any' <ipv6> 1433］でリッスンできませんでした。
TCP ポートは既に使用中です。

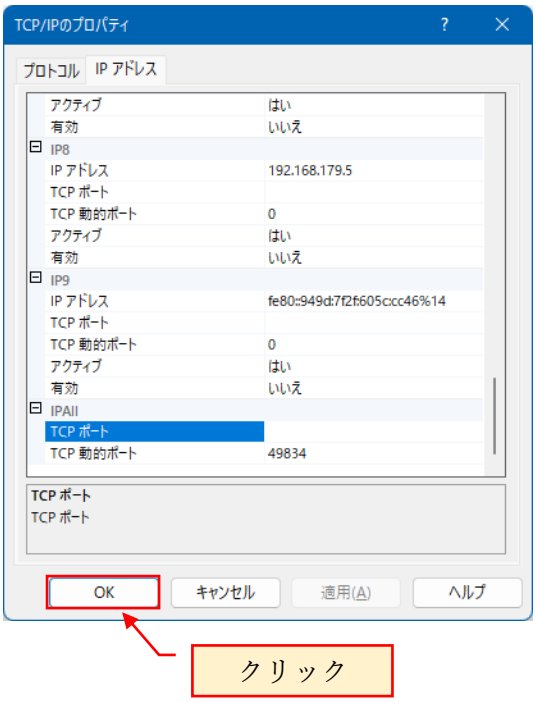
対処：構成マネージャで、インスタンス名が RAKURAKU で TCP/IP のポートが 1433 で指定している箇所を削除します。



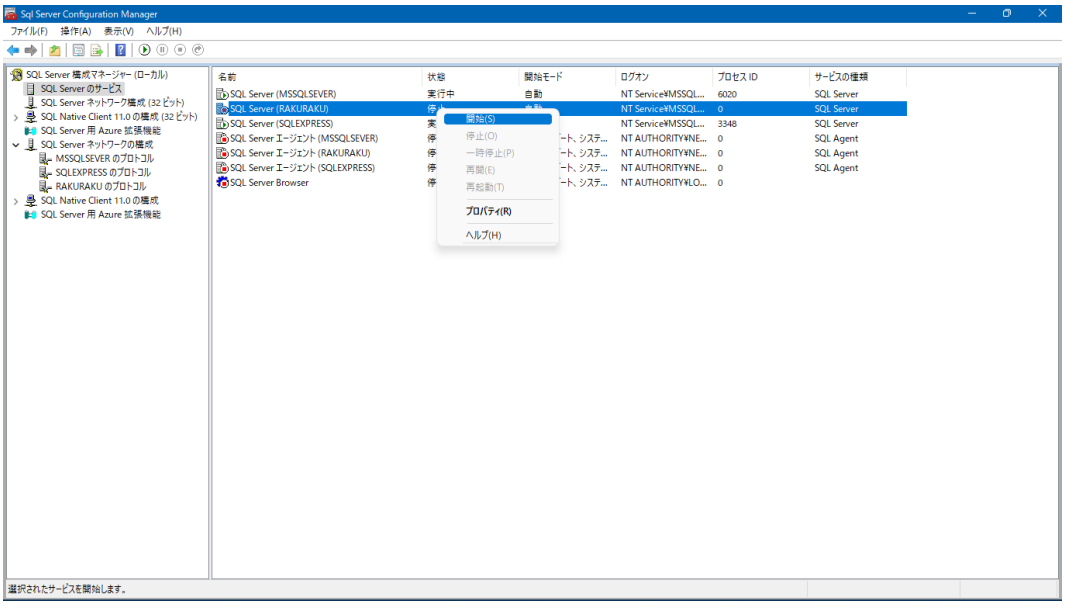
TCP ポートの変更箇所







再起動してエラーが表示されない事を確認します。

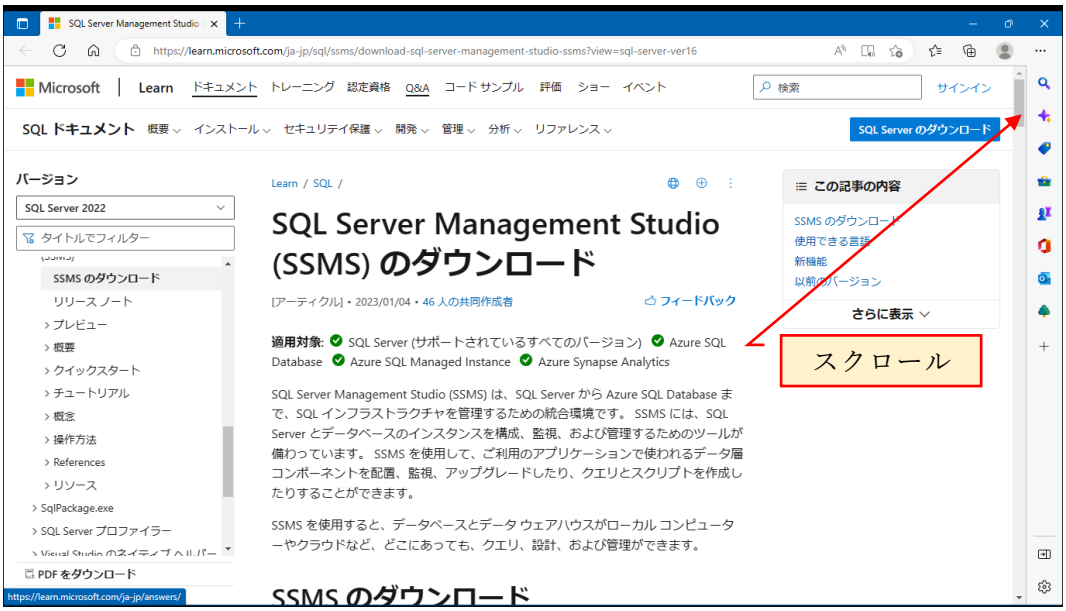


5. SQL Server Management Studio をインストールする

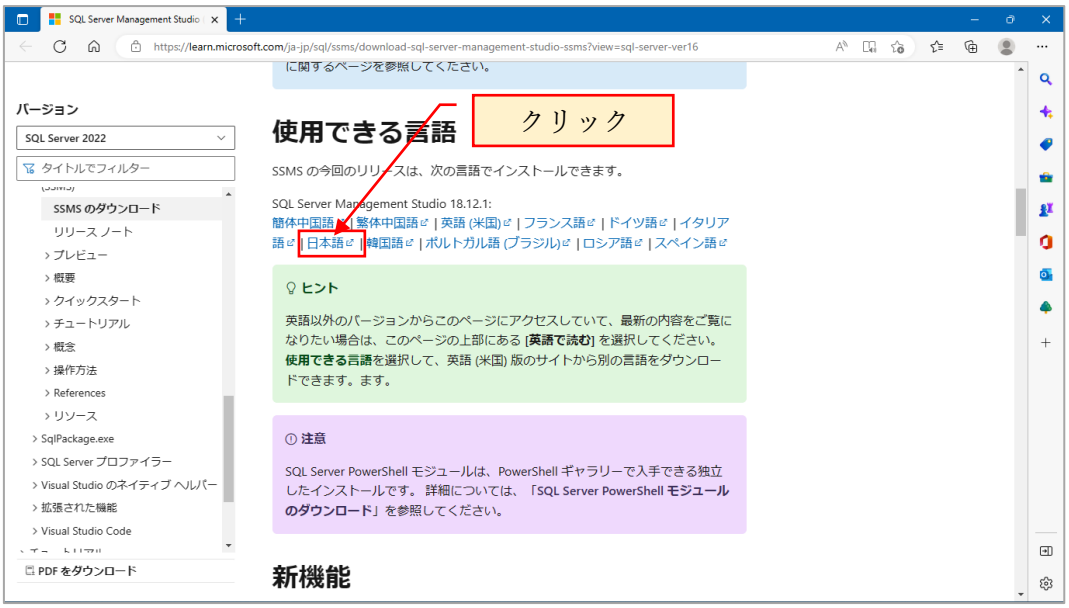
SQL Server 管理マネージャの Microsoft SQL Server Management Studio をインストールします。

SQL Server インストールメディアのダウンロード先は、標準では以下の通りです。
C:¥SQL2022¥ExpressAdv_JPN
上記のフォルダ内にある SETUP.EXE を実行すると、SQL Server のインストールセンターが開かれます。

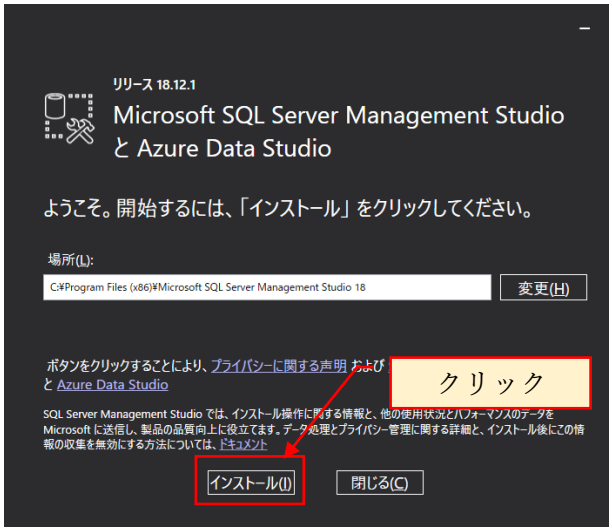
上記以外に、下記のサイトからも SQL Server Management Studio のインストーラをダウンロードできます。
https://learn.microsoft.com/ja-jp/sql/ssms/download-sql-server-management-studio-ssms?redirectedfrom=MSDN&view=sql-server-ver16

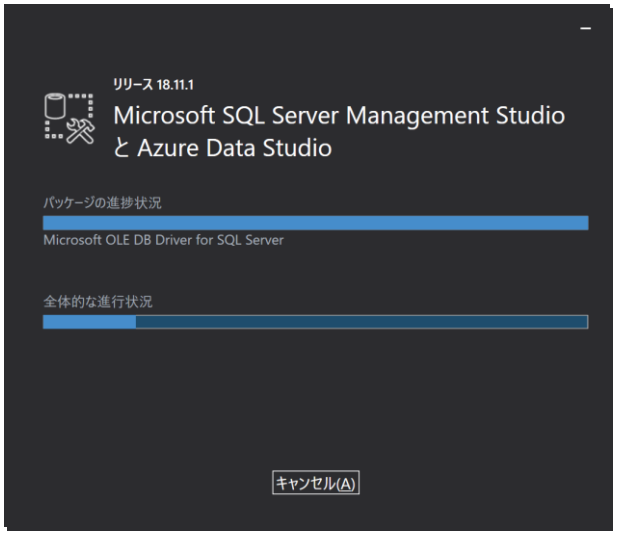


上記の画面を下方にスクロールし、「使用できる言語」と表示されている項目の「日本語」をクリックすると、SQL Server Management Studio の日本語版をダウンロードします。



ダウンロードが完了すると、ダウンロードフォルダに SSMS-Setup-JPN.exe が格納されています。
SSMS-Setup-JPN.exe を実行すると、SQL Server Management Studio のインストールが開始されます。





インストールが完了すると、下記の画面が表示されます。

SQL Server インストールセンターを閉じます。

6. SQL Server の設定

Microsoft SQL Server Management Studio 起動

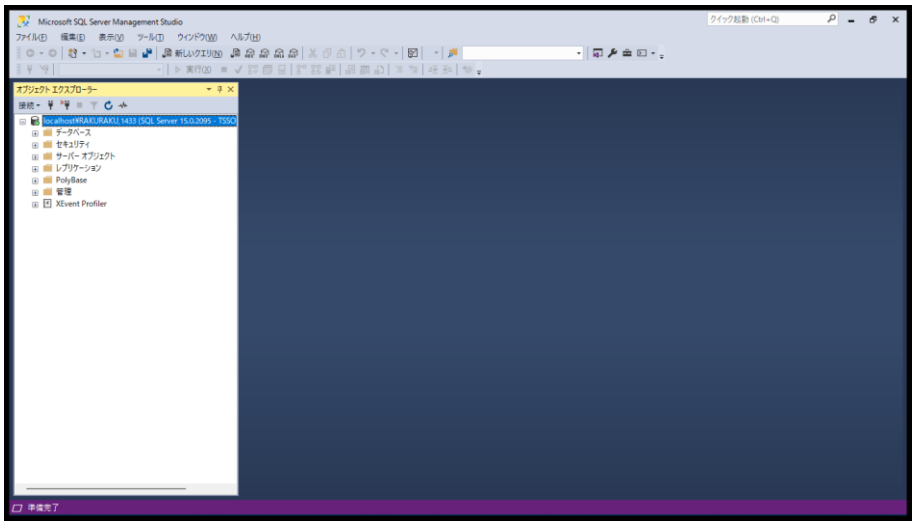
起動方法は、スタートメニューの Microsoft SQL Server Tools 18※1 を展開し表示される Microsoft SQL Server Manaement Studio18 をクリックして起動します。

※1 導入時点のバージョンによって異なります。

6.1 Windows 認証でログインできるか確認します。

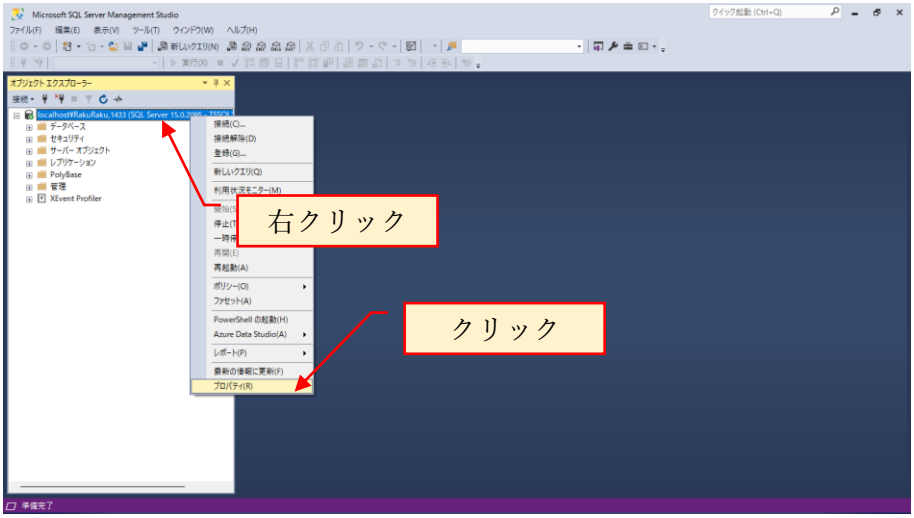
サーバ名：localhost¥RAKURAKU,1433

正常に起動される事を確認します。

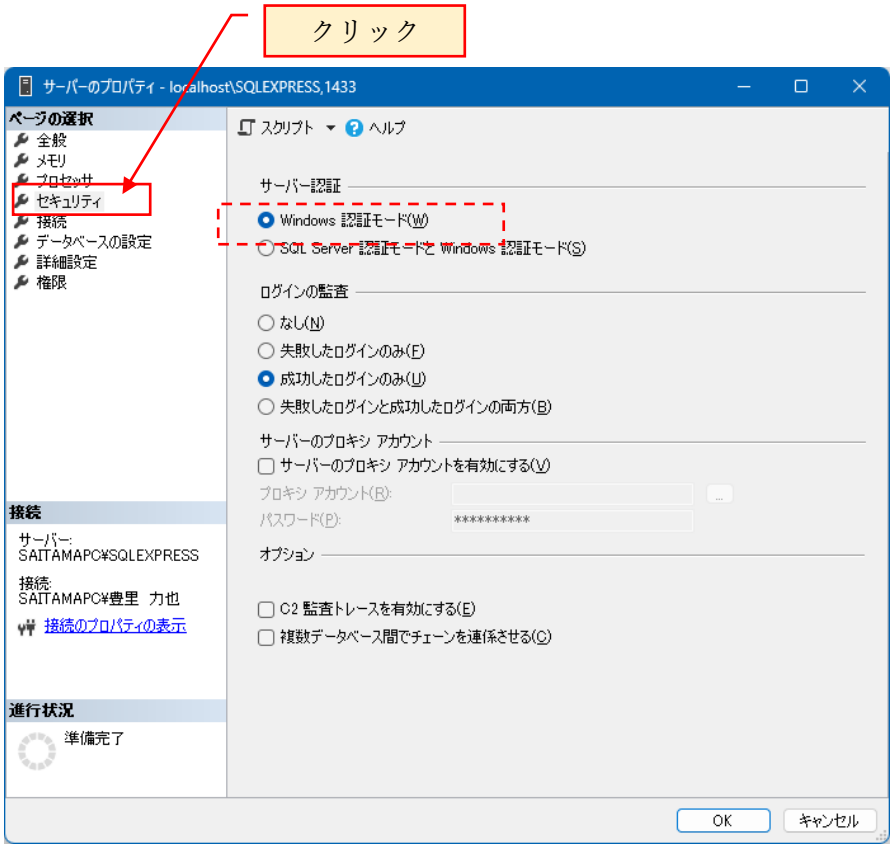


6.2　サーバの認証方法を Windows 認証から SQL 認証に変更する

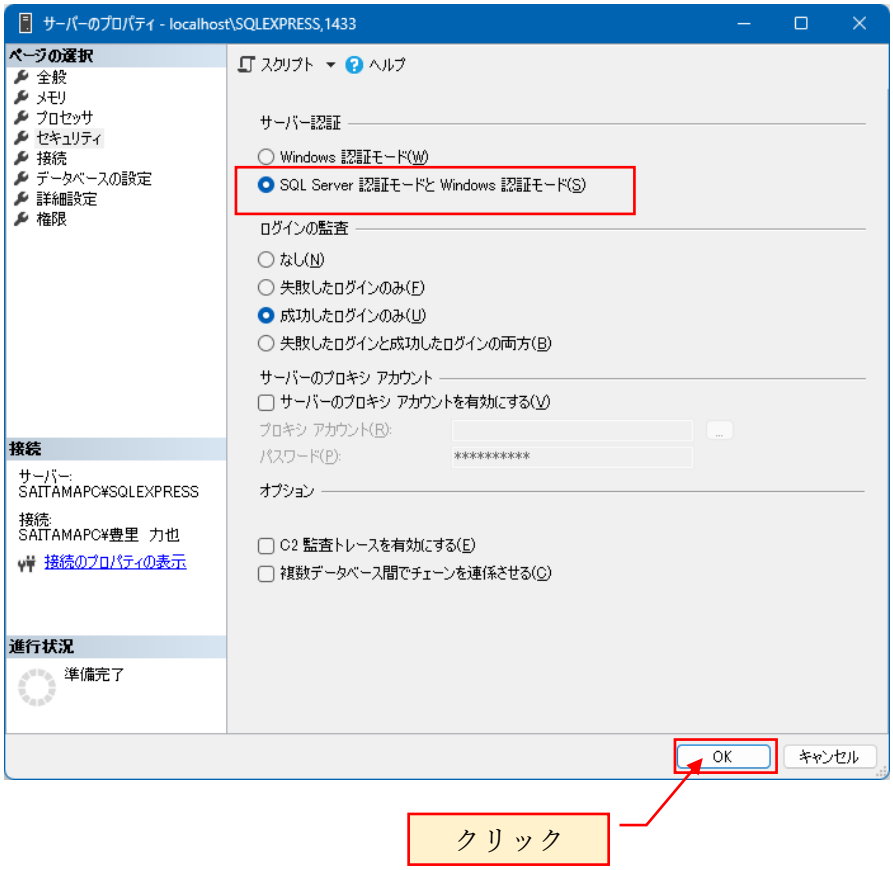
オブジェクトエクスプローラの localhost¥RAKURAKU,1433(SQL Server を選択し右クリック

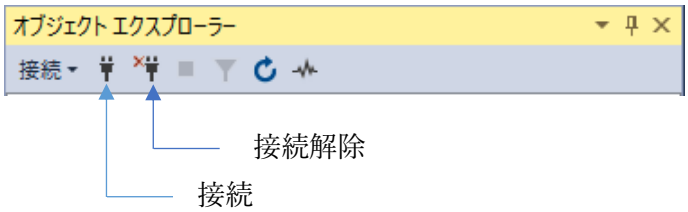


プロパティを選択し、ページの選択でセキュリティをクリック



Windows 認証を SQL Server 認証モードと Windows 認証モードに選択し直します。





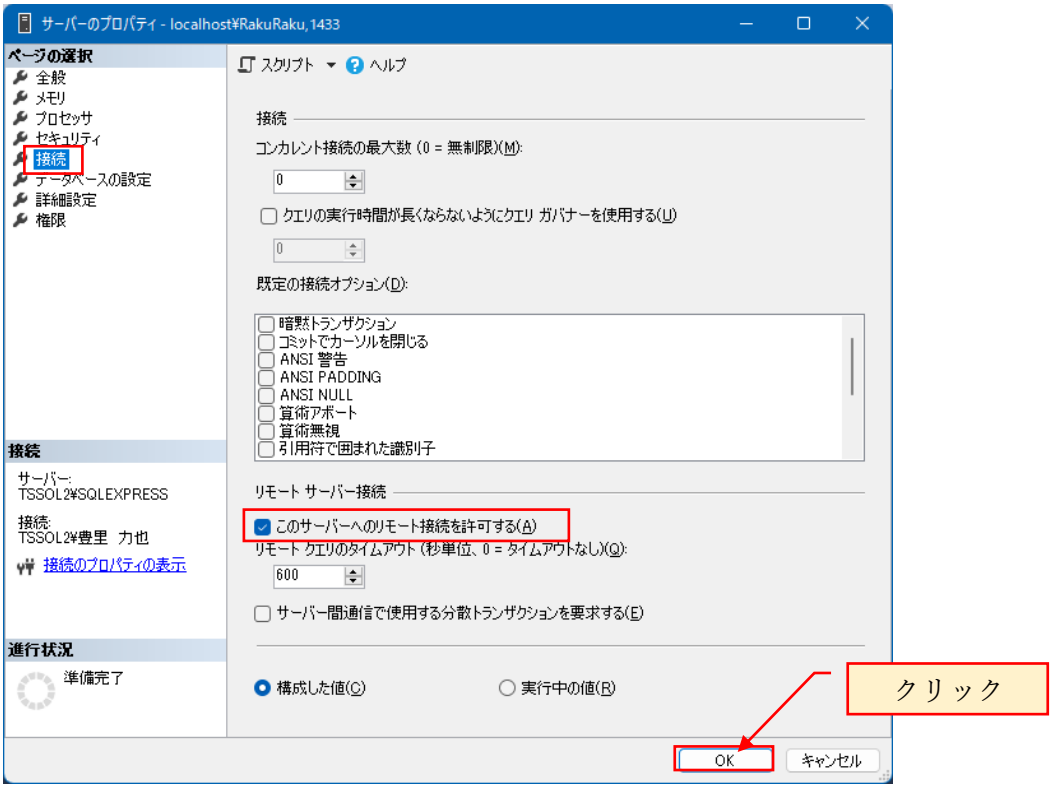
切断をクリックすると、現在の接続（Windows 認証）を切断します。
SQL Server Management Studio を終了し、一旦、**PC を再起動します。**

再度、SQL Server Management Studio を起動後、Windows 認証でログインします。
オブジェクトエクスプローラの localhost¥RAKURAKU,1433(SQL Server を選択し右クリック

プロパティを選択し、ページの選択で接続をクリックします。

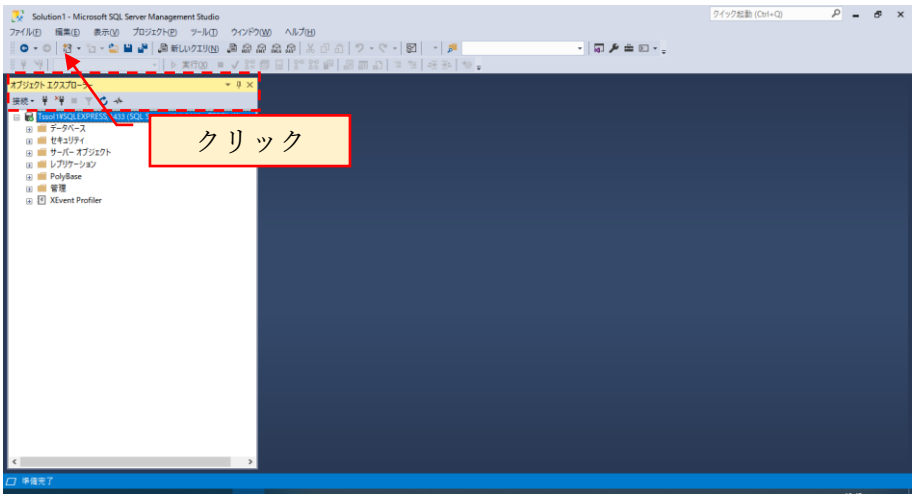
6.3　リモート接続が許可されている事を確認します。

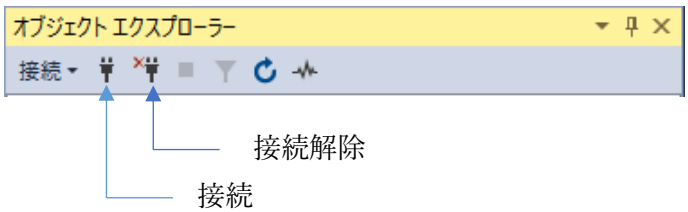
ページの選択で「接続」を選択し、このサーバへのリモート接続を許可するにチェックが入っていない場合はチェックを入れて[OK]をクリックします。



SQL Server Management Studio で SQL Server の接続を切断します。

切断方法は、接続解除をクリックします。





切断をクリックすると、現在の接続（Windows 認証）を切断します。

次項で、SQL Server 認証で接続の確認を行なうため、「接続解除」クリックします。

6.4 新しいログイン名の作成

らくらく電子取引のアプリケーションで SQL Server にログインするためのアカウントを作成します。

Windows 認証でログインし直します。

新しいログイン名を作成します。

作成するアカウントは、eDocBiz

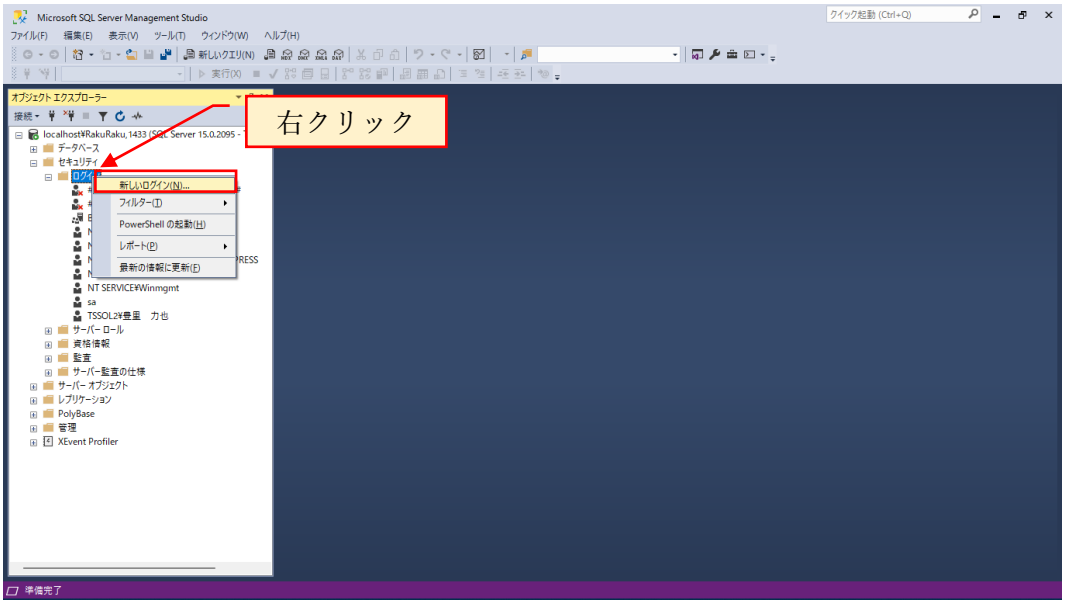
SQL Server 認証

ログイン名は eDocBiz

パスワードは eDocBiz!admin

ここで作成するアカウント「eDocBiz」は、らくらく電子取引のプログラムがデータベースにアクセスするためのアカウントとなります。

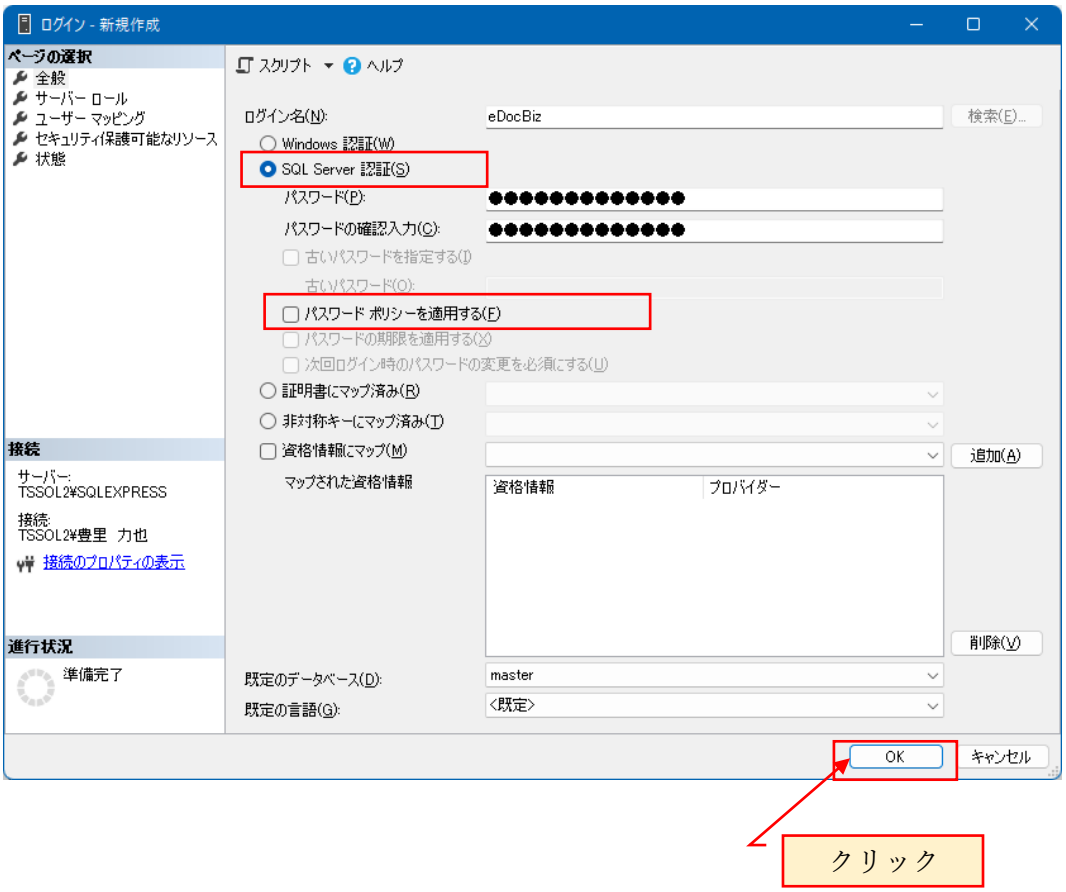
下記の画面が表示されたら、オブジェクトエクスプローラの「セキュリティ」を＋をクリックして展開し、表示される「ログイン」を選択して右クルリックで表示される「新しいログイン」を選択します。



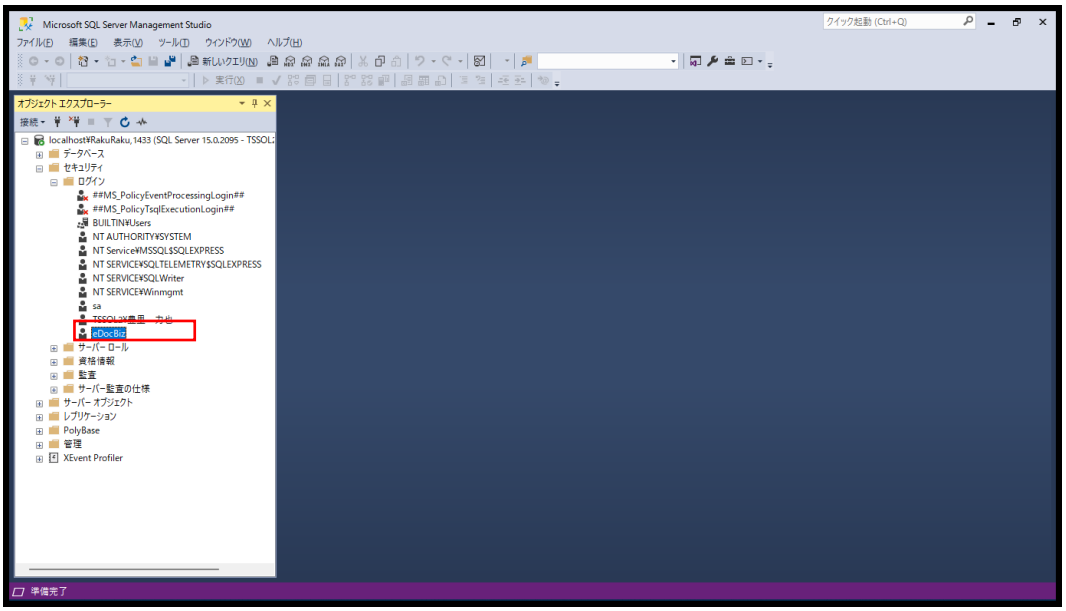
ログイン名：eDocBiz

SQL Server 認証を選択

パスワード：eDocBiz!admin

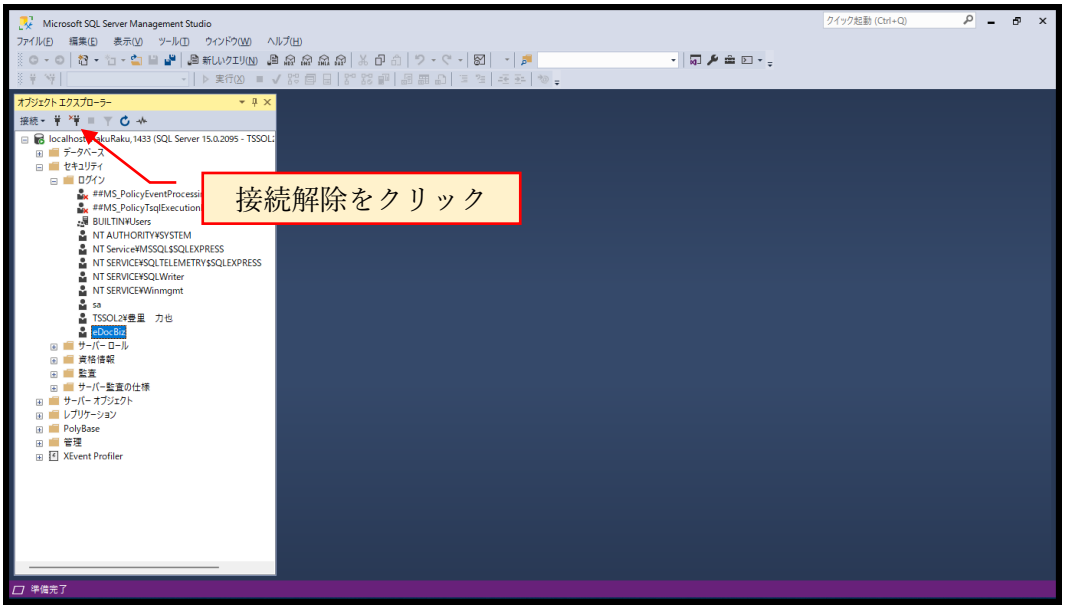


上記を入力したら「ＯＫ」をクリックします。

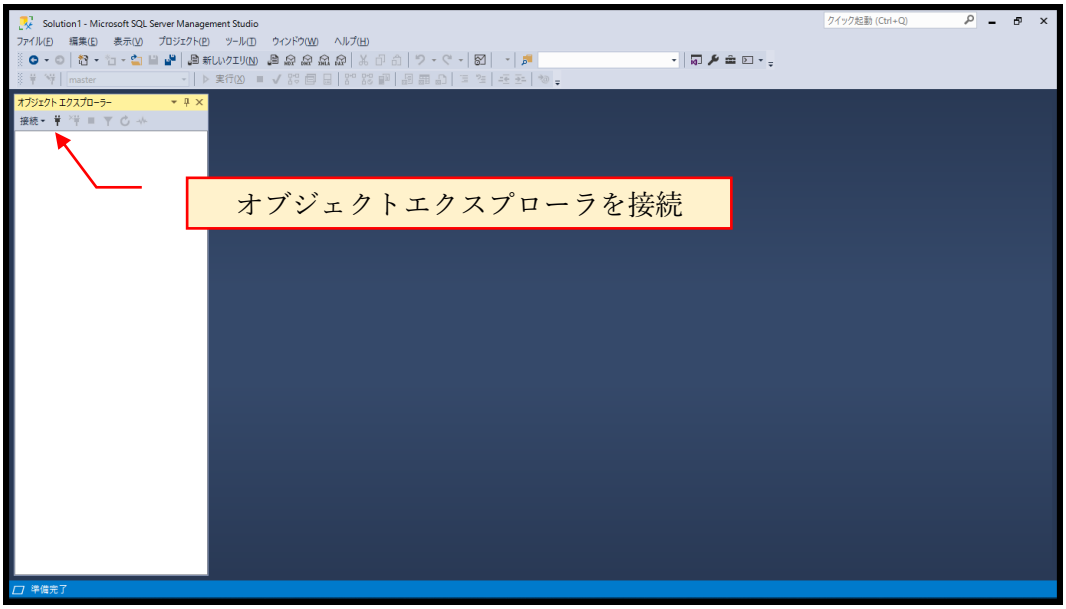


ログインに作成した eDocBiz が存在していることを確認します。

前項で作成した eDocBiz でログインできるか確認のため、現在の Windows 認証から SQL Server 認証に切替える必要があります。そのため、現在の接続を解除します。



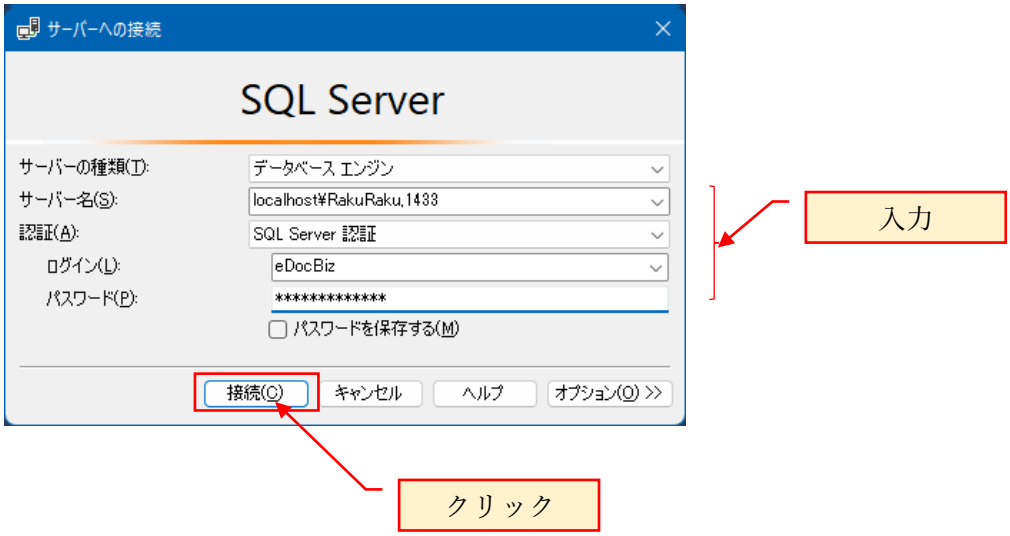
SQL 認証でログインできるか確認します。



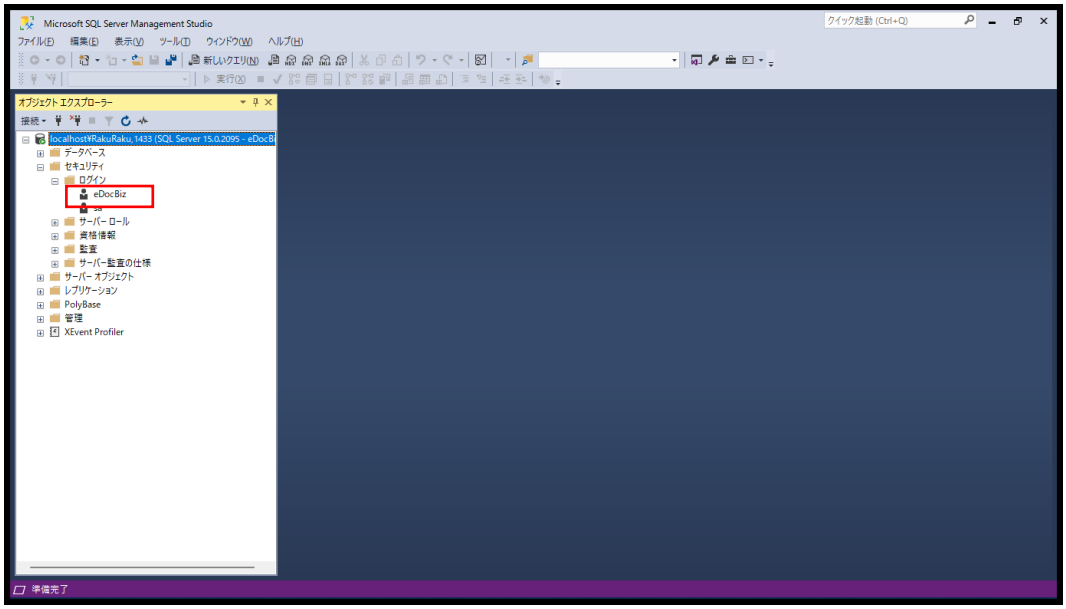
サーバ名：ホスト名¥RAKURAKU,1433

ホスト名は、SQL Server が動作する PC のコンピュータ名を入力します。

ログイン：eDocBiz、パスワード：eDocBiz!admin を入力し「接続」をクリック

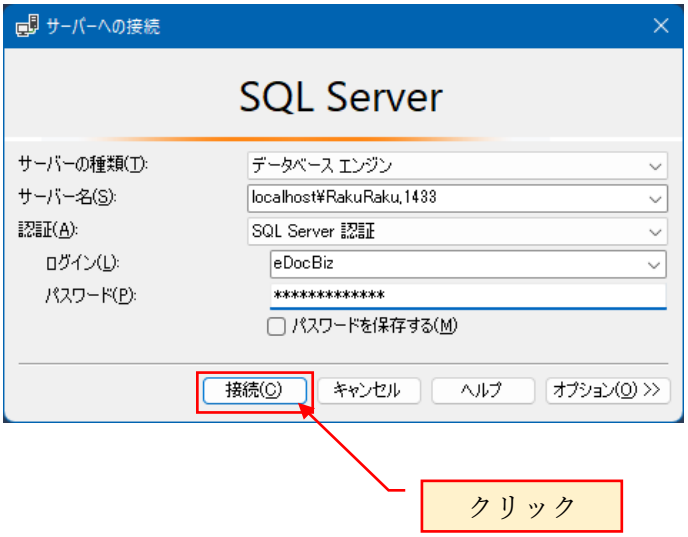


セキュリティを展開し、ログインの中に eDocBiz が存在している事を確認します。



ログインに eDocBiz が存在していれば、正しく作成された事が確認できます。

6.5　ログインで、エラー 18456 でログインできない場合の対処



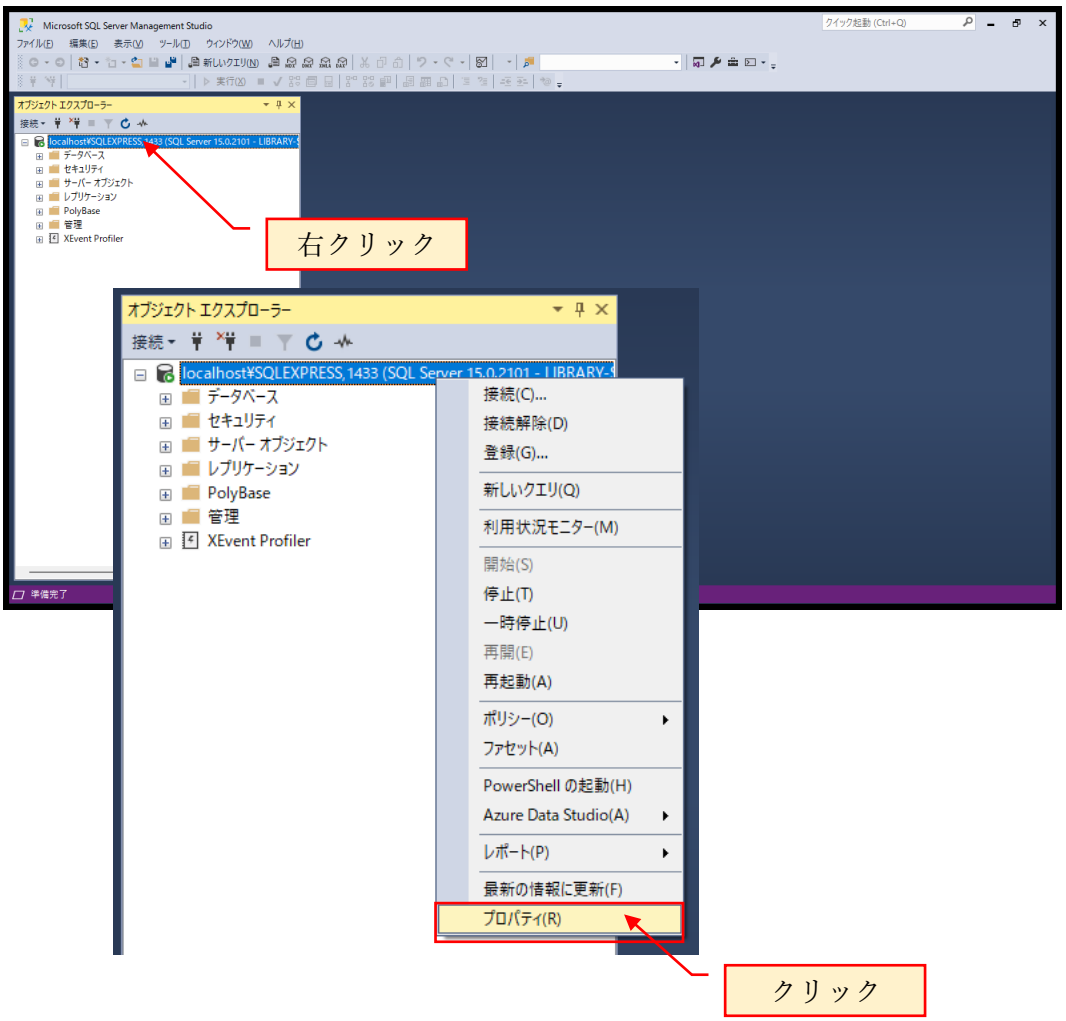
SQL 認証でログイン時、

ユーザ eDocBiz はログインできませんでした。(Microsoft SQL Server エラー：18456)

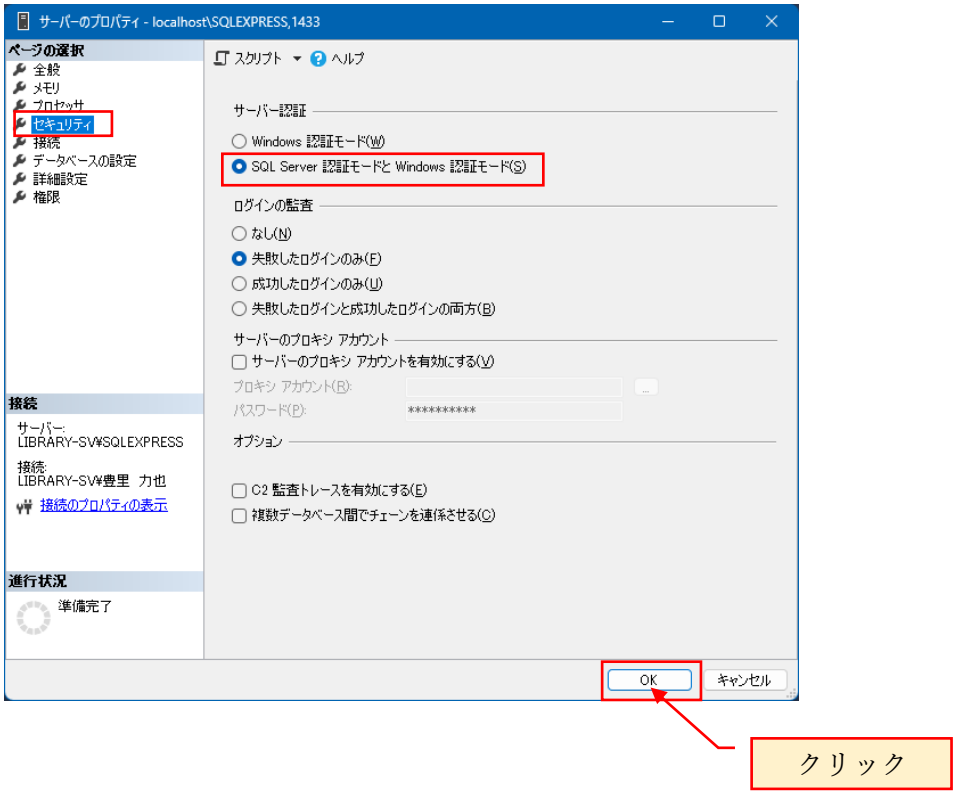
のエラーが表示された場合の原因と対処：

原因：サーバの認証方式が Windows 認証のままとなっていることが原因です。

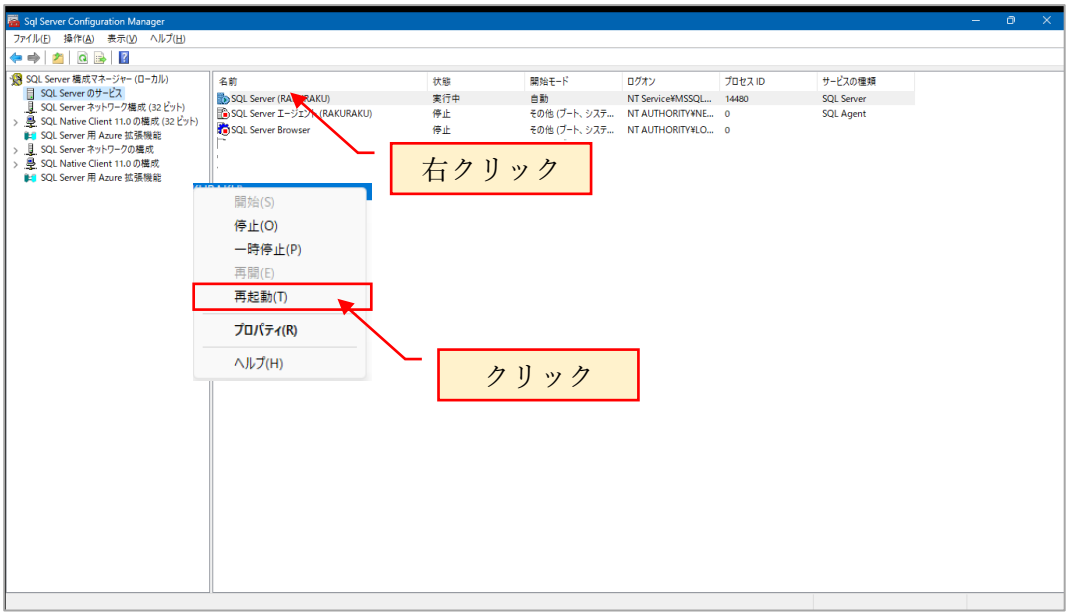
対処：Windows 認証で接続します。



セキュリティのサーバ認証で、Windows 認証となっている場合
SQL Server 認証モードと Windows 認証モードの変更します。

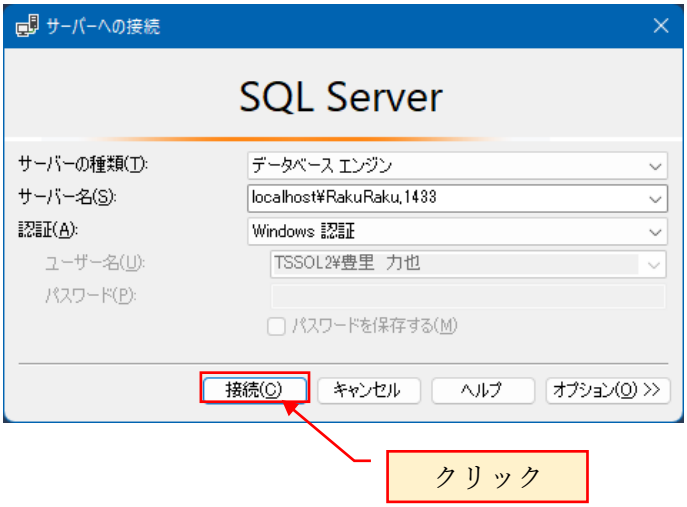


SQL Server 構成マネージャを起動し RAKURAKU の再起動を行って反映します。



6.6 新しいデータベースの作成

Windows 認証でログインをし直してください。



作成するデータベースの情報：

データベース名：eDocBizdb

物理パス：例として下記のパスで作成しますが、任意に指定できます。

C:¥ eDocBizdb¥eDocBizdb.mdf

C:¥ eDocBizdb¥eDocBizdb_log.ldf

データベースの初期サイズ：例として下記に示しますが、任意に指定できます。

行データ：256MB　自動拡張：64MB 単位で無制限

ロ　　グ：　64MB　自動拡張：64MB 単位で無制限

上記以外の条件で対話形式で作成する場合は、別紙の「らくらく電子取引 SQLServer2022 インストールと設定手順書　6.5 新しいデータベースの作成」を参照ください。

上記の条件を変更する場合は、スクリプトファイルをメモ帳で開き、必要箇所を変更することも可能です。

本書では、上記の条件でデータベースを作成する sql スクリプトを実行して作成します。

スクリプトファイル名は、CreateDB_eDocBizdb.sql

スクリプトファイルの格納場所は、らくらく電子取引ダウンロードサイトからダウンロードし、sqlscript フォルダ内に存在しています。

(1)　データベース格納先のフォルダを作成する

データベースの作成場所はスクリプトファイル CreateDB_eDocBizdb.sql で行なった場合は、C:¥eDocBizdb としています。

C ドライブ直下に、eDocBizdb という名前のフォルダを作成します。

格納場所を変更する場合は、CreateDB_eDocBizdb.sql をメモ帳で開き、下記の箇所を変更して上書きします。

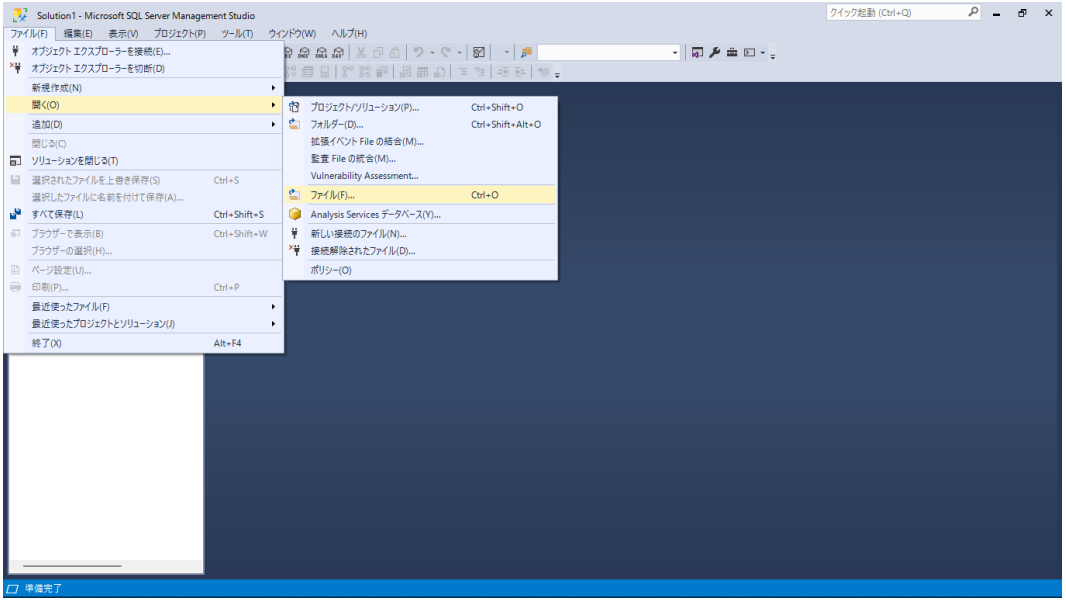
FILENAME = N'C:¥eDocBizdb¥eDocBizdb.mdf'

FILENAME = N'C:¥eDocBizdb¥eDocBizdb_log.ldf'

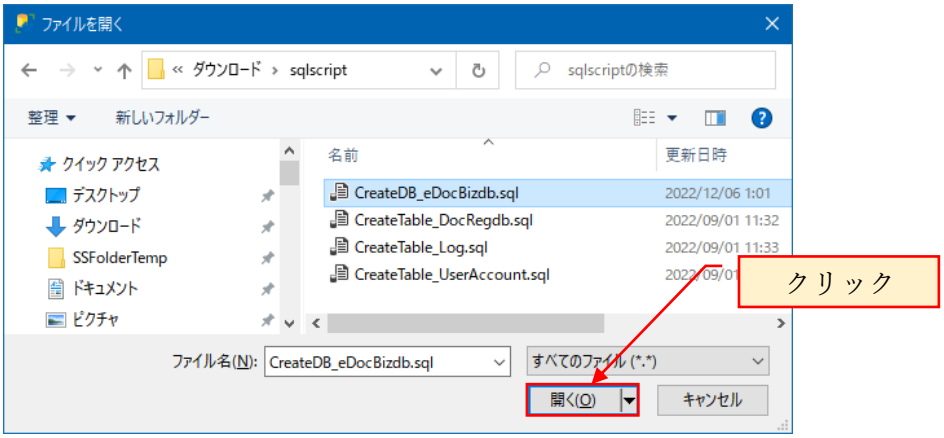
格納場所を変更した場合は、格納場所のフォルダを作成します。

(2)　スクリプトファイルからデータベースを作成する

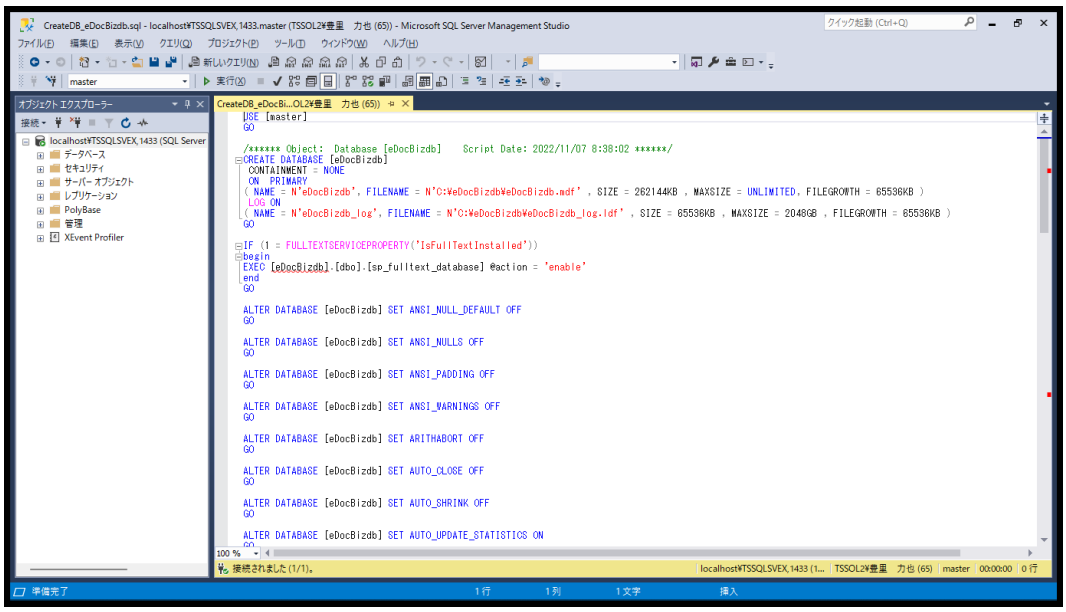
メニューバーのファイル→開く→ファイルを指定すると、ファイルダイアログが表示されます。



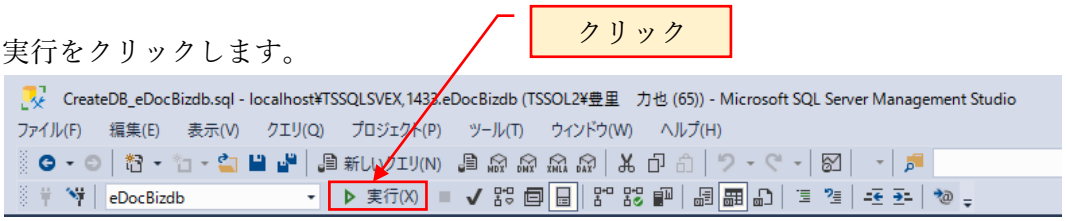
スクリプトが格納されているフォルダを開き、CreateDB_eDocBizdb.sql を選択後「開く」をクリックします。

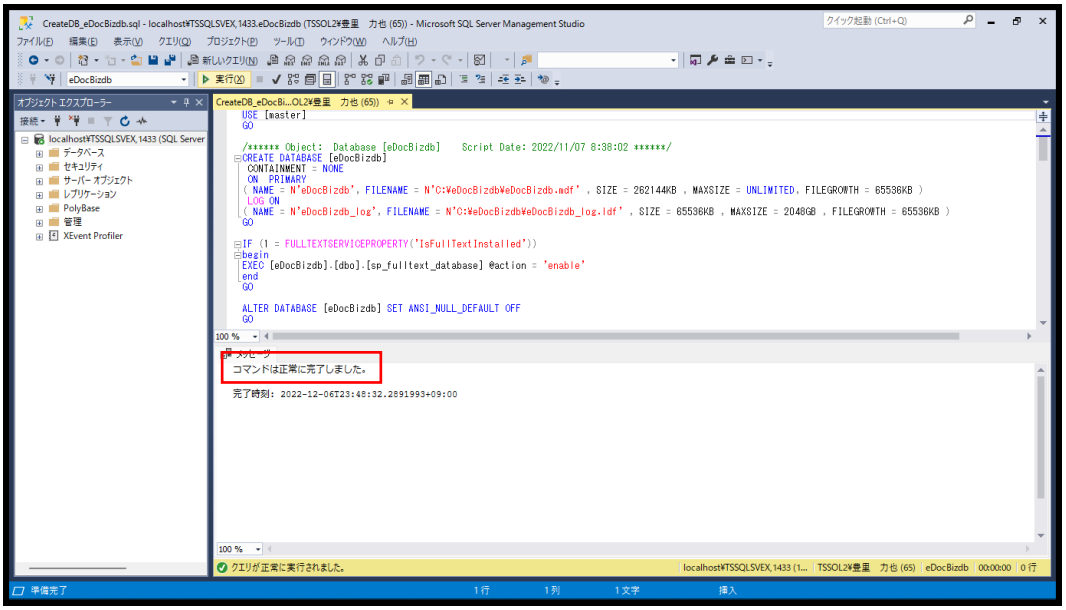


スクリプトの内容が表示されます。



実行をクリックします。

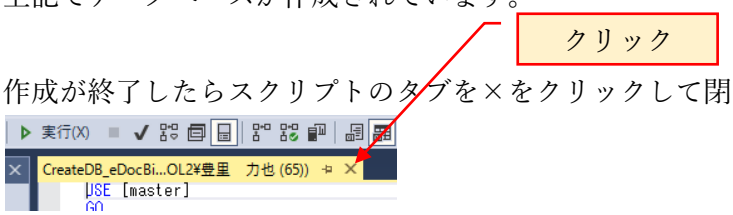




「コマンドは、正常に完了しました」。と表示されている事を確認します

上記でデータベースが作成されています。

作成が終了したらスクリプトのタブを×をクリックして閉じます。



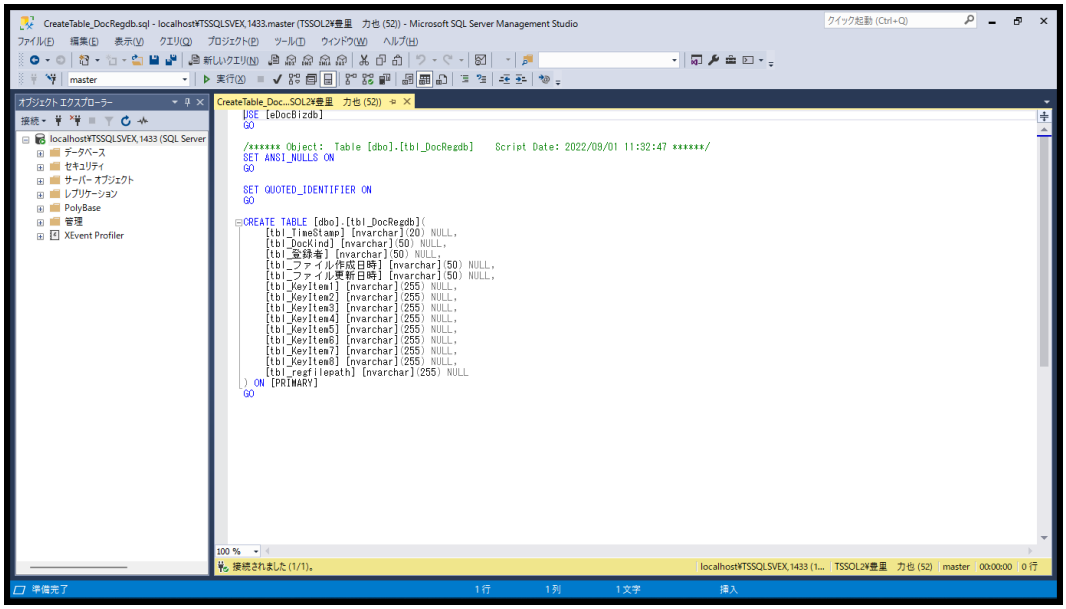
6.7 テーブルを作成する

テーブル作成用スクリプトファイルは、らくらく電子取引ダウンロードサイトからダウンロードした sqlscript フォルダ内に存在しています。

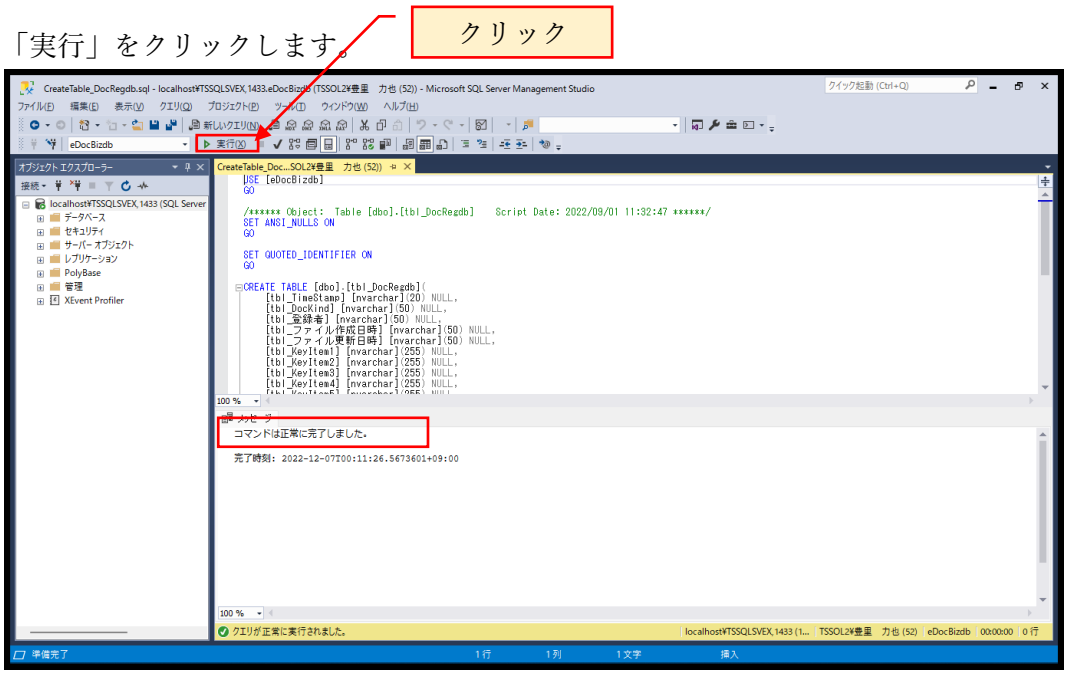
作成するテーブルとテーブル作成用 sql コマンドは以下の通りです。

作成するテーブル名	用途	sql コマンドファイル名
tbl_DocRegDB	検索キーデータ	CreateTable_DocRegDB.sql
tbl_UserAccount	利用者情報管理	CreateTable_UserAccount.sql
tbl_Log	ログ	CreateTable_Log.sql

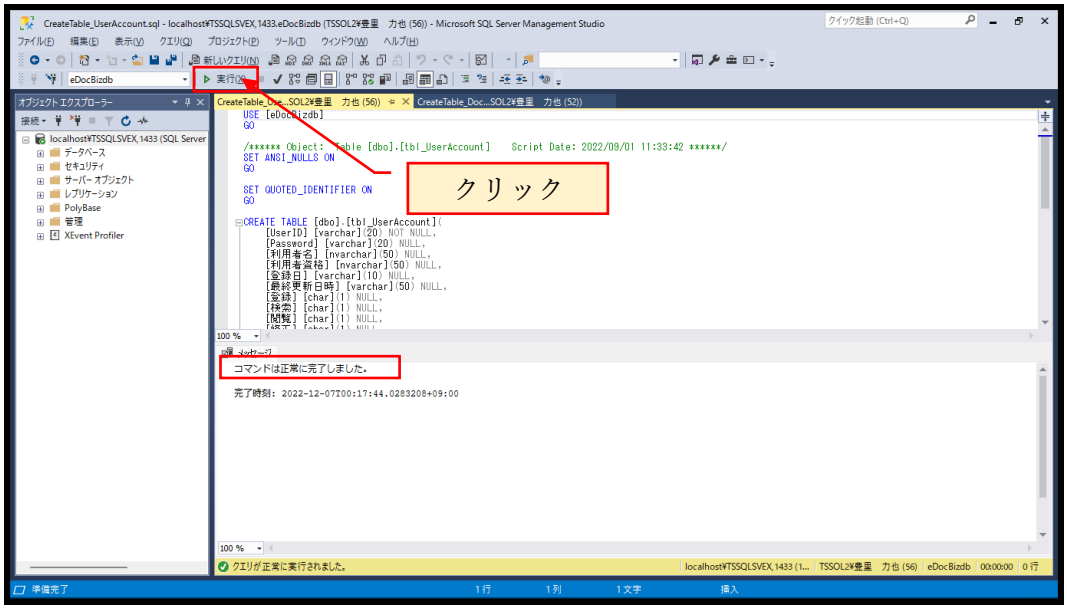
メニューバーのファイル＞開く＞ファイルから、あらかじめダウンロードした sql コマンドファイルの CreateTable_DocRegDB.sql を指定して取り込みます。



「実行」をクリックします。

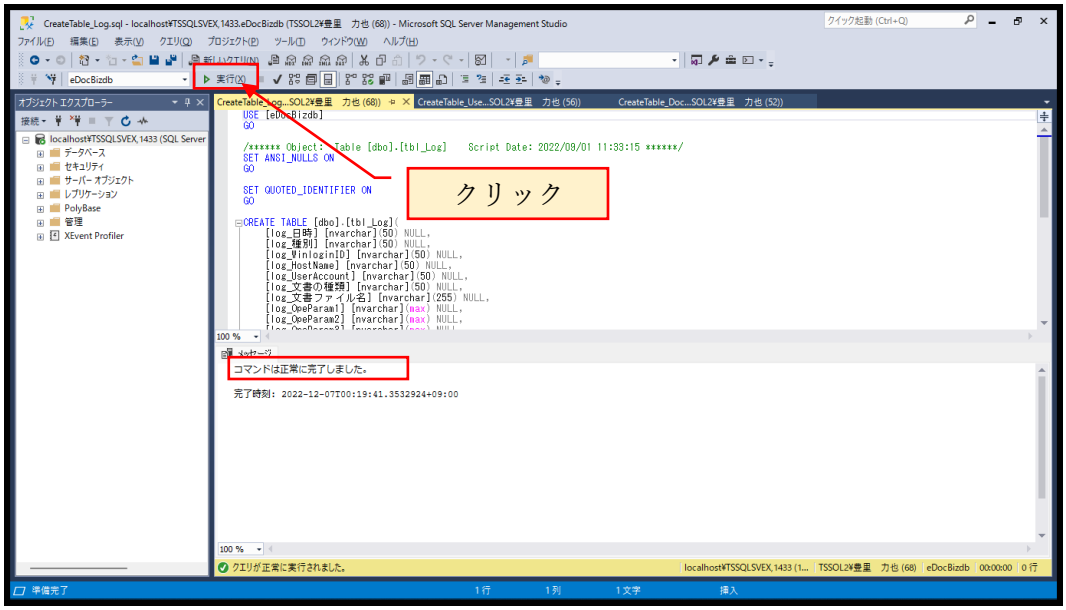


同様に、CreateTable_UserAccount.sql を開いて実行します。



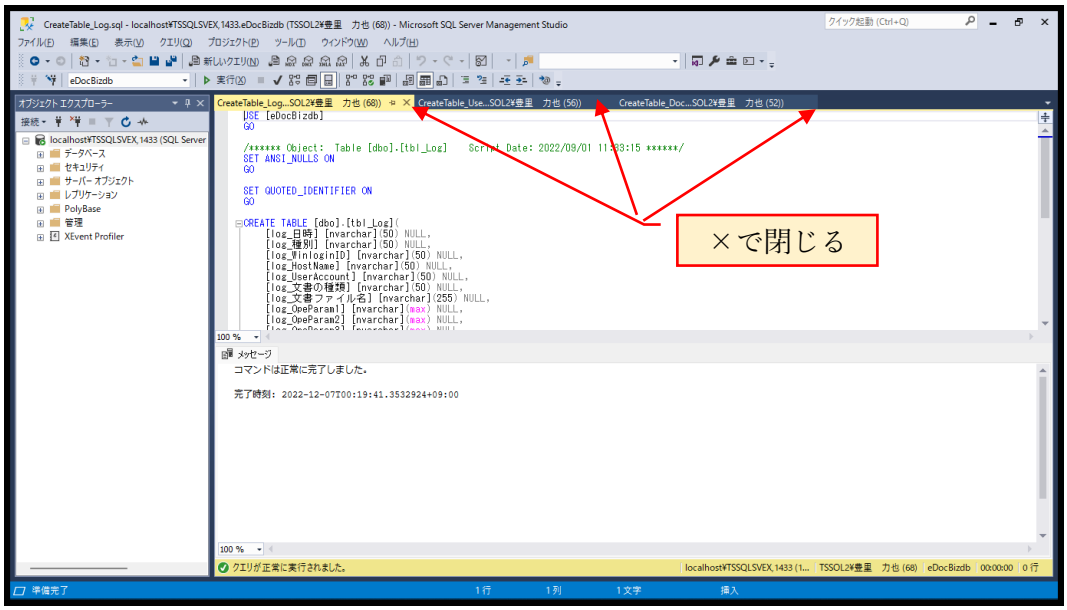
「コマンドは正常に完了しました。」と表示されている事を確認します。

同様に、CreateTable_Log.sql を開いて実行します。



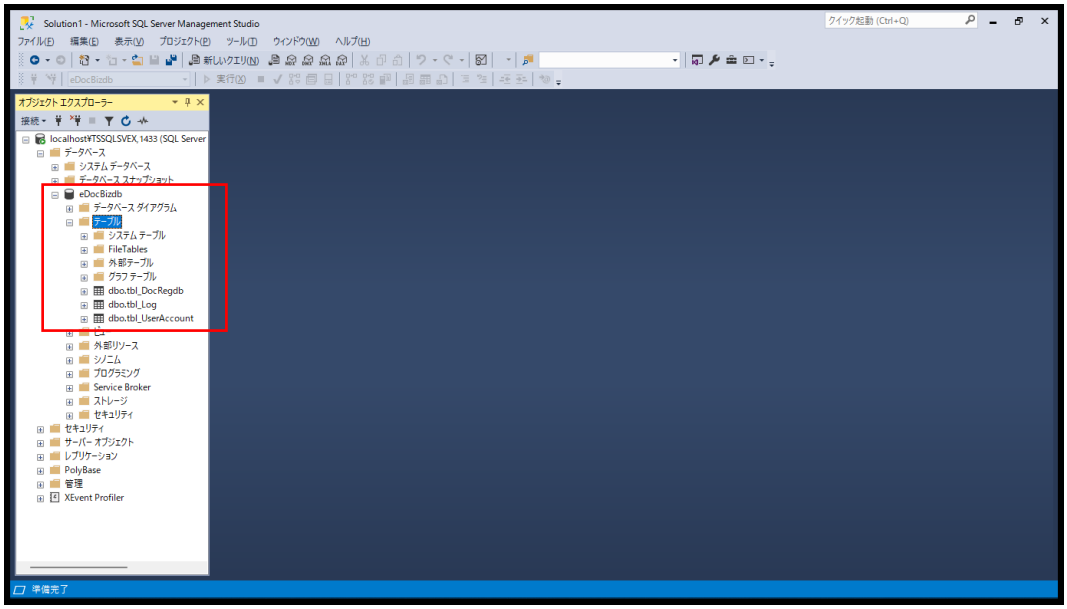
「コマンドは正常に完了しました。」と表示されている事を確認します。

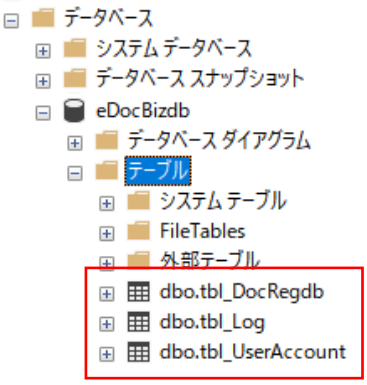
表示されているテーブル作成用のスクリプトタブを×で閉じます



データベース＞eDocBizdb＞テーブルを右クリックして表示されるショートカットメニューから、「最新の情報に更新」をクリックします。

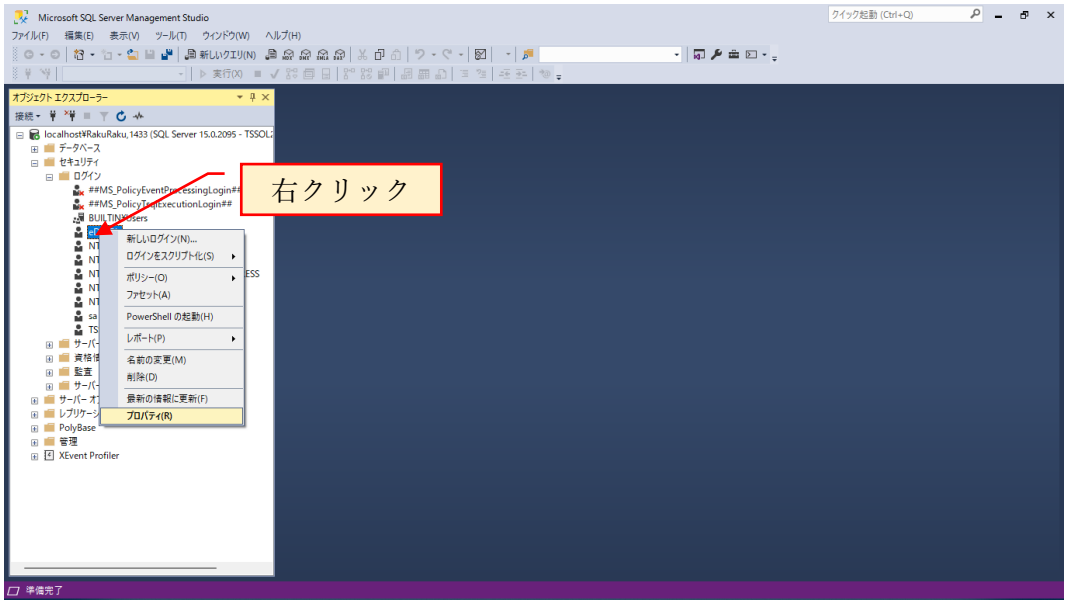
３つのテーブルが作成されている事を確認します。



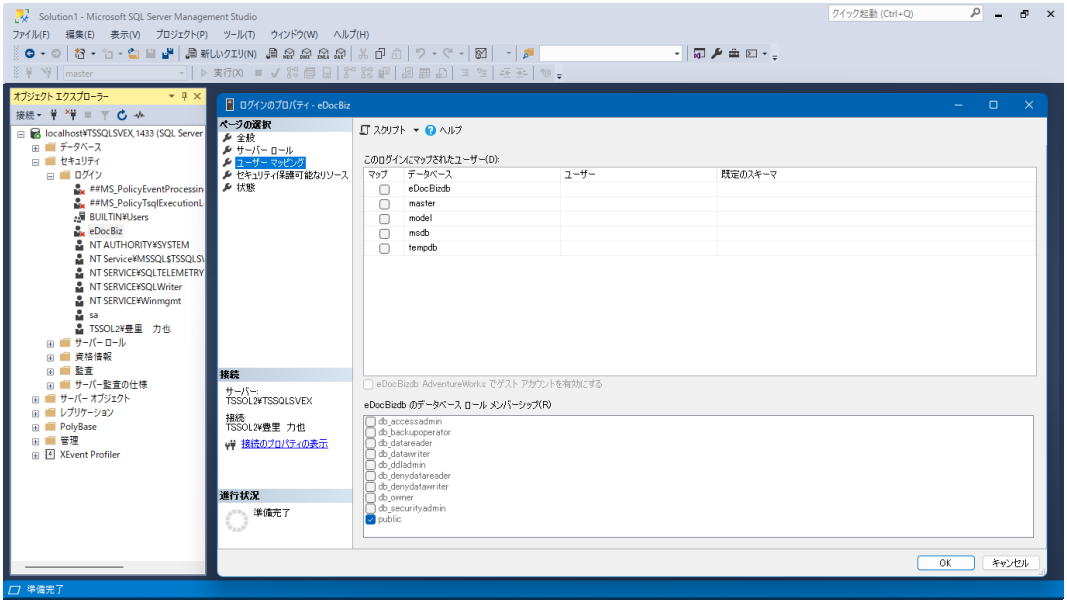


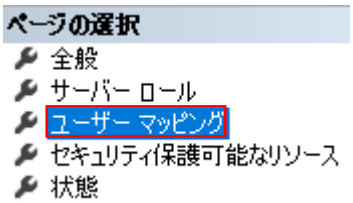
6.8 データベースユーザを作成する

セキュリティ＞ログイン＞eDocBiz を選択し右クリックでプロパティを表示します。

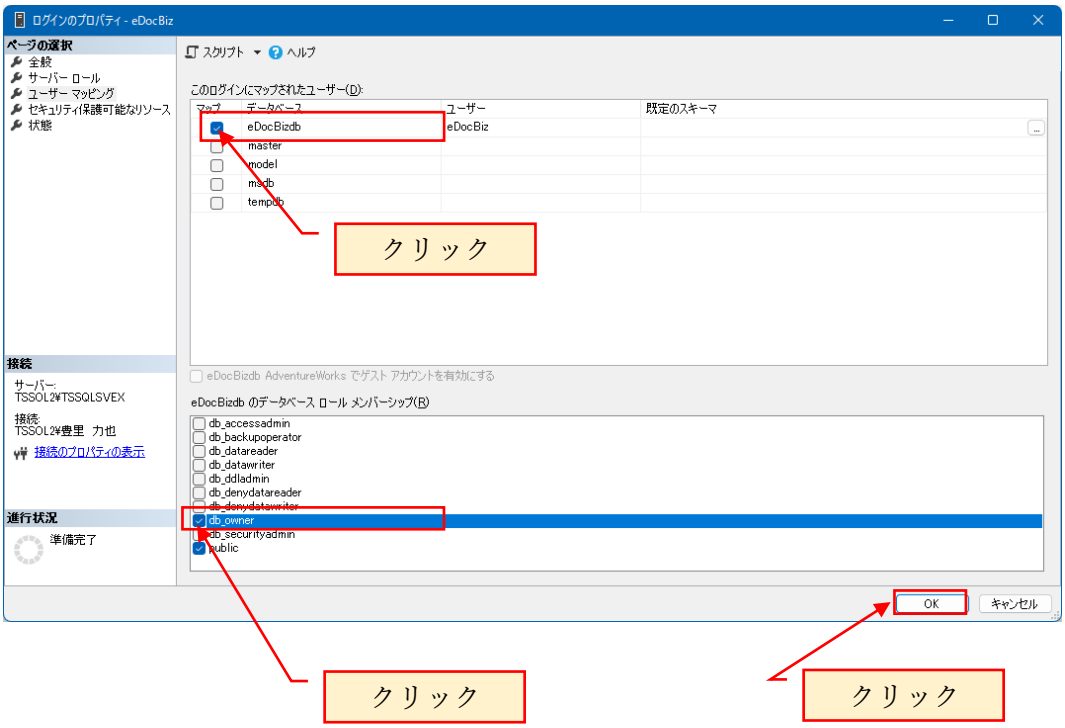


ユーザマッピングを選択

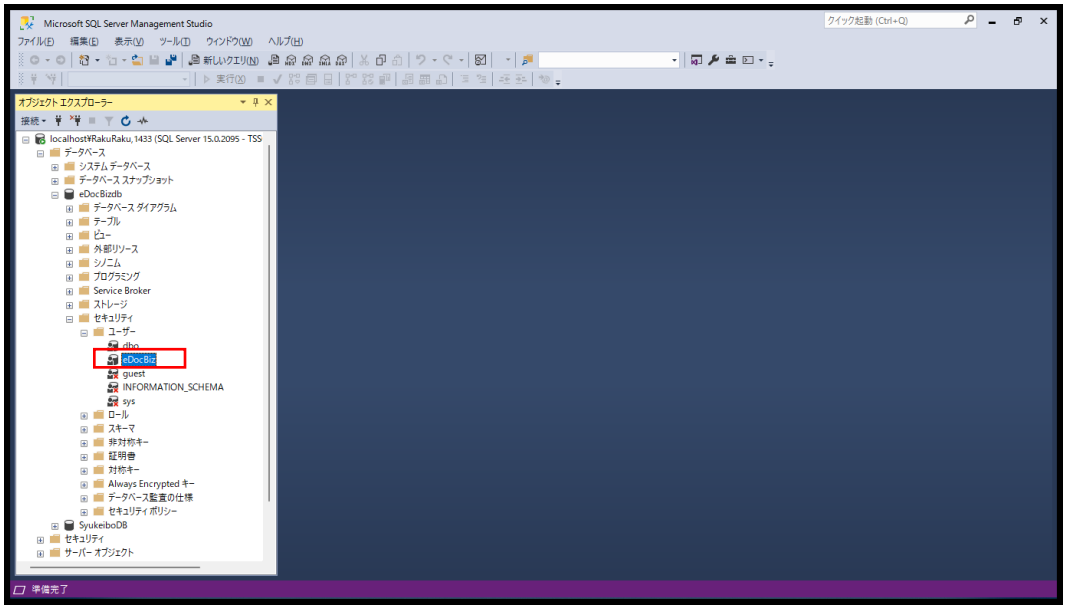




eDocBizdb にチェックを入れて、データベースロールメンバシップの db_owner にチェックを入れます。



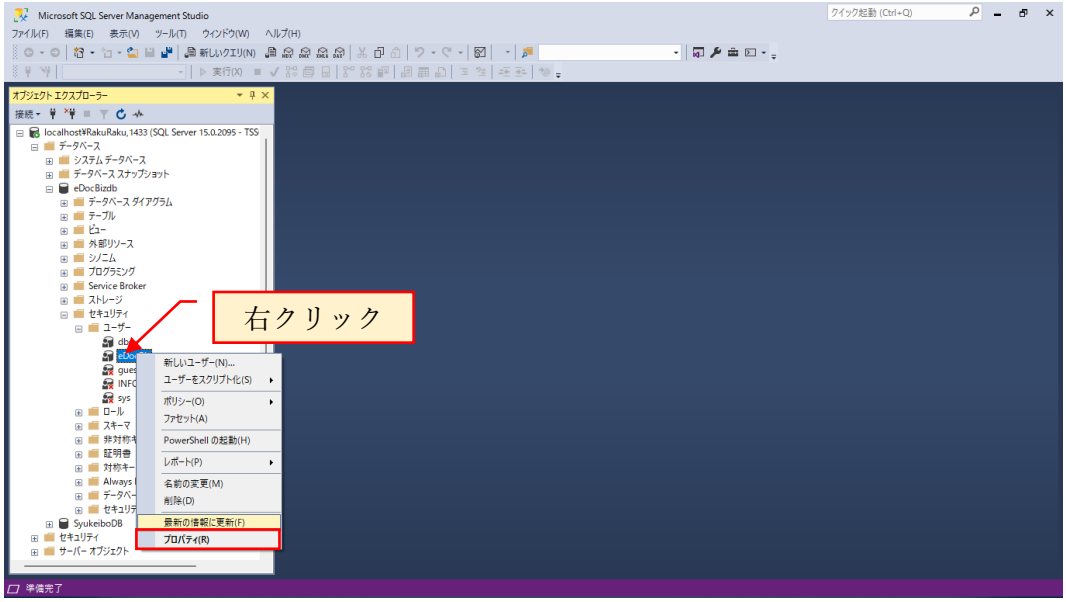
データベース＞eDocBizdb＞セキュリティ＞ユーザーに eDocBiz が作成されていることを確認します。



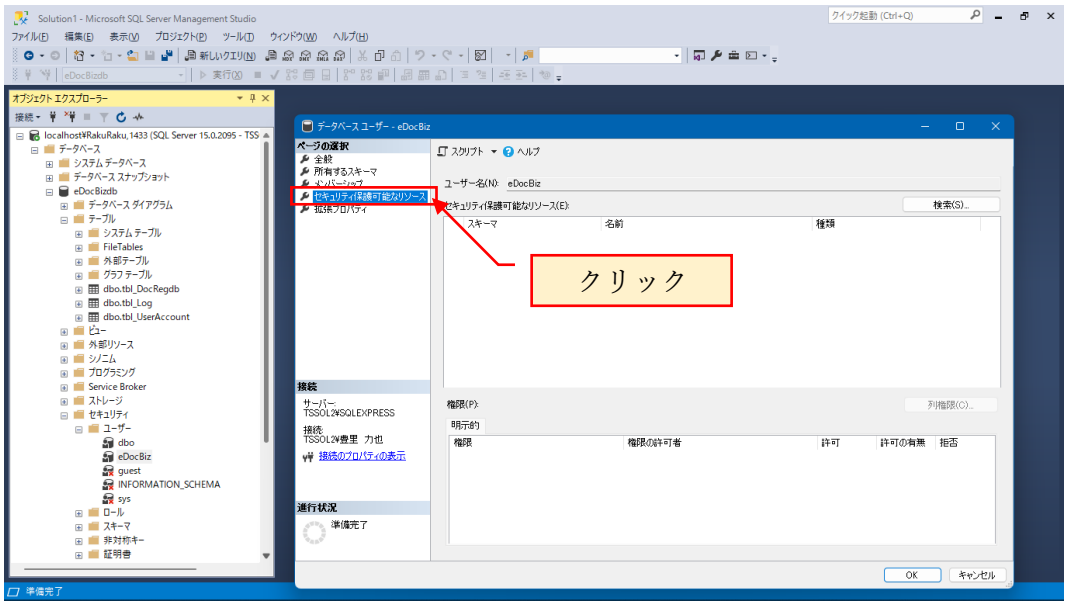
6.9 セキュリティ可能なリソースを設定する

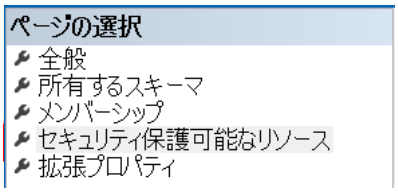
データベース＞eDocBizdb を展開

eDocBizdb＞セキュリティ＞ユーザ＞eDocBiz を選択してプロパティを表示します。

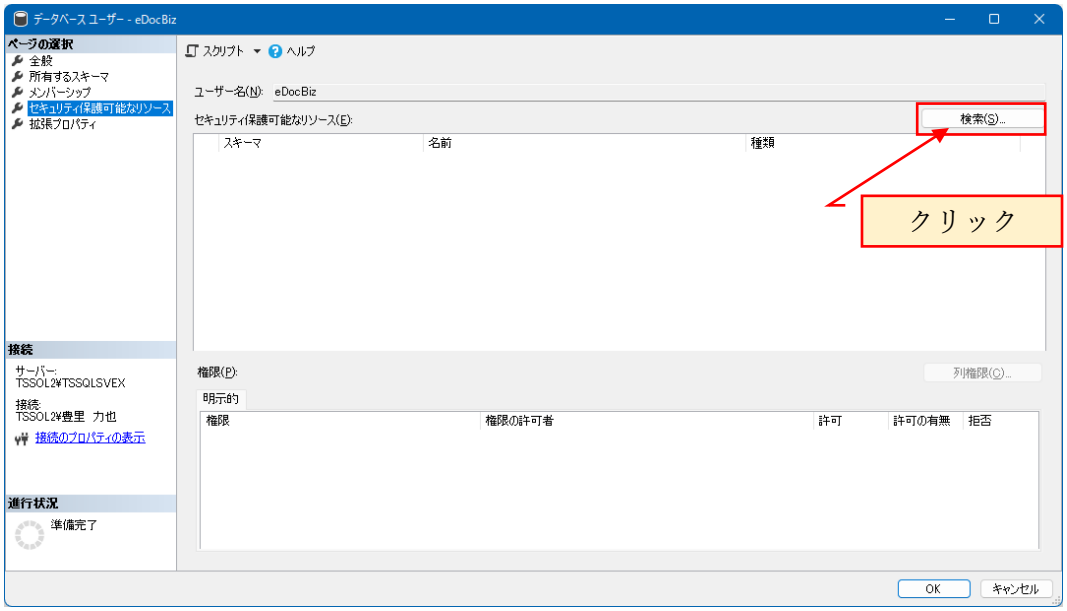


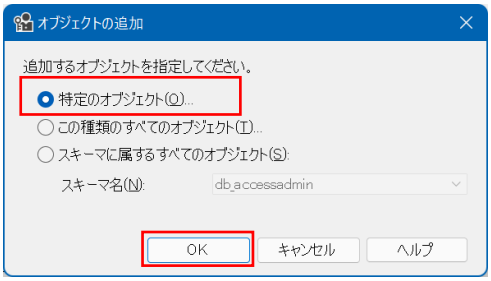
セキュリティ保護可能なリソースを選択します。

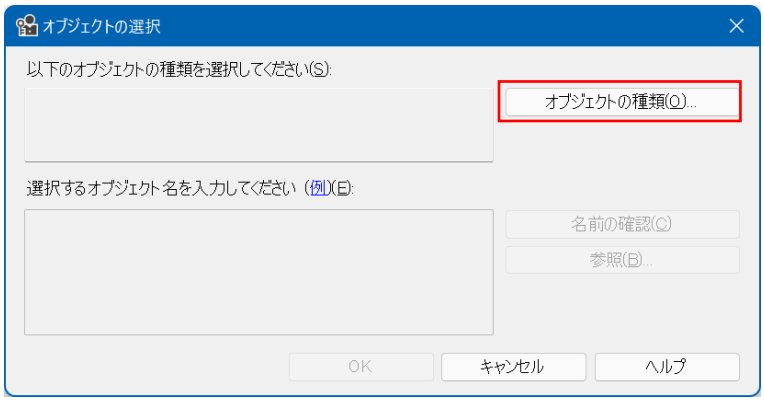


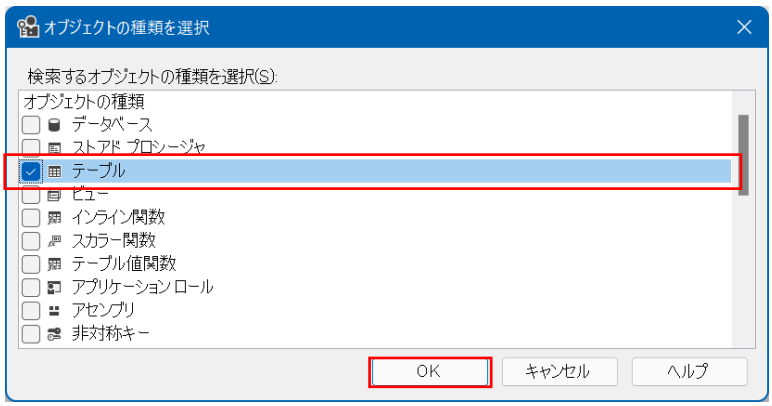


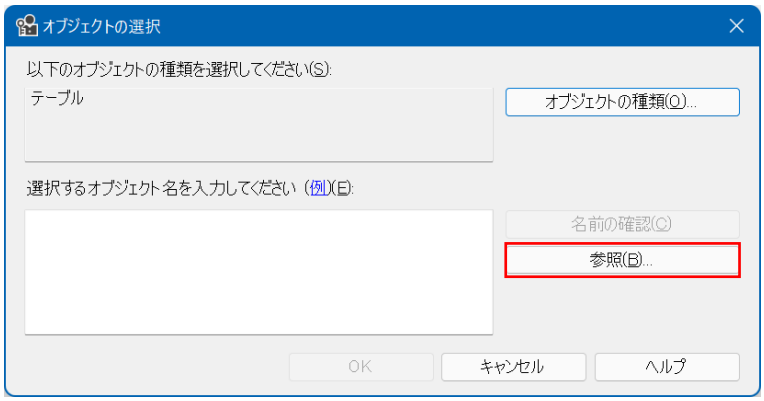
セキュリティ可能なリソースの「検索」をクリックします。

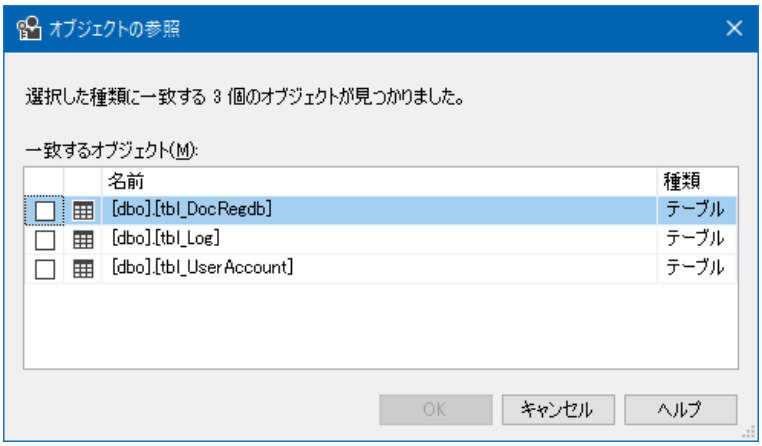




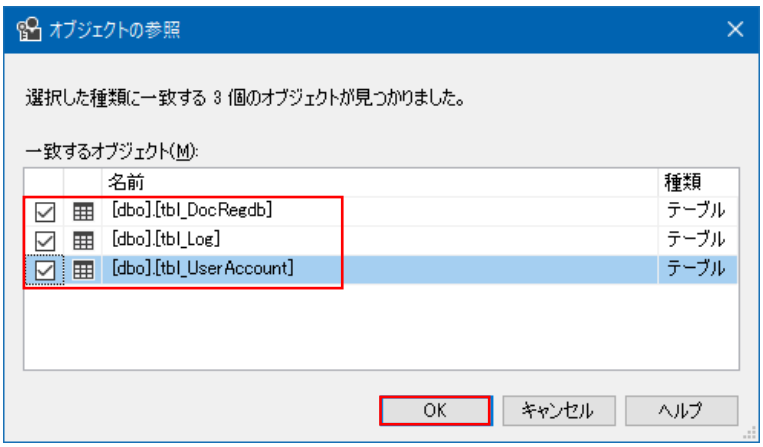


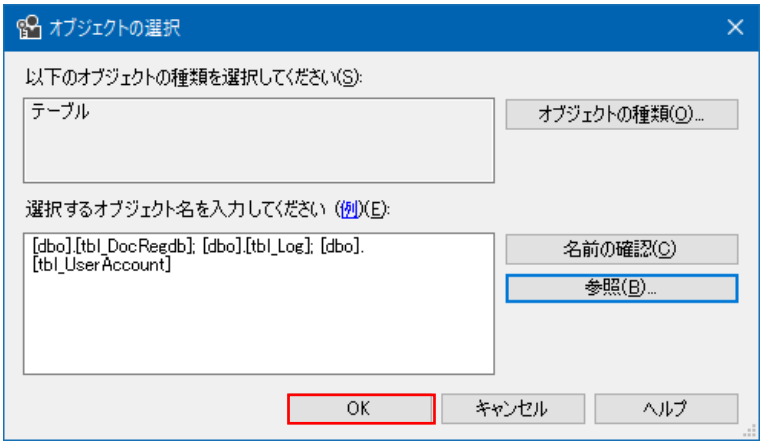


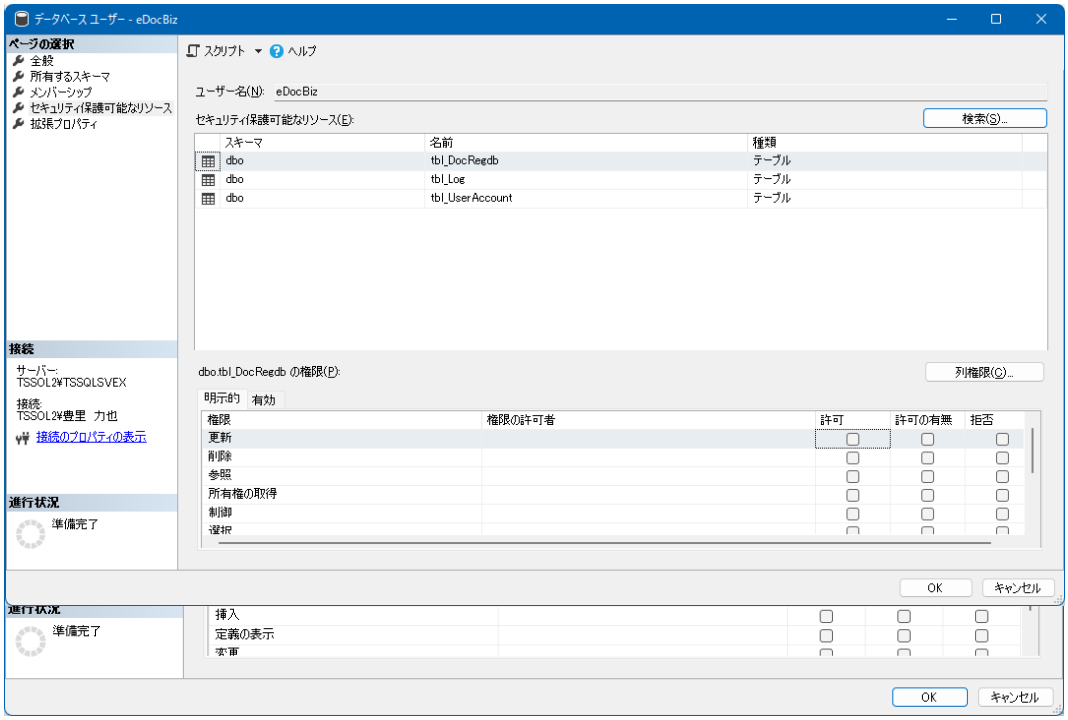




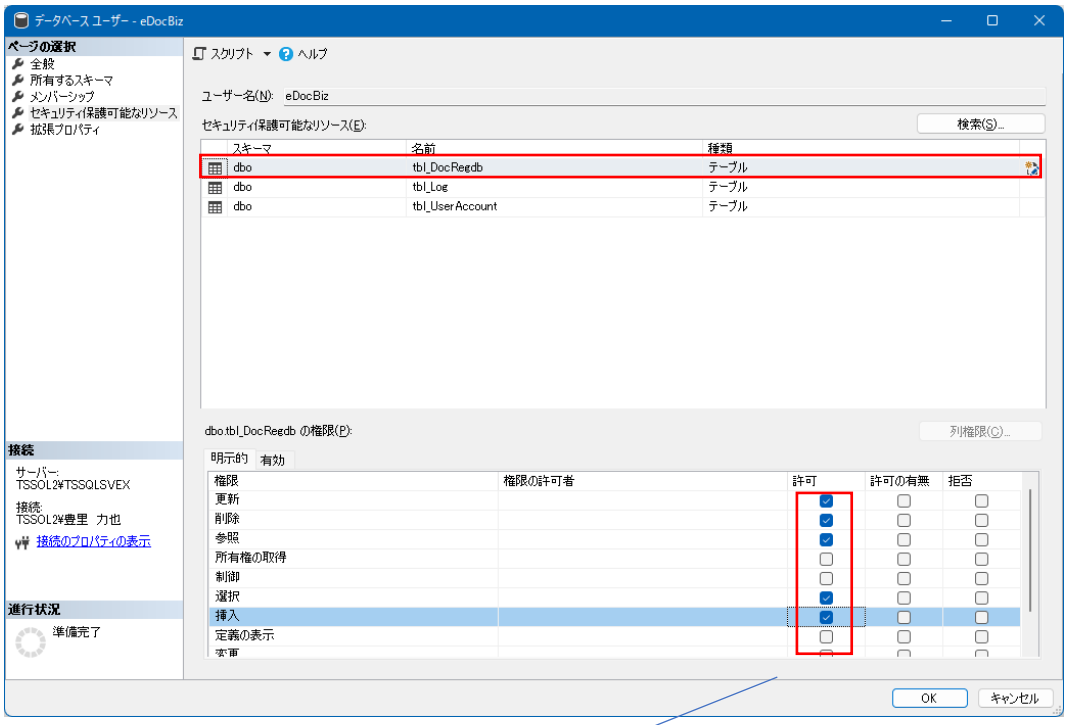
3 つのテーブルにチェックを入れます。



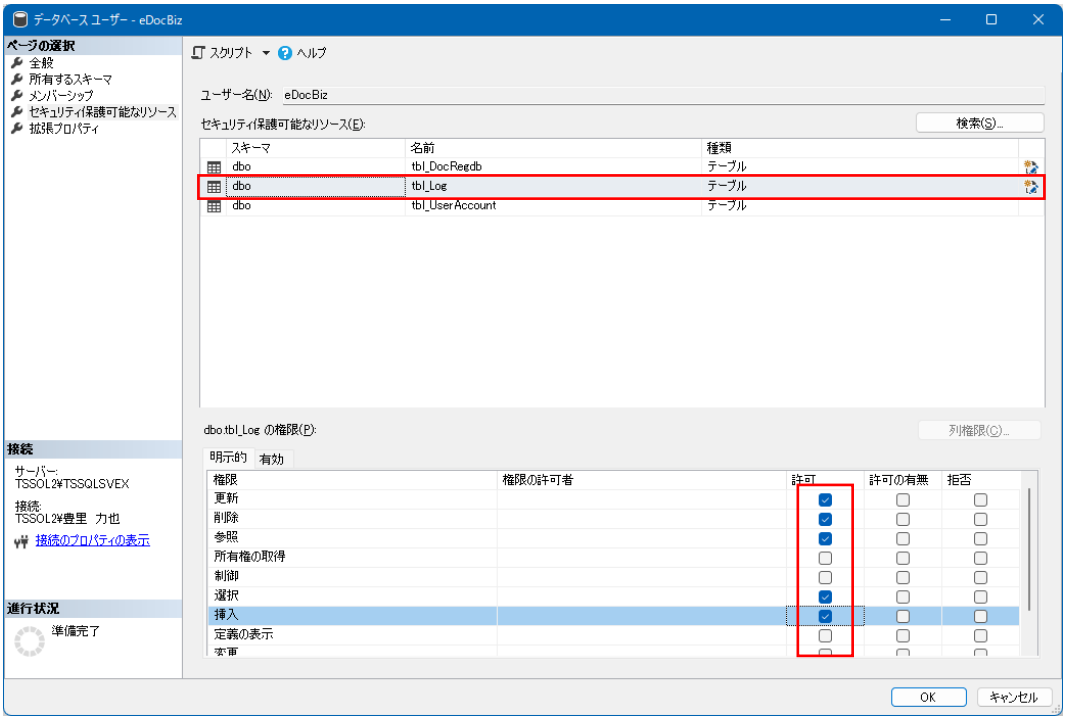




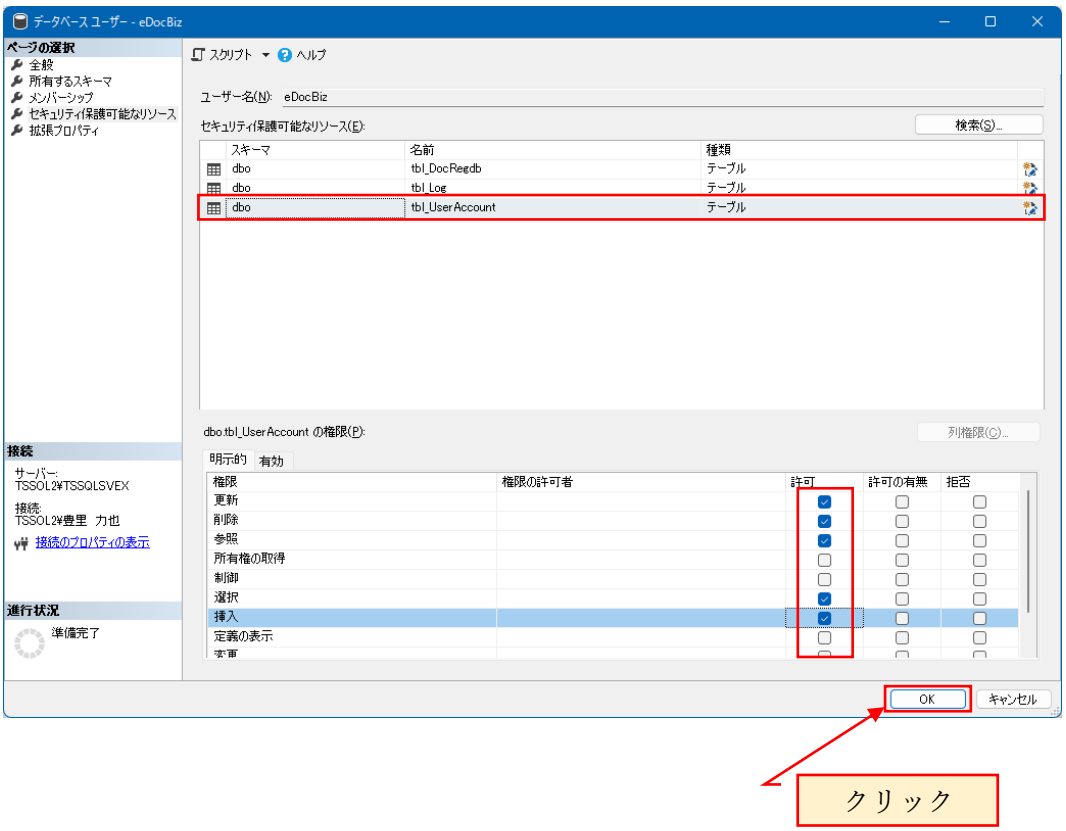
tbl_DocRegdb を選択し、下記の許可をチェックします。



同様に、tbl_Log を選択し、許可のチェックを入れます。



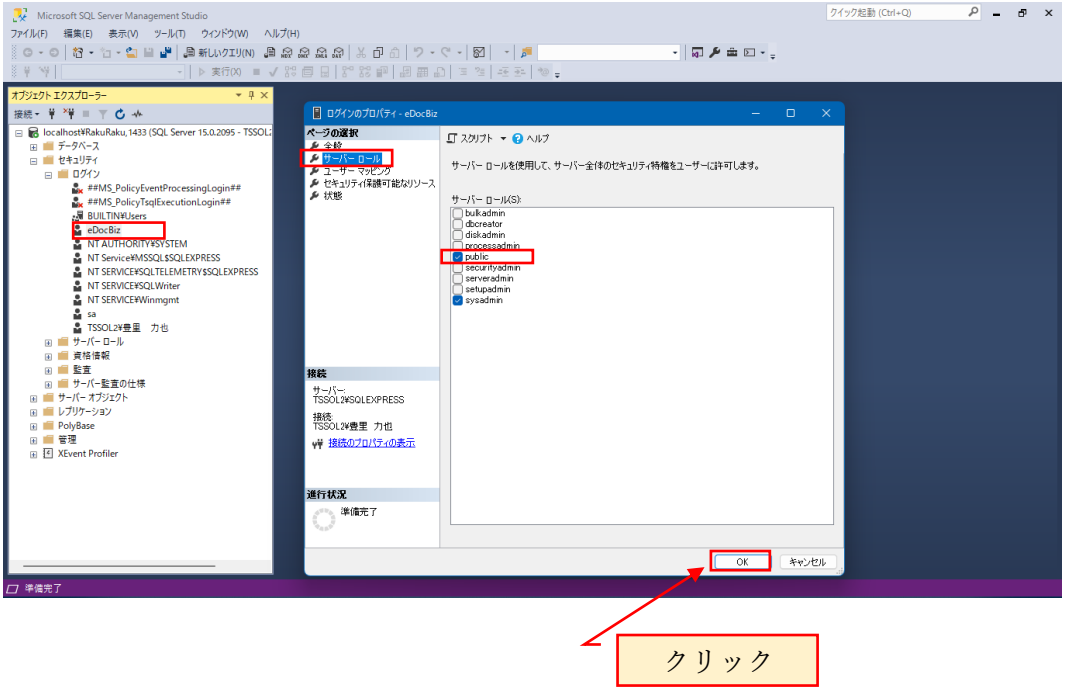
同様に、tbl_UserAccount を選択し、許可のチェックを入れます。



6.10 データベースユーザに、sysadmin ロールを付与する

セキュリティ＞ログイン＞eDocBiz を選択し右クリックでプロパティを表示

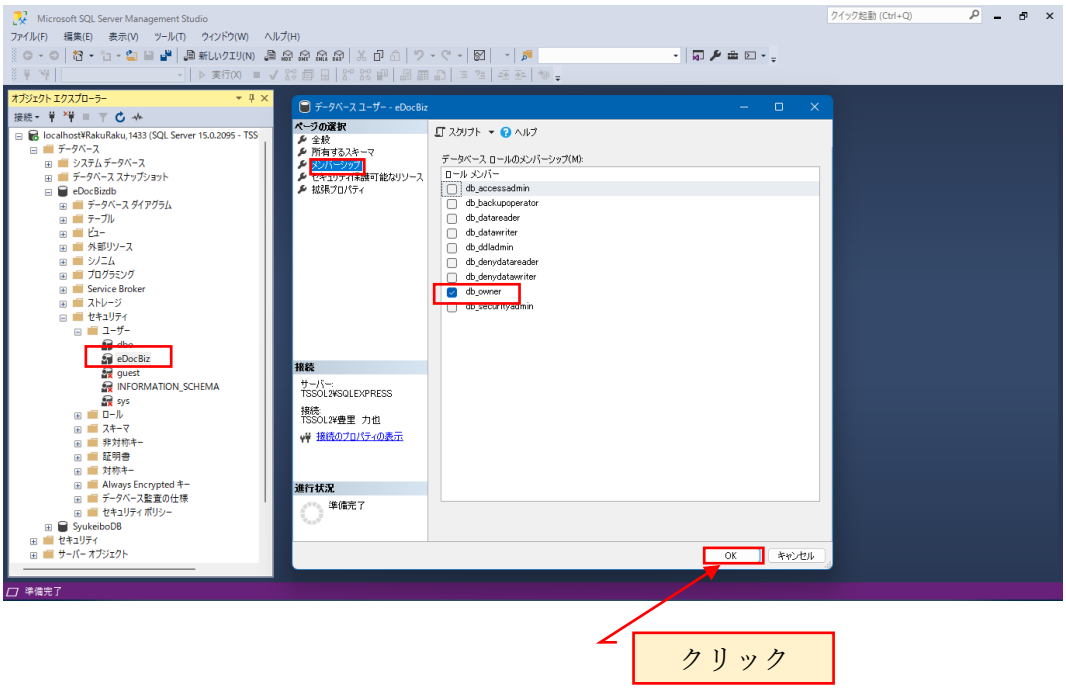
サーバロール ＞ sysadmin にチェックを入れます。



データベース＞eDocBizdb＞セキュリティ＞eDocBiz のプロパティを表示し、

メンバーシップを選択

ロールメンバーとして db_owner にチェックがあることを確認します。



接続解除をクリックしてデータベースの接続を解除します。

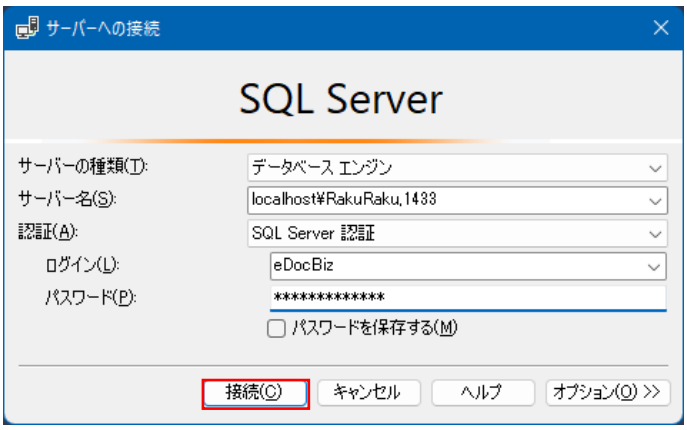
6.11 データベースがリモート接続可能な設定を行なう

接続をクリックし、SQL Server 認証でログインします。

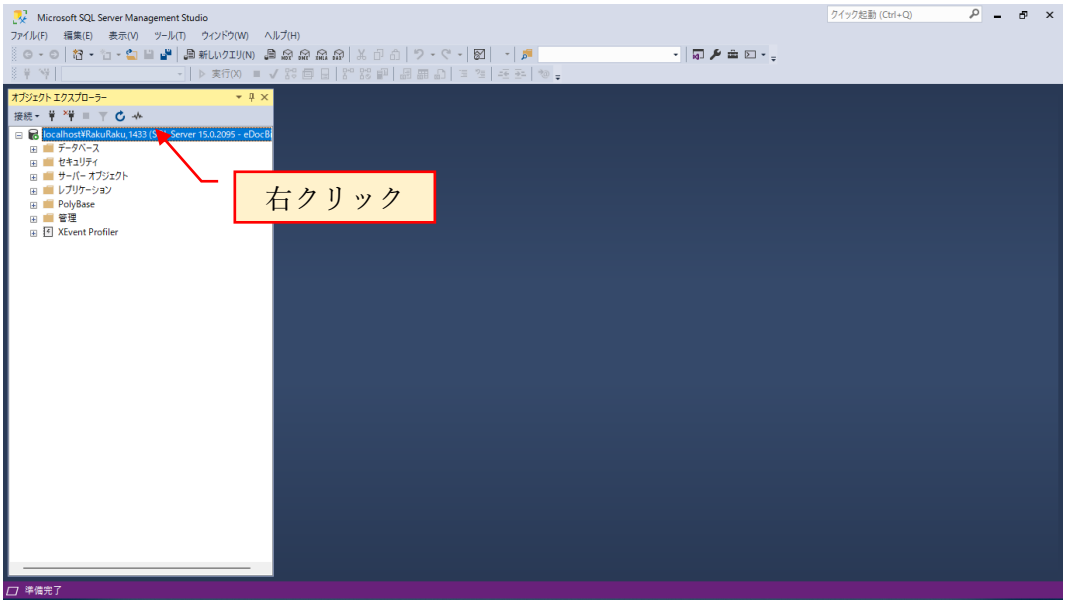
サーバ名は、下記では Tssol1 となっていますが、実際には SQL Server がインストールされている PC のホスト名となります。

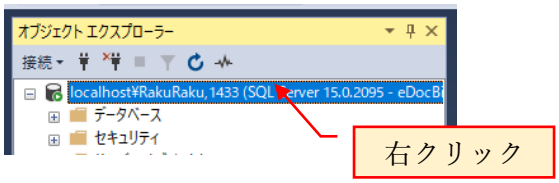
ログイン名：eDocBiz

パスワード：eDocBiz!admin

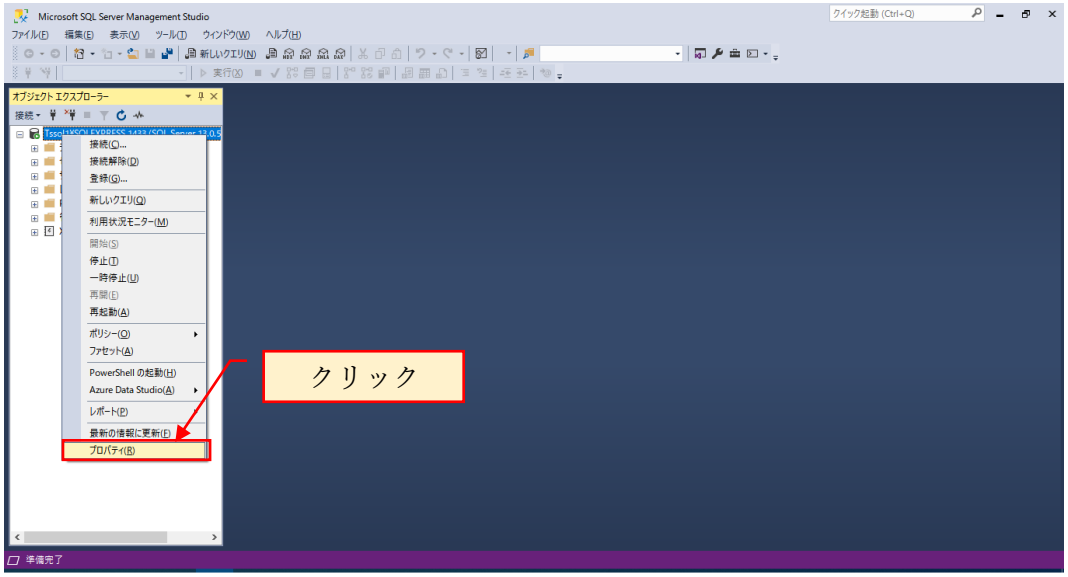


オブジェクトエクスプローラ

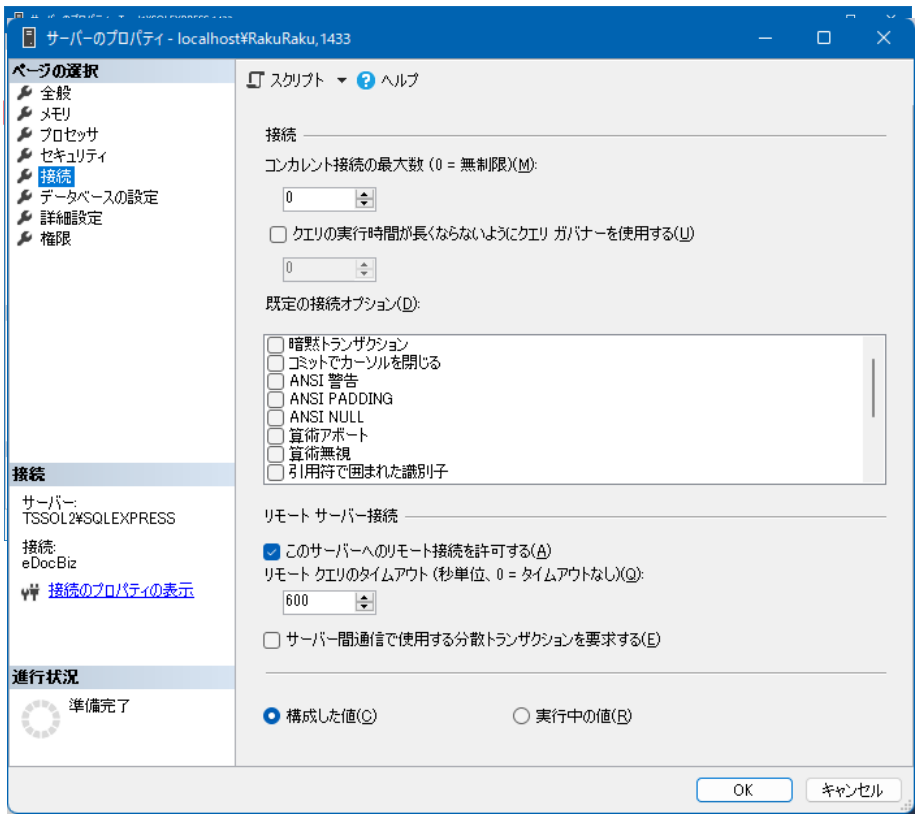




ショートカットメニューのプロパティをクリックすると下記の画面が表示されます。



ページの選択で「接続」をクリックし、「□このサーバへのリモート接続を許可する」のチェックボックスにチェックが入っていることを確認します。



閉じるボタンで SQL Server ManagementStudio を終了します。

以上で SQL Server の設定が終了です。

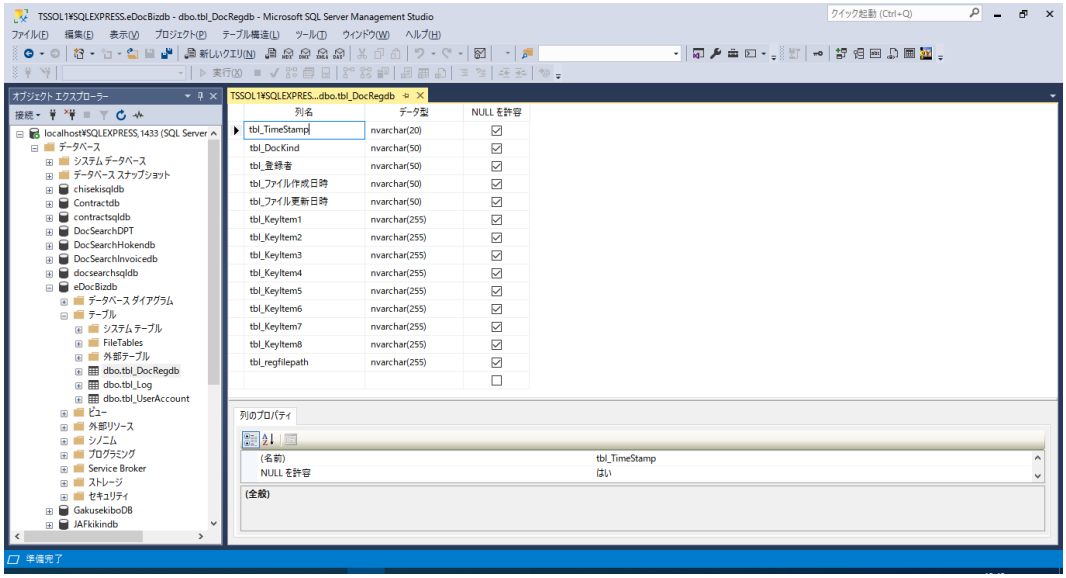
7. テーブル仕様

らくらく電子取引で使用するテーブルデザインについて以下に記載します。
SQL Management Studio を起動し、SQL Server 認証でログインします。

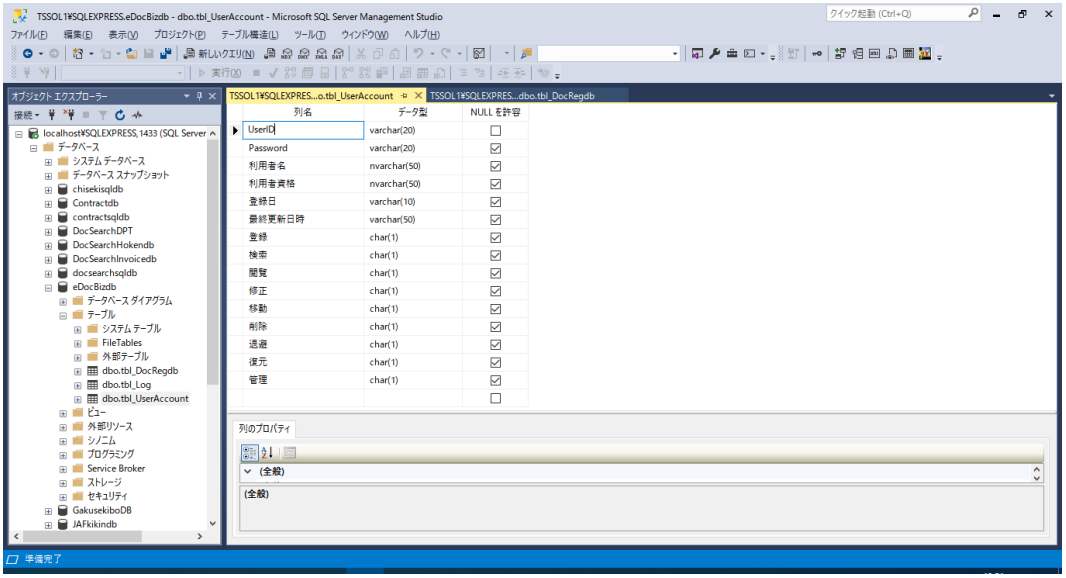
オブジェクトエクスプローラからデータベースを展開し、テーブルを選択します。
テーブルデザイン仕様を表示するには、各テーブルを選択した状態で右クリックし
「デザイン」をクリックすると表示されます。

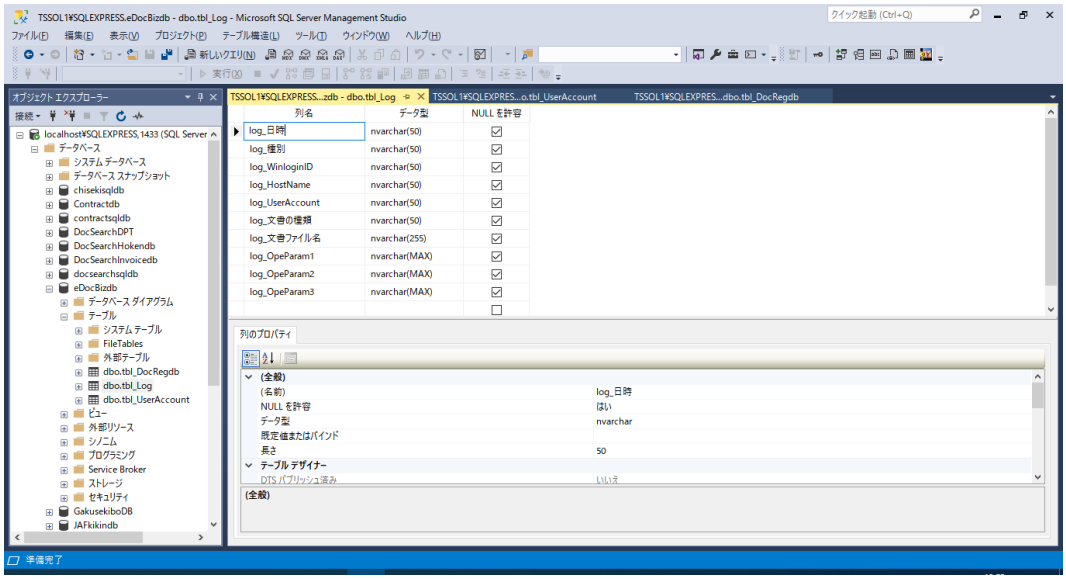
以下、テーブルデザインの内容を記載します。

検索データ：tbl_DocRegdb



利用者情報テーブル：tbl_UserAccount




TSSQL1¥SQLEXPRESS.eDocBizdb - dbo.tbl_Log - Microsoft SQL Server Management Studio
ファイル(F) 編集(E) 表示(V) プロジェクト(P) テーブル構造(L) ツール(T) ウィンドウ(W) ヘルプ(H)
新しいクエリ(N)
実行(X)
クイック起動 (Ctrl+Q)
オブジェクト エクスプローラー
接続
localhost¥SQLEXPRESS,1433 (SQL Server
データベース
システム データベース
データベース スナップショット
chisekisqldb
Contractdb
contractsqldb
DocSearchDPT
DocSearchHokendb
DocSearchInvoicedb
docsearchsqldb
eDocBizdb
データベース ダイアグラム
テーブル
システム テーブル
FileTables
外部テーブル
dbo.tbl_DocRegdb
dbo.tbl_Log
dbo.tbl_UserAccount
ビュー
外部リソース
シノニム
プログラミング
Service Broker
ストレージ
セキュリティ
GakusekiboDB
JAFkikindb
TSSQL1¥SQLEXPRESS...zdb - dbo.tbl_Log
TSSQL1¥SQLEXPRES...o.tbl_UserAccount
TSSQL1¥SQLEXPRES...dbo.tbl_DocRegdb
列名 データ型 NULL を許容
log_日時 nvarchar(50)
log_種別 nvarchar(50)
log_WinloginID nvarchar(50)
log_HostName nvarchar(50)
log_UserAccount nvarchar(50)
log_文書の種類 nvarchar(50)
log_文書ファイル名 nvarchar(255)
log_OpeParam1 nvarchar(MAX)
log_OpeParam2 nvarchar(MAX)
log_OpeParam3 nvarchar(MAX)
列のプロパティ
(全般)
(名前) log_日時
NULL を許容 はい
データ型 nvarchar
既定値またはバインド
長さ 50
テーブル デザイナー
DTS パブリッシュ済み いいえ
(全般)
準備完了

8. 添付資料

8.1 データベース作成用 SQL スクリプト

ファイル名：CreateDB_eDocBizdb.sql

スクリプトの内容：

```
USE [master]
GO

/****** Object:  Database [eDocBizdb]    Script Date: 2022/11/07 8:38:02 ******/
CREATE DATABASE [eDocBizdb]
 CONTAINMENT = NONE
 ON  PRIMARY
( NAME = N'eDocBizdb', FILENAME = N'C:¥eDocBizdb¥eDocBizdb.mdf' , SIZE = 262144KB , MAXSIZE = UNLIMITED, FILEGROWTH = 65536KB )
 LOG ON
( NAME = N'eDocBizdb_log', FILENAME = N'C:¥eDocBizdb¥eDocBizdb_log.ldf' , SIZE = 65536KB , MAXSIZE = 2048GB , FILEGROWTH = 65536KB )
GO

IF (1 = FULLTEXTSERVICEPROPERTY('IsFullTextInstalled'))
begin
EXEC [eDocBizdb].[dbo].[sp_fulltext_database] @action = 'enable'
end
GO

ALTER DATABASE [eDocBizdb] SET ANSI_NULL_DEFAULT OFF
GO

ALTER DATABASE [eDocBizdb] SET ANSI_NULLS OFF
GO

ALTER DATABASE [eDocBizdb] SET ANSI_PADDING OFF
GO

ALTER DATABASE [eDocBizdb] SET ANSI_WARNINGS OFF
GO

ALTER DATABASE [eDocBizdb] SET ARITHABORT OFF
```

```
GO

ALTER DATABASE [eDocBizdb] SET AUTO_CLOSE OFF
GO

ALTER DATABASE [eDocBizdb] SET AUTO_SHRINK OFF
GO

ALTER DATABASE [eDocBizdb] SET AUTO_UPDATE_STATISTICS ON
GO

ALTER DATABASE [eDocBizdb] SET CURSOR_CLOSE_ON_COMMIT OFF
GO

ALTER DATABASE [eDocBizdb] SET CURSOR_DEFAULT    GLOBAL
GO

ALTER DATABASE [eDocBizdb] SET CONCAT_NULL_YIELDS_NULL OFF
GO

ALTER DATABASE [eDocBizdb] SET NUMERIC_ROUNDABORT OFF
GO

ALTER DATABASE [eDocBizdb] SET QUOTED_IDENTIFIER OFF
GO

ALTER DATABASE [eDocBizdb] SET RECURSIVE_TRIGGERS OFF
GO

ALTER DATABASE [eDocBizdb] SET    DISABLE_BROKER
GO

ALTER DATABASE [eDocBizdb] SET AUTO_UPDATE_STATISTICS_ASYNC OFF
GO

ALTER DATABASE [eDocBizdb] SET DATE_CORRELATION_OPTIMIZATION OFF
GO

ALTER DATABASE [eDocBizdb] SET TRUSTWORTHY OFF
```

```
GO

ALTER DATABASE [eDocBizdb] SET ALLOW_SNAPSHOT_ISOLATION OFF
GO

ALTER DATABASE [eDocBizdb] SET PARAMETERIZATION SIMPLE
GO

ALTER DATABASE [eDocBizdb] SET READ_COMMITTED_SNAPSHOT OFF
GO

ALTER DATABASE [eDocBizdb] SET HONOR_BROKER_PRIORITY OFF
GO

ALTER DATABASE [eDocBizdb] SET RECOVERY SIMPLE
GO

ALTER DATABASE [eDocBizdb] SET    MULTI_USER
GO

ALTER DATABASE [eDocBizdb] SET PAGE_VERIFY CHECKSUM
GO

ALTER DATABASE [eDocBizdb] SET DB_CHAINING OFF
GO

ALTER DATABASE [eDocBizdb] SET FILESTREAM( NON_TRANSACTED_ACCESS =
OFF )
GO

ALTER DATABASE [eDocBizdb] SET TARGET_RECOVERY_TIME = 60 SECONDS
GO

ALTER DATABASE [eDocBizdb] SET DELAYED_DURABILITY = DISABLED
GO

ALTER DATABASE [eDocBizdb] SET QUERY_STORE = OFF
GO
```

```
USE [eDocBizdb]
GO

ALTER DATABASE SCOPED CONFIGURATION SET LEGACY_CARDINALITY_ESTIMATION = OFF;
GO

ALTER DATABASE SCOPED CONFIGURATION SET MAXDOP = 0;
GO

ALTER DATABASE SCOPED CONFIGURATION SET PARAMETER_SNIFFING = ON;
GO

ALTER DATABASE SCOPED CONFIGURATION SET QUERY_OPTIMIZER_HOTFIXES = OFF;
GO

ALTER DATABASE [eDocBizdb] SET  READ_WRITE
GO
```

8.2 検索キーデータテーブル作成用 SQL スクリプト

ファイル名：CreateTable_DocRegDB.sql
スクリプトの内容：

```
USE [eDocBizdb]
GO

/****** Object:  Table [dbo].[tbl_DocRegdb]    Script Date: 2022/08/21 9:21:38
******/
SET ANSI_NULLS ON
GO

SET QUOTED_IDENTIFIER ON
GO

CREATE TABLE [dbo].[tbl_DocRegdb](
  [tbl_TimeStamp] [nvarchar](20) NULL,
  [tbl_DocKind] [nvarchar](50) NULL,
  [tbl_登録者] [nvarchar](50) NULL,
  [tbl_ファイル作成日時] [nvarchar](50) NULL,
  [tbl_ファイル更新日時] [nvarchar](50) NULL,
  [tbl_KeyItem1] [nvarchar](255) NULL,
  [tbl_KeyItem2] [nvarchar](255) NULL,
  [tbl_KeyItem3] [nvarchar](255) NULL,
  [tbl_KeyItem4] [nvarchar](255) NULL,
  [tbl_KeyItem5] [nvarchar](255) NULL,
  [tbl_KeyItem6] [nvarchar](255) NULL,
  [tbl_KeyItem7] [nvarchar](255) NULL,
  [tbl_KeyItem8] [nvarchar](255) NULL,
  [tbl_regfilepath] [nvarchar](255) NULL
) ON [PRIMARY]
GO
```

8.3 利用者情報テーブル作成用 SQL スクリプト

ファイル名：CreateTable_UserAccount.sql
スクリプトの内容：

```
USE [eDocBizdb]
GO

/****** Object:  Table [dbo].[tbl_UserAccount]  Script Date: 2022/08/21
9:22:12 ******/
SET ANSI_NULLS ON
GO

SET QUOTED_IDENTIFIER ON
GO

CREATE TABLE [dbo].[tbl_UserAccount](
  [UserID] [varchar](20) NOT NULL,
  [Password] [varchar](20) NULL,
  [利用者名] [nvarchar](50) NULL,
  [利用者資格] [nvarchar](50) NULL,
  [登録日] [varchar](10) NULL,
  [最終更新日時] [varchar](50) NULL,
  [登録] [char](1) NULL,
  [検索] [char](1) NULL,
  [閲覧] [char](1) NULL,
  [修正] [char](1) NULL,
  [移動] [char](1) NULL,
  [削除] [char](1) NULL,
  [退避] [char](1) NULL,
  [復元] [char](1) NULL,
  [管理] [char](1) NULL
) ON [PRIMARY]
GO
```

8.4 ログテーブル作成用 SQL スクリプト

ファイル名：CreateTable_Log.sql
スクリプトの内容：

```
USE [eDocBizdb]
GO

/****** Object:  Table [dbo].[tbl_Log]  Script Date: 2022/08/21 15:47:09 ******/
SET ANSI_NULLS ON
GO

SET QUOTED_IDENTIFIER ON
GO

CREATE TABLE [dbo].[tbl_Log](
  [log_日時] [nvarchar](50) NULL,
  [log_種別] [nvarchar](50) NULL,
  [log_WinloginID] [nvarchar](50) NULL,
  [log_HostName] [nvarchar](50) NULL,
  [log_UserAccount] [nvarchar](50) NULL,
  [log_文書の種類] [nvarchar](50) NULL,
  [log_文書ファイル名] [nvarchar](255) NULL,
  [log_OpeParam1] [nvarchar](max) NULL,
  [log_OpeParam2] [nvarchar](max) NULL,
  [log_OpeParam3] [nvarchar](max) NULL
) ON [PRIMARY] TEXTIMAGE_ON [PRIMARY]
GO
```

以上

株式会社豊里システムソリューション

〒112-0005
東京都文京区水道２－１１－５
明日香ビル１階（Ｚｉｔビジネスセンター内）
E-Mail：info@tssol.jp
https://www.tssol.jp/